大正七年十月廿五日

關西建築協會雜誌

第一輯 第十二号



關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ貫徹シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其責行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ選過及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各種ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ脫會ヲ命告シ又ハ例會ノ決議ノ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭　一名

副會頭　一名

理事長　一名

理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一　名

二　計　一　名

三　編　輯　三　名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告スル但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル講演會ノ開催

二　建築ニ關スル調査研究

調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

決議事項ノ實行促進

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金貳拾圓ヲ本會ニ擔出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金壹圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第一回懸賞圖案募集

本誌表紙圖案を左の規定により募集す。

一　題字　關西建築協會雜誌とし、字体は明快なるべし。

二　圖案寸法　竪七寸三分、横五寸（菊版）とす。

三　圖面「ワットマン」紙を用ひ、寸法は其八分ノ一大とす。

四　彩色　二色迄とす。

五　意匠　本誌の特色を發揮すべし。

六　締切期日　十二月二十五日とす。

七　賞金　金貳拾圓宛入選者五名。

八　入選圖案は本會の所有とす。

九　審査は本會理事會にて決定す。

十　暗號は必ず圖面に記入し、別に性名及現住所を記入せる密封を添附し、本會事務所宛送附すべし。

以上

大正七年十月

關西建築協會

關西建築協會雜誌 第壹輯 第十二號

目次

□ 繪
大阪市南部の娯樂地區(三色版)
墺都と洪都(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)(十一)
都市建築の今昔(十八)

△都市建築と物價暴騰……一
△都市計畫より見たる遷都(下)……會員 片岡安……二
△物價騰貴と都市社會政策……都市協會幹事 藤原俊雄……一五
△本邦森林と建築用材に付いて(六)……會員 谷民藏……二一
△運河に就いて(上)……東京高等商業學校教授 石川文吾……三五
△都市と建築……會員 都市研究生……四五
□三十年後の大阪(四)
△名流の住宅觀
□應接間だけを洋風に……陸軍中將前陸軍大臣 楠瀨幸彥氏談……五二

□人手主義を廢して……國民經濟調査委員法學博士 小山温氏談 五五
□經濟衛生實用の見地から……貴族院議員 内田嘉吉氏談 五八
△建築と趣味(二)……會員 香櫨書生 六〇
△セントルイス市に於ける地帶式都市計畫條例……會員 伊藤正文 六六
△京都古建築觀(二)……特別賛助員 伊藤清造 七一
△懸賞規定と思想の推移……會員 矮燕生 八二
△米國に於ける職工住宅經營法(三)……會員 葛野壯一郎 八五
△演劇と建築(中)……會員 波江悌夫 九三
△スコットの記念像……會員 須藤眞金 一〇七
△東京通信……會員 江都生 一一一
△神戸市に於ける燒打事件に就いて……第四部委員 H I生 一一六
△時報……一二五
□議院建築意匠設計懸賞募集に關する質疑應答……臨時議院建築局 一三〇
△會報……一三三
△編輯たより
附錄
△巴里市衛生警察令……六頁

建築・電氣!!

最新式電燈器具製作

電氣エレヴェーター工事

最近据付場所

大阪 岩原時計店
大阪 稲西合名會社
大阪 住友銀行支店
福岡 九州電燈鉄道本社
大阪 朝日新聞社

電燈電力電話電鈴工事

大阪市東區南久宝寺町四丁目心斎橋筋

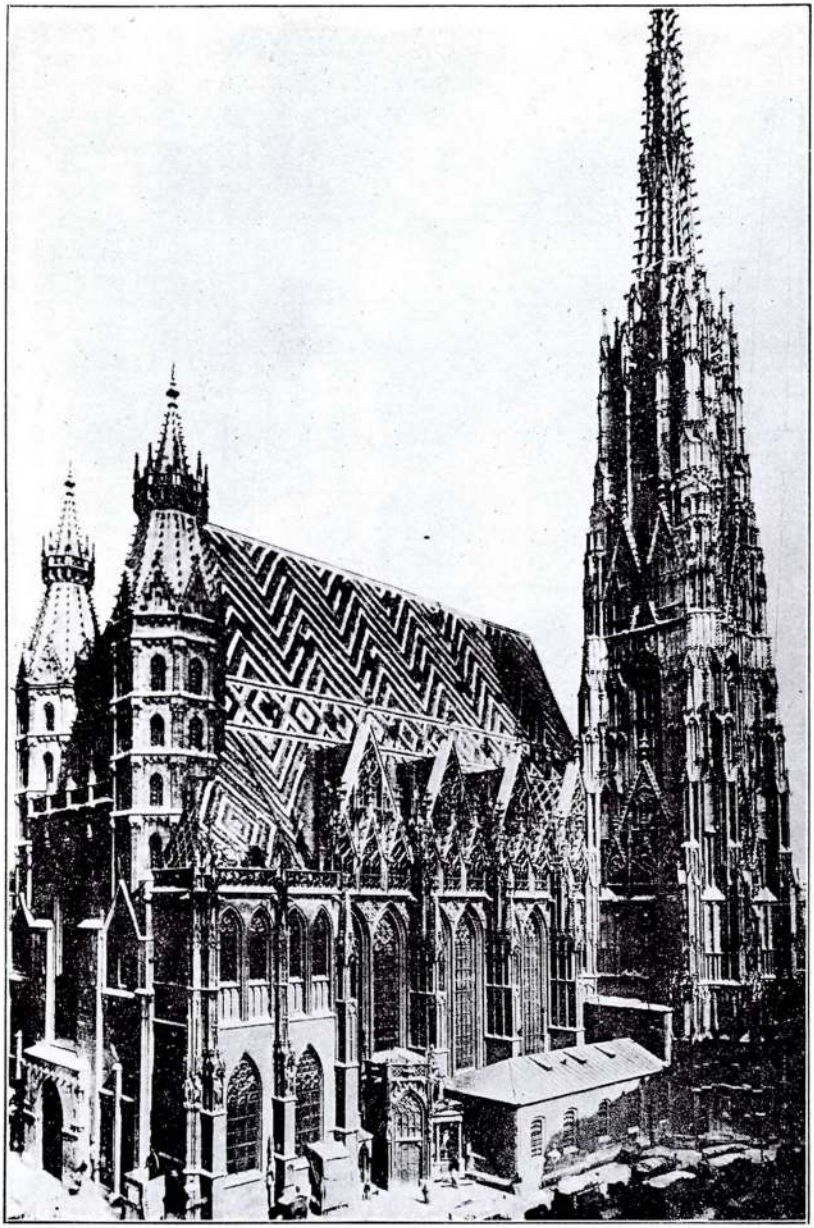
みよし組大阪支店

船場一〇三八番



大阪市南部に於ける娯樂地區

墺都と洪都（其一）



聖ステフエン寺院

墺都維納市中最古の大建築、高塔天を摩し、紅白の色彩華麗を極め崇高巍峨たる大本山である。一一四七年の開基で幾度か祝融氏の襲ふ所となり幾度か改築修築造築を加へ羅馬後期の手法を今に殘してゐる、南塔は一四三三年北塔は一五一一年に竣成してゐる其ステフエン塔の高さ四百四十九呎に達してゐる。



維納市廳とリングストラツセ

墺都の愕は其有名なる環街に在る。新裝の大厦巨樓甍を亜ぶるフランフェン・リングは最も壯麗なる一廓である左方裕然たる國會議事堂を控へ右方高く尖塔を聳ゆるものは維納市廳である、建築家シュミツト氏の設計に成る傑作で一八八三年工を竣へたもの工費一千三百萬フロリンを要したとの事である。



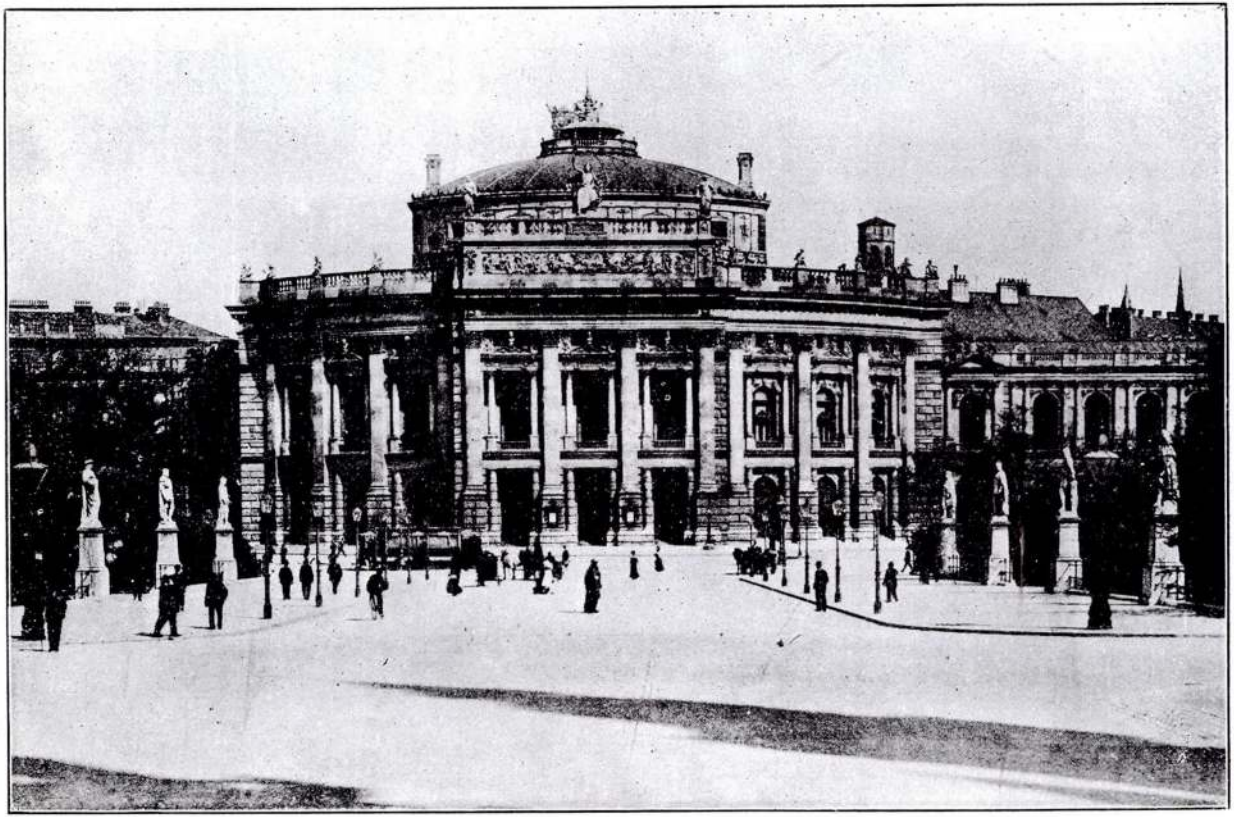
墺國國會議事堂

宏大雄偉なるリングストラツセ大街に面し堂々たる一大希臘建築、工師ハンセンが苦心の作に成り一八八三年工を竣へたるものである。正面の前庭にはミネヴア女神の噴水を設く、高さ五十呎、一九〇二年カンドマンの妙技を揮へるものである。



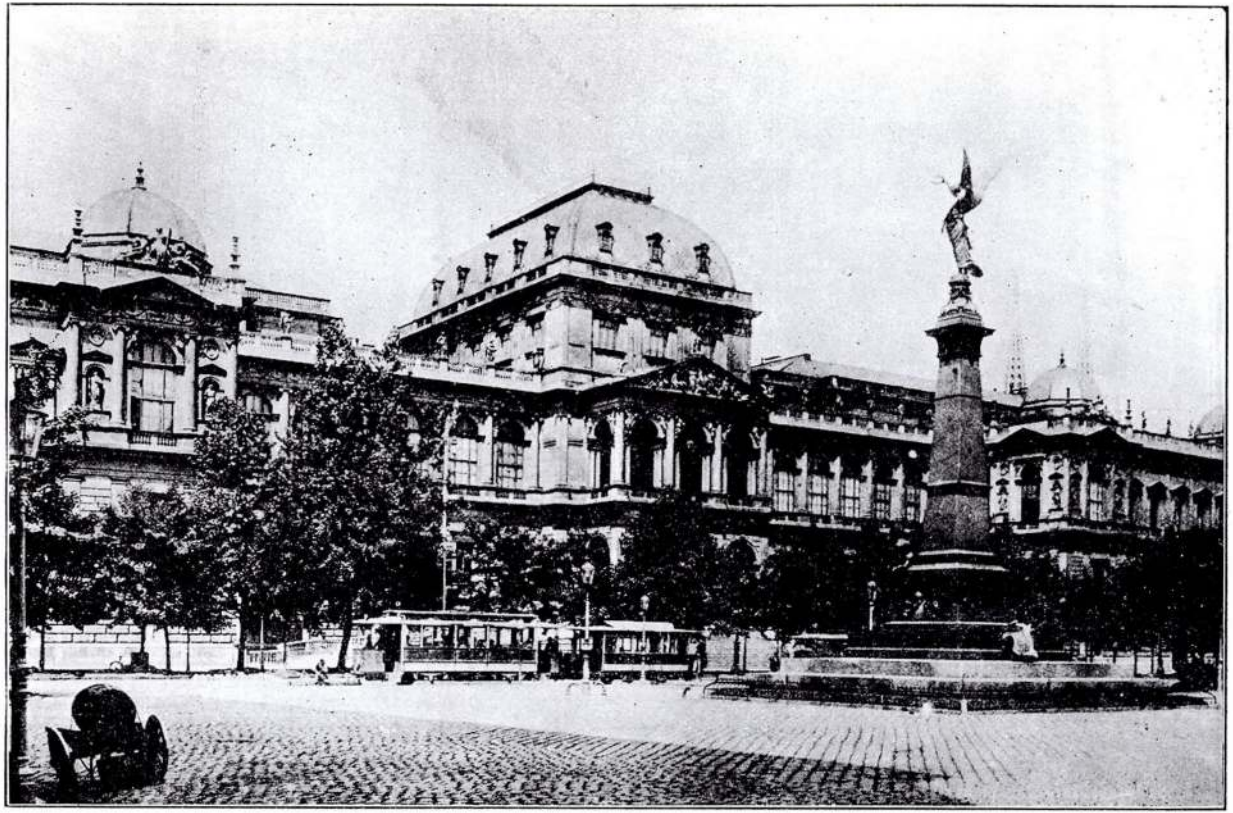
維納宮殿

ハプスブルヒ家累代の至寶貴品寶庫を有する名宮殿である累年造營連築されたもの故殿堂樓臺頗る不規則の配置をなす、內外共に宴に豪華を極め稀有の偉觀たり、近世專ら親王の居邸に使用さるゝ處歷代王家の史的誇負の象徵たり。さはれハプスブルヒ王家の運命や如何に。



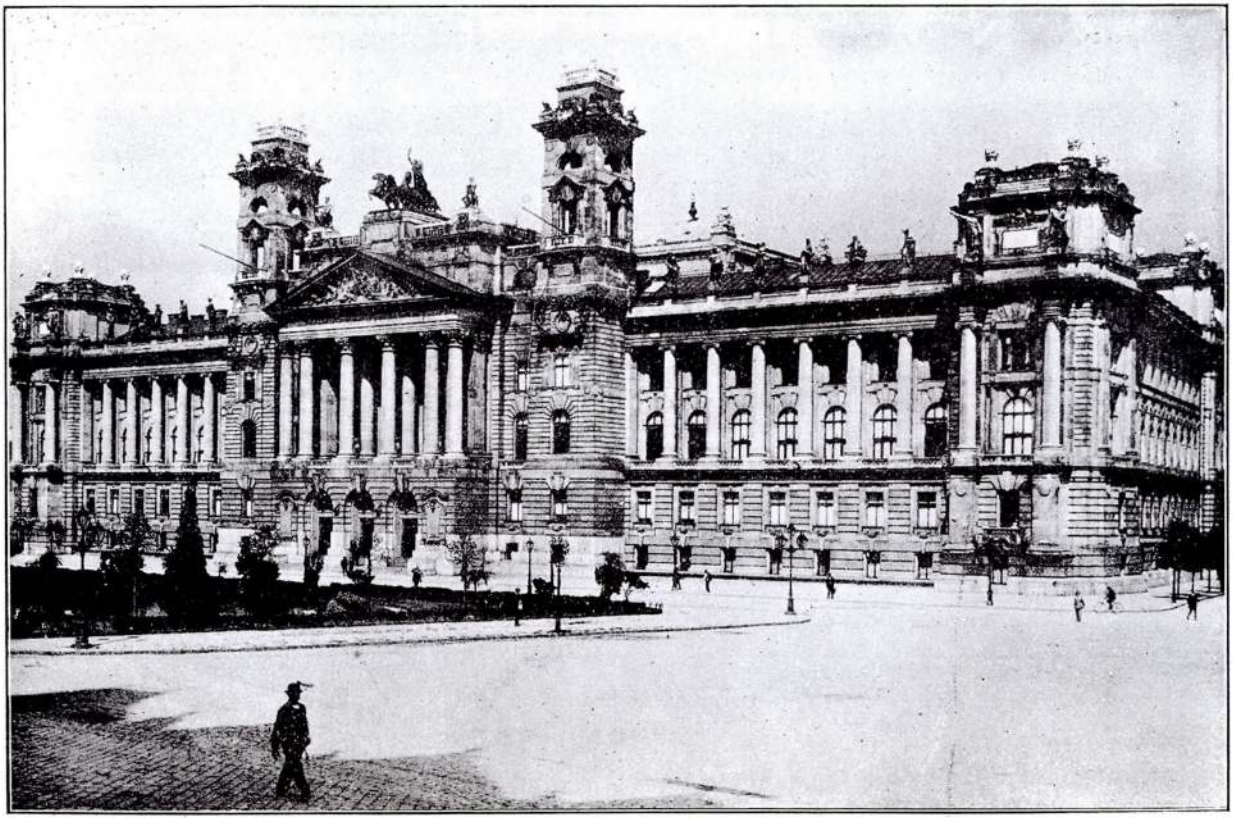
維納帝室劇場

帝室劇場は歌舞劇場と共に帝室の專屬たり。絶大の權威を有し、專ら悲喜の戲曲を演じ、夏期三ケ月を休業するの外毎夕七時を以て開場す。春の野に百花に艷を競ふ維都の市民が最高の遊樂場である。國歩艱難悲風凄慘の今日此頃はさすがの華殿も愁然としてゐるに違いない。



維納大學

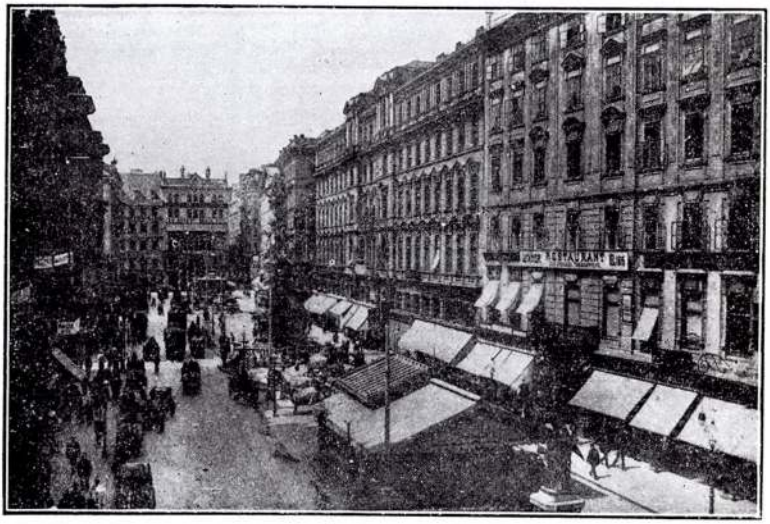
フランツエン・リング大街に面せる大建築、工費八百萬フロリンの巨費を擲ち、フェルステル氏の設計に成る、一八八四年工を竣へてゐる。實に一三六五年の創立に係り後年マリヤ・テレザ皇の治下に碩學ヴアン・スヴイチン氏の經營によりて面目一新し今や五千二百の學生と一千五百の生徒と三百五十の教授及講師を包容し世界有數のものである



ブダペストの法衙

洪都中心屈指の大建築文藝復興式の一大傑作にして彼の尨大なる國會議事堂の東隣にある。ハウスツマン氏の肝膽を碎けるもの。雄渾壯麗なる大法衙實に司法機關の首腦部を蒐めたものである。

墺都と洪都（其八）



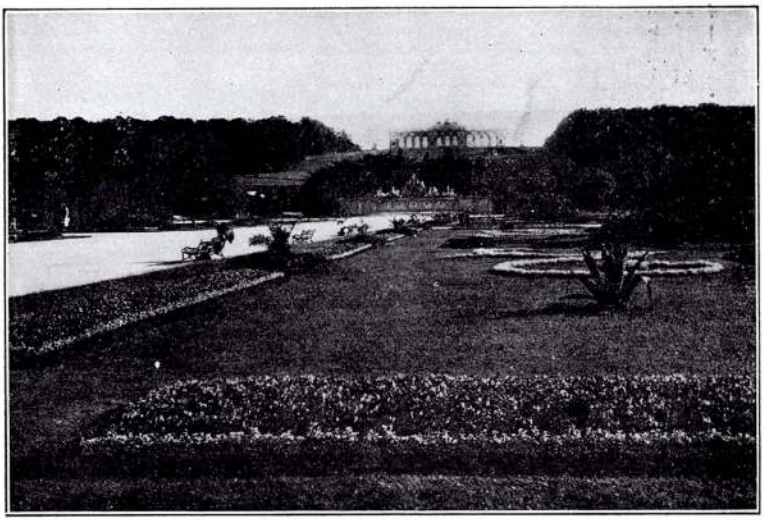
維納市中繁街の一



維納市中繁街の二

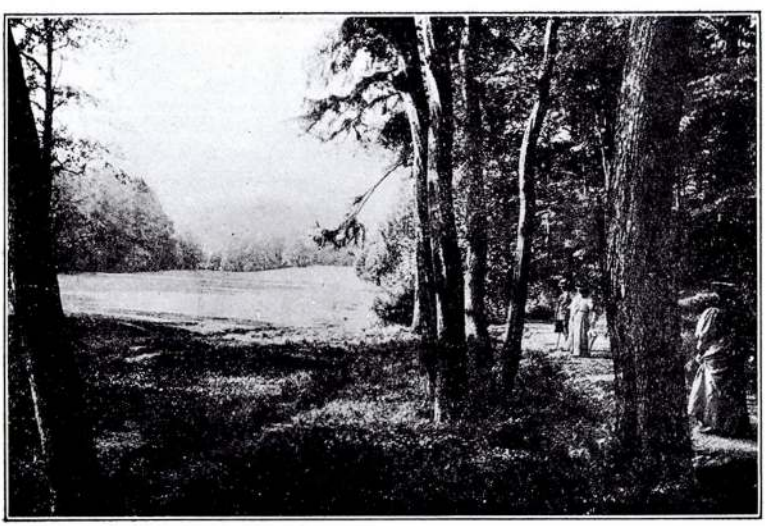
墺都維納市の起源は可なり古いが十字軍が相次いで東征するや會交通の要路に當り一二七六年ハプスブルヶ家の王城所在地となつて愈繁榮に赴いたのである那翁沒落時代に於ては歐州中最も重要都市であつたが、今や世態變移昔日の語草を殘せるに過ぎないが未だに華麗なる此の都は其誇とするものが多い。人口百七十萬に達してゐる。

墺都と洪都（其九）



シヨンブラン離宮

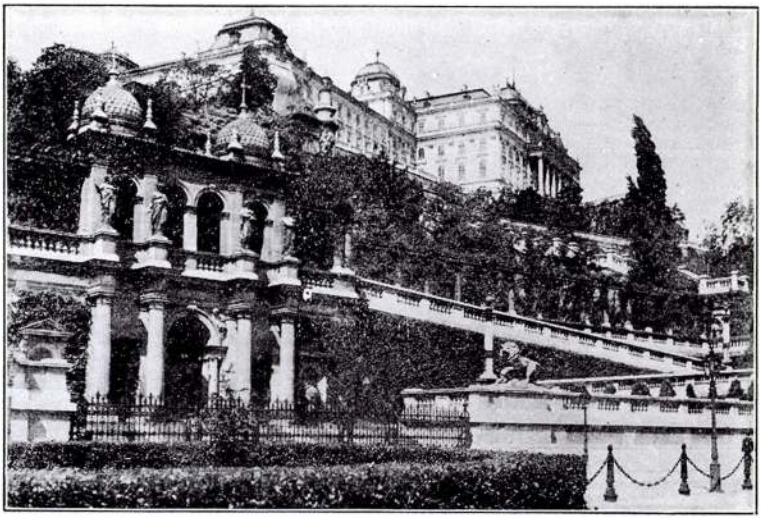
其昔マキシミリアン二世の狩獵地であつた、後一度土耳古軍に荒らされ一六九六年再築の後一七五〇年マリヤテレザに依りて改造された壯大華麗の宮殿である。那翁も二度此茲に大本營をしたさうである。



ドルンバツヘル遊園地

一名シエワルツエンベルヒ公の公苑と呼はれ幽邃閑雅の遊園地として墺都市民の唯一の散策地である。一七六五年頃ラスチー伯の開設に係り維市の西方ドルンバツハ村に在る。

都洪と都墺（其十）



洪牙利の王城

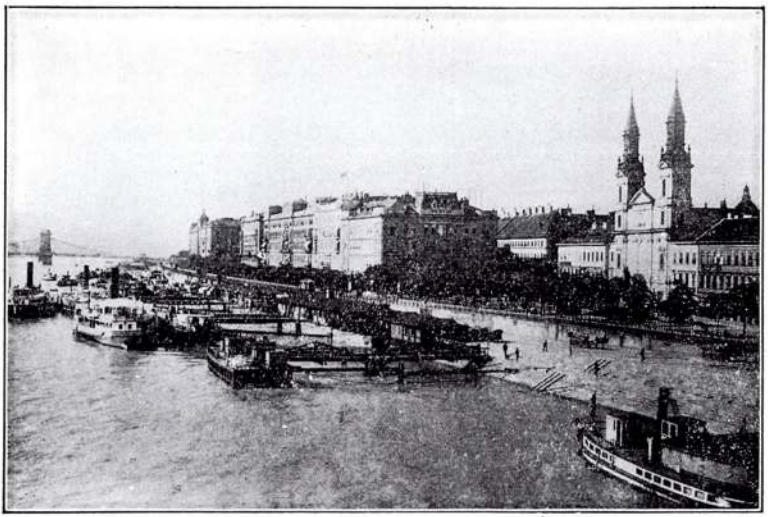
一七四八年マリアテレザ女帝の建設に係り一八四九年一度祝融氏の災厄に罹り其一部を失つたが一八九四年イーブル・ハウスマン兩氏の手腕によりて大增築を成すや豪壯舊に倍しドナウ西岸の一大偉觀になつた。



ブダペスト市内の遊園地

二重王國平民が遊樂地は頗る其設備を整頓してゐるが市民の蕩逸放漫の生活は殆んど沙汰の限りであるとの事、新興氣鋭のマヂヤール人も既に早く衰亡の兆を現はしてゐるのである。

墺都と洪都　（其十一）



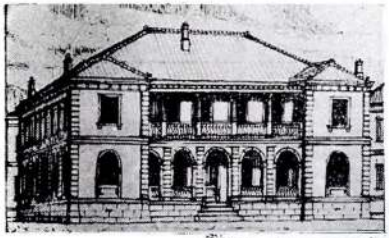
ブダペスト市とドナウ河

墺都よりドナウ河の下流十二時間の舟航地點に洪都がある。ブダ區ペスト兩區を合して一八七三年始めて自治市となつた。ドナウ河は此邊に於て可なり廣く洪都の美觀の骨子をなす、今や人口八十萬を超えてゐる。

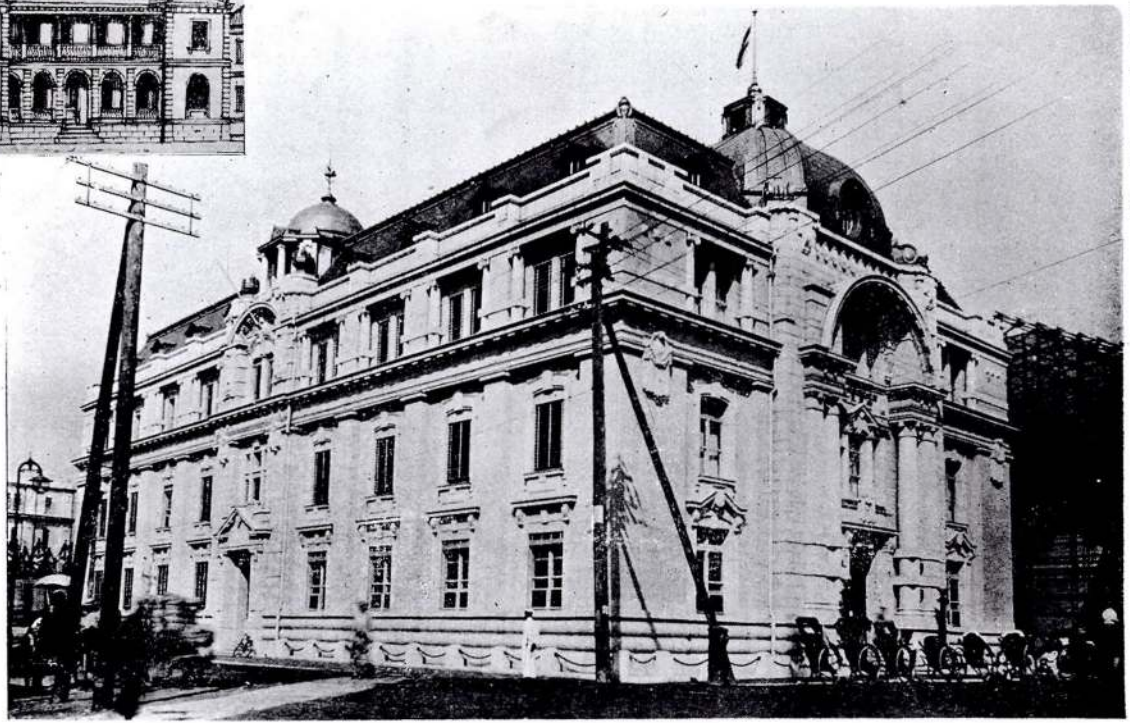


ブダペスト市の繁街

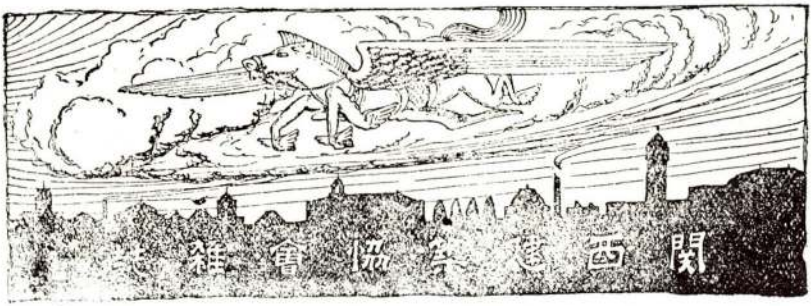
洪都は洪國の首都である。マジャール人約八割に達し二重王國の羈絆を脫せんとするの氣慨は凄まじく商工界に發展し、歐州都市中電氣事業の如きは首班となつてゐる。



同所同社舊館



日本郵船株式會社神戸支店新館



都市建築と物價暴騰

我國古來の都市建築は到底現代文化と相容るゝものにあらず、其構造幼稚にして火災震害に耐へざるが如き又其實質脆弱にして安全なる持久力を有せざるが如き或は其衛生設備に於て又街衢の清潔と美觀を維持する點に於て到底現時の科學的適應の利用を全ふするを得ざるものなり。殊に經濟活動の利便より見て所詮現代都市の容るゝ能はざるものなるが故に、我大都市に於ては近時漸く其改善の緊急なるを覺り、所謂都市建築勃興の機運著しきものあり。帝都の一角には已に改善されたる建築のみに成れる街衢の出現するあり、又近く制定されんとする都市建築法に依りて市區の部分改造を企てんとする我大阪市の如き、皆之れ都市建築勃興の前途を示すものならざるはなし。然るに近時物價の騰貴著しく、建築の如き永久的投資を目的とするものゝ進行を阻害しつゝあるは經濟上當然の理なりと雖も、吾人は我國の都市經濟に與ふる其不利益なる現象を悲まざるを得ず。近時の如き物價の暴騰は各種の方面に慘害を逞ふしつゝあれども、漸く覺醒したる我國都市建築改善の機運を阻害することの社會的損害又甚大なりと謂ふべし。



都市計畫より見たる遷都（下）

會員　片岡安

五　大陸遷都論

日露戰爭以來我國は大陸に相當の足場を得、其後更に朝鮮全國を我版圖に併合した關係上我國の地理的中心は大に移動して來たのである。殊に大亞細亞主義者の唱ふるが如く、我國が亞細亞大陸の各邦國の盟主として立つを理想とするに於ては本州の中央地點を帝都と定めることは地理的に偏在するのみならず、又其理想實現上不便不利の甚しきものあるを認めざるを得ない。大陸遷都論の動機は即ち此の意味から出發するのである。之を世界政策の上より見れば我國は今後の國策として到底現狀維持を以て理想とすべきではなく、進んで亞細亞大陸の富源開發の經營と及其文化的施設の衝に當らねばならぬのである、故に其經營の利便の爲めには帝都が大陸の適當の地に遷さるゝはあらゆる施設の根本であると見ることが出來る。丁度明治維新の際に帝都が東京に遷されて然る後萬機一新の政治が行はれた如く、大陸政策の實現には大陸遷都を以て其根本となすべしと言ふのである。

吾人は大陸遷都論には必ずしも不贊成のものではない、若し我國策が大陸經營を以て凡ての國家

的施設の根本となすに一決するならば、其實行力を緊張せしめる爲めのみでも、大陸へ帝都が移ることの緊急なるを感ずるものである、況して其地理的利便に於て、國防上の關係に於て、又地震地帶を免かるゝ点に於て大陸遷都の利益大なるを認めるに於てをや。唯我國の現時の國策は其處まで徹底的に大陸問題に沒頭し得ざる事情にあるを如何ともする譯にゆかないのである。

之を詳言すれば大陸遷都は我國將來の理想であつて、未だ其實現を期待する時期に達せないだけである、決して之を空論視すべき事柄ではないのである。而して其問題の意義重大にして關係する方面の廣汎なる恐らく我國現時のあらゆる問題を超越した程度のものなるべく、其研究も隨つて難解たるを免かれぬのである。今此處には其難解たる大問題を十分に解決せんとするのではないけれども、之を帝都の地理的利便と、國防上の關係と、及地震地帶を免かれ得る安全確保の三点より一と通りの觀察を遂けて大陸遷都論の論據の半面に觸れて置きたい。

大陸の地理的利便　大陸と言へばとて現在支那帝國や露領亞細亞の領地内の勝手の地へ我帝都を遷し得るものではないから、現在の處にては自然と其位地は限られるものと見なければならぬ。朝鮮半島の内又は南滿鐵道附屬地の内に於て最も適當なる位地を選ぶとすれば或は平壤の附近とか奉天城の外廓地帶とかは其好適地の一たるを失はぬ。奉天の地は北露領の要路に當り南は京奉線にて支那本部の各地に通じ遼東半島及朝鮮半島の交通の衝点たる等亞細亞大陸東北四分の一を支配するの好適の地なれども、現在滿鐵附屬地の地積は僅かに百八十萬坪に過ぎず、到底大都市建設の目的を達し得ないのを遺憾とする。殊に支那東三省の督軍がそれ〳〵儼然として南滿一帶の支配權を

把持しつゝある現狀の下に於ては、奉天の地に帝都を建設することは全く無謀の譏を免かれぬ、けれども我國が東亞の盟主として大亞細亞聯盟の組織を畫策する曉には、東三省督軍の制度の如き或は滿鐵附屬地の境界線の如きは必ずしも之を支持するの要はないのである。其等の宗主權干與の問題に至つては日支兩國の完全なる外交的一致の態度により圓滿に諒解されねばならぬのは勿論である。

若し大陸の盟主として各種の畫策をなすに當り、帝都が東京灣の平原に偏在するとせんか、事毎に時機を失し敏活なる離合集散の政策を實現するの困難なるは言ふまでもないのである、更に一歩を進めて畿內の平原に遷都するも、筑前の平原に移るも大陸畫策に不便なるは五十歩百歩の差のみ本州と朝鮮半島の間に介在する對馬海峽は其距離僅かに百二十浬に過ぎざるも、通信と交通とに與ふる障礙は甚大なるものあるを知らねばならぬ。此の意味に於て大陸政策の策源地は少くとも朝鮮半島の中心にあるを要し、更に進んでは南滿の中心地たるを必要とするのである。

國防上の關係　一九〇七年獨逸のルドルフ、マルチン博士は飛行船の將來と言ふ論文を發表して、空中艦隊の恐るべき偉力の發現に就き國防策の根本を論じて軍事當局者に大警告を與へた、其後飛行船は博士の豫定の如く進歩したけれども未だ其偉力を發揮するまでには達して居ない、其の代りに飛行機は彼の豫想せし以上に發達して此次大戰亂の大要素となり、潛航艇は彼の全く考へ及ばざりし効果を示して居るのである。彼は其論文の一節に曰へり『日本の如き狹小なる島帝國にして人口集積することの甚しき處に於て、一旦敵と戰端を開き、敵飛行船の爲めに各要港の出口に

無數の水雷を布設さるゝ時は、彼は戰はずして降服するの外途なからん。乍併怜悧なる彼は必ずしも將來永久に斯かる危險なる狀態に滿足せざるべし』と、マルチン博士の去今十年前に已に國防上島帝國の危險を豫想したのである。古來我島帝國は地理的に安全なる國防組織を保有し來りしも、今や科學の進歩により、海上の孤在は以て國防の安全を期することを許さぬ時代となつて來たのである。

島帝國は絶大なる海軍力を有し、敵對國のそれを絶對的に凌駕するにあらざれば、交戰中各方面の航路を絶たれ、要港を封鎖され、遂に國内の物資供給不能となるを免かぬのである。若し此次の大戰亂に於て英國の海軍力が獨逸のそれと相等しきか或は其れ以下なりしならば英島帝國は交戰六ケ月を維持することさへ困難であつたであろふ。幸に聯合軍艦隊は絶對的優越を以て獨逸艦隊を壓倒しつゝあるから、物資の供給に於て聯合軍は僅に其危險を免かれつゝあるけれども、尚潛航艇の爲めに散々に惱まされつゝあるを見ては、吾人は海面防禦の如何に困難なるかを思はざるを得ない。

吾人は我島帝國の海面防禦の不可能なるを叫ぶ程の悲觀論者でもなく、又大陸へ帝都を遷して島本國を見棄つるべきを考ふるものでもない。乍併大陸經營の畫策と共に其策源地の防禦の絶對的安全を期するは吾人の當然の要求であらねばならぬ。此意味に於て帝國の版圖のあらゆる部分の防禦を完備する方針の中に就て、帝都所在の方面は最も重きを置くの要がある。其目的遂行の爲めに大陸の一角に帝都を遷すことは或は策の得たるものにあらざるなきやを思はしめる。

地震地帶を免かるゝの安全確保　我國は朝鮮を除き全領土殆んど地震地帶ならざるはなく、殊

に東海道、畿内、南海道等大平洋に面する方面は其頻度の多きと、震源の近きとに於て世界に比類なき程恐るべき地質的形態に暴露されて居るのである。今暫く世界の地震地帶分布の狀況を說くを止め唯我國の震災が古來幾回となく繰り返し〳〵吾祖先を苦しめ來りしを知り、其災害が將來も週期的に常に吾人と子孫を迫害するものなるを此處に明かにし、如何にして其危害を免かるゝやの問題に觸れることゝする。

今後我國の大都市が地震の襲來に依り受くる損害は古來の歷史地震の與へた被害の如き輕易のものでないことは十分に考慮せねばならぬ点である。今や大都市の狀態は中古式の城廓本位の時代を過ぎて商工經濟を以て其中心となすに至り、科學的設備の適用益々廣く、建築の宏大・交通機關の整備は日に其精を競ひ、人口の集中は次第に激甚となり、都市內部の復雜は到底中古の都市の如き單純なる內容と比肩すべくもないのである。故に今日の文明都市が一朝震災によりて破壞さるゝに至らば其損害の程度に大小こそあれ、其受くる苦痛の甚大なるは到底昔日の都市と談を同じうし得るものではない。試に思へ安政二年の江戶大地震の如き程度の震災が今日襲來した場合、現時の東京や大阪が如何なる迫害を受くるやは想像するだに戰慄を禁せざるを得ないのである。其回復の又如何に困難なるやを考ふる時は、我國に於ては所詮文明的大都市の建設をなし遂け得ないのではないかと思はしめる。

地震に對して其防備を完くすることの研究は現代の科學は稍其端緖を得たけれども、若し徹底的に之を避けんとならば、大陸に遷りて其地帶を免かるゝを萬全の策とする。亞細亞大陸も其南部に

亘りてはヒマラヤ山脈を中心として地震地帶に屬する部分あれども、滿州及朝鮮に於ては殆んど全く之を免かるゝのであるから、地震の破壞力より免かるゝを目的とするならば我國も將來は大陸遷都より外に採るべき途なしと言ふに歸着するのである。

上述の如く我國の將來大陸統一の使命を果たす爲めに其地理的利便を有するを必要とすれば、又國防上の關係を深く考慮すれば、更に又都市の地震により破壞さるゝを免かれん爲めには、今後の大都市殊に帝都の建設は之を大陸の好適の地に於てせねばならぬと言ふ結論に到達するのである。此の意味に於て吾人は大陸遷都のずゝしも空言放論でないことを裏書するものである。乍併帝都は一度び之を建設すれば遂に之を遷し得ざるものと見るを至當とするや否やを先決問題として之を見て、然る後大陸遷都論の適否を決するを順序とする。吾人の意見によれば帝都は其國の版圖の變更により、又交通路の變遷により、又對外政策の推移により遂には其位地を變更するを策の得たるものとなすのであるから、大陸遷都は其趣意に於ては之を贊同するけれども、今日大正の庶政革新の際には時期尚早と言ふ意味に於て反對せざるを得ない。むしろ現時の狀態に適應したる畿內遷都に就て考慮するの緊急なるを感ずるのである。

六　結　論

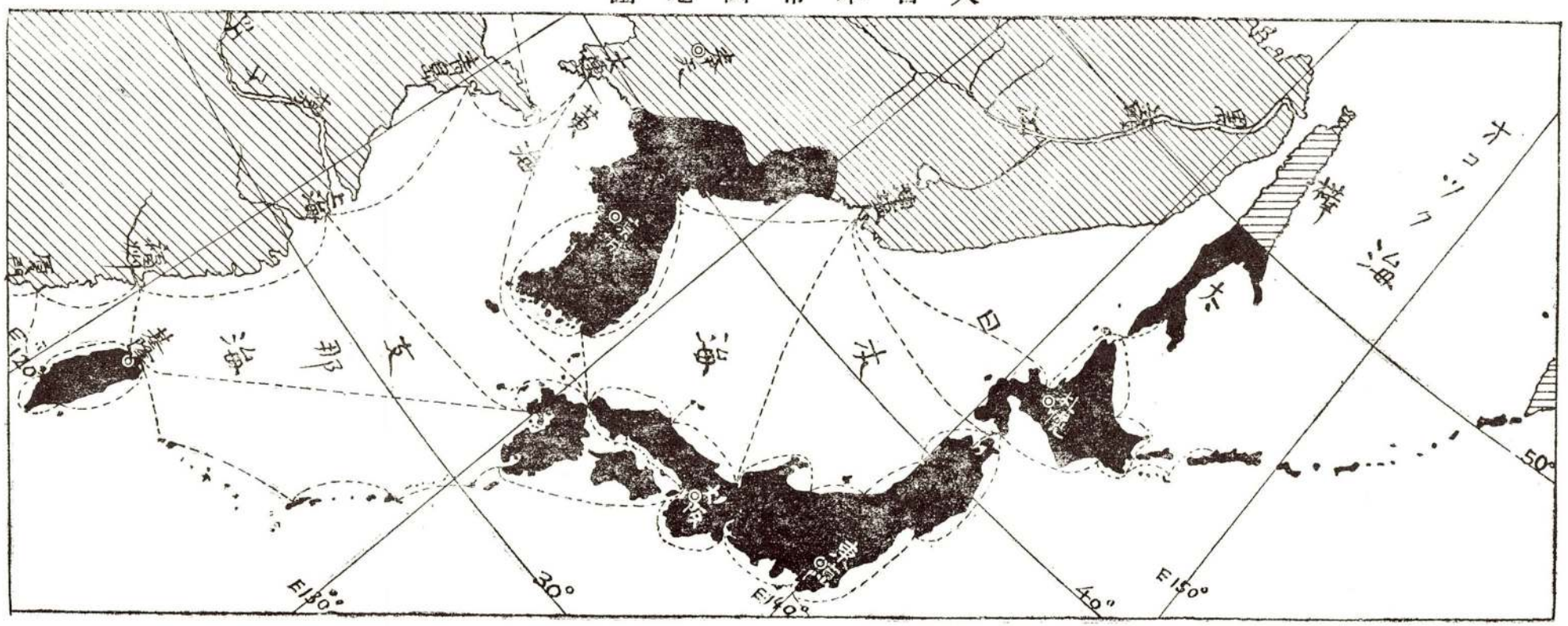
前章に於て略述せし如く、我國の東京遷都は明治維新の庶政革新の際には或る程度までは必要の

ことであつた。三百年の因襲を打破して人心を新たにする爲めと、又一つは東北佐幕熱の殘黨鎭撫の爲めには舊江戸城を利用するは策の得たるものであつたのは誰しも認むるところである。殊に其當時極北に露領境界問題や北海道開拓事業の横われるありて、帝都の地を距ること餘りに遠きは萬事其交渉に不便の少からぬ事情のあつたのも事實である。又更に東京は德川氏の大政奉還、江戸城開放によりて其繁榮を一朝に枯渇し、あたら雄大の都市を急遽荒廢に歸するの虞あるを明察し、むしろ江戸城を皇居となして庶務の中心を此處に遷し其繁榮を維持せんとせし事情も含まれて居たと言ふことである。此等の事情を綜合して見るに、明治維新の東京遷都は明治天皇御新政の最大根原にしてあらゆる施設も亦其大英斷の御趣意より油發せるものと拜察せざるを得ないのである。

今や明治中興の事業は一段落となり、日淸日露の戰後を絶て我國勢の隆運優勝は昔日の如き孤立劣弱の比にあらず、世界列强との關係亦復雜急切となり、內外の施設は更に何等かの一大畫策を企圖せざるを得ざる時機に到達したのである。即ち明治維新の際に遷都を斷行したると同樣の大英斷は、此際我國策確立斷行と同時に大正遷都の企圖に適用せられねばならぬのである。人或は遷都の無意義なるを說き、或は現代の都市にては其實行不可能なるを說く、然れどもその多數は唯漠然たる直覺感に過ぎないのであつて、少しも根據ある詳細なる意見ではないから、敢て其妄を辯ずるの要を見出さぬのである、けれども吾人は現時及今後の大正時代庶政大刷新の急務として京畿地方に政治の中心たる帝都を遷すことの如何に緊急事であるかを玆に少しく具体的に說明して見たい。

現代に於ては政治經濟の活動の中心は現代科學の適用を最も敏活に利用して、其交通と通信の迅

大日本帝國地圖



速を期するを最大要義とするのである。即ち一國の帝都は其科學的設備と地理的利便とを併有して以て政治經濟のあらゆる施設の中心たるを期せねばならぬのである。此意味に於て現時の帝都たる我東京市は果して其地理的利便を享有するや否やを見るに、其位地全く東部に偏在して、事毎に不利不便の境涯なるを感せざるを得ないのである。今東京を中心として本州各地への距離（鐵道線路に依る）を見るに。

下之關（西南端）……東京間　七百五哩七分

青　森（東北端）……東京間　四百五十六哩九分

即ち本州の凡ての事情を均一と假定するも尙ほ東京は甚しく東部に偏するのであつて、若し產業の狀態、人口の密度、港灣の關係等を加算する時は本州に於ける東京の位置に非常に偏陬の地にあるものと言はねばならぬ。況して亞細亞大陸の重要關門地點たる浦鹽斯德に向ふべき本州の出口なる敦賀港は、東京を距ること實に三百十四哩七分の長距離なるに於てをや。更に今後我國が西南方面の朝鮮、支那、南洋、印度等に對し交通の頻度を增進するの機運に際し、あらゆる外對施設の中心地たる我帝都が其出入關門たる神戸又は大阪と陸路三百五十六哩を距て十時間以上の旅程を有することを考ふれば、其地理的不便が我國の一般貿易惹いて其產業經濟に與ふる損害は測り知るべからざるものあるを知らねばならぬ。

今暫く滿韓支那南洋各方面との交通關係を措き、我內地開發の利害のみより考ふるも、我國の政治經濟の中心地點は大阪灣に臨む攝河の平原に之を求むるより外適當の地を見出し得ないのである

攝河の平原は其中央に淀河の洪流貫通し、瀨戸內海の灣入するあり、天然の地形大都市の建設に好適するのみならず古來帝都として又經濟の中心として久しく全國を支配し、二千年間未だ一たびも衰頽の事實を示さないのである。明治維新の際大久保公が大阪の地を以て今後の文明開發好適の中心として其遷都論を唱へたのも全く其地理的利便と、歷史的隆運を看取したからである。

今大阪の內地各地との地理的關係を見るに。

大阪……基隆間（臺灣の北端）	海路約千浬	
大阪……札幌間（北海道の中心地）	陸路約千哩	

北海道及樺太の經營の爲めに其中心地を假りに札幌と見做し、基隆又は臺北を臺灣經營の策源地と見做す時偶然にも其兩策源地は大阪より殆んど同距離なるを發見する。若し本州東部の產業中心地を東京とし西部の工業地帶を筑前の平原とすれば、其大阪よりの海陸の距離亦殆んど同哩程なのである。又東北の中心點を仙臺とし、九州の南部產業の中心地を鹿兒島市とすれば其距離亦相等しきも偶然である。

大阪……東京間	三百五十六哩一分	
大阪……下之關間	三百四十九哩六分	（關門間の距離を除外す）
大阪……筑前八幡間	三百六十三哩三分	
大阪……鹿兒島間	五百八十八哩四分	（東京驛と上野驛の距離を除く）
大阪……仙臺間	五百七十三哩三分	

而して大阪より日本海方面の關門たる敦賀港への距離は東京敦賀間三百十四哩七分に對し正に其三分の一にして(百〇二哩)、將來琵琶湖を利用する運河系統により水路の連絡をなし得る時期あるべきを想像せしむるに於ては、其日本海面連絡に於て我大阪は本邦屈指の好適地と言はねばならぬのである。

又將來我國產業の趨勢を考ふるに、農業の開拓甚だ重大なりと雖も、製造工業の興隆を以て國家最大の目的となさねばならぬのである。而して各種の製造工業は其原料の關係、動力の配給等に支配さるゝは勿論にして、其關係より言へば關東關西必ずしも之を一概に優劣を論ずべきではないけれども、攝河泉の平原及山陽道の沿岸、北九州一帶の平原は瀨戶內海てふ天然の大水路を控へ交通運輸の利便大なること到底關東平原の及ぶところではない。況して其對外航路の發着に適し、現在に於にても關西九州方面の生產力の雄大なるを見るに於てをや。殊に原料や燃料の關係より現在及將來に亘り金屬工業及纖維工業は主として關西の地に集中さるゝのであるから、今後の經濟的施設は什うしても攝河泉の平原を其策源地とせねばならぬのである。人或は大阪が經濟の中心であり、東京が政治の中心であるに於て何等の不都合なきを唱ふ、けれども若し出來得るならば政治の中心が經濟の中心と相接近することこそ望ましいのである、のみならずあらゆる對內施設の地理的又交通上の中心が大阪の平原であるとして見れば、偏在の地たる東京に政治の中心か存在することの不利益は言はずして明である。

現時の對外關係より之を見、又將來の滿韓、南洋及支那方面の畫策上之を見るに、我帝都が現在

の東京灣頭より南進して舊來の帝都地域たる攝河泉の平原に遷ることの合理的なるは、對內關係以上のものあるを知らねばならぬ。東京は都市として未だ海面上の玄關を有せず、海外との連絡は僅かに横濱港を通じて陸路二十哩を經僅かに之を維持するに過ぎない。伯林、巴里等の歐大陸の帝都が海面より遠き內地に存在するに比ぶれば何等の不都合なきに似たれども、海面連絡の利便を有し得る國柄に於て、其交通連絡を有せざるは甚しき拙策と言はねばならぬ。若し東京を將來永遠の帝都とするならば、一刻も早く東京大築港を企て、海面上の大玄關を造るの要がある。たとへ東京を以て帝都となさずとも關東の產業經濟の中心地として海面上の玄關たる築港計畫の緊急問題たるは言ふまでもない。

大阪の地は內地各方面に對し其交通上の地理的中心であると同時に、對外關係に於て其交通の利便東京に優ること數段なるを知る時は、將來の帝都を此地に遷すことの合理的なるは言ふまでもない。此の趣意は前章に繰り返した如く明治元年大久保公に依つて唱へられ、明治三十二年中橋德五郎氏の提唱するところとなり、大正四年九鬼隆一男によりて叫はれたのである。吾人が今其趣意を繰り返す所以は現代都市の趨勢より推論し、帝都の計畫を最も合理的に企圖して其建設を最も良く現代に適合せしめん爲めである。

現代の都市は單に政權の中心たるのみを以て發達し得るものではなく、其經濟活動力を增進することに依つて、始めて科學的に完備せる都市を現出し得るのである。故に我國の帝都を新たに建設して現代文化に添ふものとなさんには、什うしても產業經濟の樞軸となるべき利便を有する地を選ば

ねばならぬのである。たゞ官權の力を以て宮城官衙のみを建設したとて、現代の文化に添ふべき都市の實現は六ヶ敷いことは、近時世界各國の都市膨脹の趨勢を見ても十分理解出來るのである。

次に問題となるべきは現時の帝都が遷都に依りて受くる損害の程度である。此に就きては其計算方法を如何にすべきや、直接の程度及間接の程度は如何なる方法を以て見るべきや等の復雜なる關係あるが故に之を一概に論ずることは出來ないけれども、現時の東京は帝都であるが爲めに其繁榮を維持しつゝある分子は非常に薄くなつて來たのは事實である、德川幕府の時代の江戸が幕府及諸大名の消費力によりて其繁榮を維持し來りし如き幼稚の時代は已に過ぎ去り、商工業の生産力により漸次其繁榮を促進しつゝあるは各種の統計により之を知ることが出來る。國庫の支出、皇族、華族其他富豪の消費力は可なり大なりと雖も、一般生産力より生ずる富の分量は其金額に數倍するは明である。況して我國東部一帶の貨物集散地であり、又旅客の集中するあるに於ては、東京の繁榮の基礎は遷都によりて破壞さるゝものではない。故に其損害の如きも之を大局より見れば極めて輕微のものと見るを至當とする。

公館の如きも不用となるものは寔に少數にしてそれ〴〵流用の途あるべく、又市區改正及其他の改良事業も未だ其緒に就かざる折とて、遷都により却て適當の餘裕を生ずるの利益あることならんと思はれる。もし東京をして將來永遠の帝都として存在せしめんには、現時の狀態は餘りに亂雜、不秩序、又何等發展の餘地なきものであり、其改良計畫を立つることは殆んど不可能の感がある。恰かもよし之を一般商工の都市として取扱はんか、其改良計畫は非常に利便を得ることならん。之

に反し現時の大阪の外郊地帶に新帝都を建設することは、全く白紙に描くが如き利便自由を有するのである。

吾人の理想とする大阪灣頭の新帝都は、現時の大阪市街の東方飯森山生駒山草香山麓を東の境とし南は大阪軌道線路の附邊に迫り、北は寢屋川沿岸に沿ひ、西端現時の市街に接するまで其廣袤約十平方哩を以て之に充て、此處に理想的の都市計畫を建設し、舊市街の改良大街路に連絡せしむるを要する。之を交通上より見、衛生設備の點に鑑み、都市建築の整備、街衢の美觀等あらゆる現代文化の精華を實現するに努力せねばならぬ。若しそれ工費の問題に至つては、吾人は餘り之を困難なるものと思つて居ないのである。之を歐米の大都市が都市計畫に費したるあらゆる努力と其効果より打算して、新設市街地の買收と其買收後の價格騰貴の差額莫大なるものあるを計算し得るが故に公共的設備たる街路、上水、下水、遊園其他一般公舘の築造は殆んど之を其差額により支辨し得るものと見ることが出來るのである。

大阪遷都の概論は以上各章に於て大体之を述べ盡した積りであるけれども、新都の計畫と東京の今後の改良計畫とは單純なる理論を離れて實際的至大至難の問題として殘るのである。此の兩問題はそれぞれ非常に複雜にして彈力性に富み其研究に無限の餘地を與ふるのである。吾人は茲に世の先覺者と共に此問題の解決に努力し、以て我國將來の發展を促進せんとするものである。（了）



物價騰貴と都市社會政策

都市協會幹事　藤原俊雄

現時我國に最も必要なりと信ずる都市社會政策を論じ御高覽に供し候間幸に御批判の榮を得ば、幸榮之に過ぎず候　　敬具

◈物價騰貴と國民思想の變化

今や我國は聯合國の現實なる一員として兵を西比利亞に出す、戰時外交の多事洵に勞せりと云ふべし。加之國內物價の奔騰は其停止する所を知らず、就中米價逆上による各地大騷擾相次ぎ、其善後策に付き當路憂慮の程亦察するに餘りある次第に存入候。而も此の內外多事の現象は正しく之れ精神上は勿論、形體上に於ても邦家の一變態に相違無之開戰以來四ヶ年間に累進したる公私經濟の膨脹と、國際貿易の激增とによる經濟的成功者の簇出と、併而諸物價の狂騰とは、其民衆生活の程度に比し著しき懸隔を生じ、遂に下級民衆の囂々は稍歐米民主思想に於ける、貧民の甚だ不健實なる主張を移植したるが如き狀況を呈し、實に國家の前途につき恐るべきもの有之、深く憂慮に堪へざる處に御座候

現今歐米諸國に於ける國家思想の變遷は、主として戰爭に基因する單純なる愛國心の變態に原因するものに御座候得共、這般我國の騷擾の如き低級無分別なる民衆が、成功者致富者に對する嫉妬怨嗟反感等の淺慮に敎唆されたる傾あり、洵に女子的惡性の病的發作に類し、國民生活上甚だ不安なる危險を伴ひ申候。

爲政者は此際速に實際的なる國家社會政策の

指針を樹立し、「社會を以て全部一體として」の考慮研究をなすを最も必要とすべきもの有之候今回の事件は能く一般社會思想の變遷史に一時代を劃し候事、炯眼なる爲政者の夙に了知する處と存候、然るに騷擾鎭壓の方法を顧るに、專ら米穀薪炭野菜物等の調節を講ずることに急にして、恰も未だ世界交通の開けざる往古史を繙くが如く、土實らず餓一時に迫るが如き狀況に處すると同一的偏狹なる手段に委ね、其物價高騰の本來の原因を探究し、其防止策を講ぜらるる莫きの感あるは甚だ遺憾と存候。

今日國民生活の重要食料は米なりとするも、其高騰する所以は豊作相續きたる今日、而も有無相通する世界市場を有せる日本にして、其奔騰を單に需給の一原理に歸し、或は單に一二少數者の買占に嫁し、其原因が米以外にあるを知らずして、米の騰貴は米其原因をなせり、米の高きは米のみの暴騰なりと斷ずるが如きは、聊か觀察の徹らざる感なき不能る次第と存候。今や交通機關の整備貿易の發展によりて、是等生活資料を分配し、生産上各種肥料製造業の競立、理化學の應用、之に伴ふ運輸交通の狀態、勞働賃銀の激增、土地の增價等、最近科學の發展により天祐以外の人爲的努力によりて左右せらるゝものなる事を考ふるときに、蓋し米を唯一の目標として其價格のみを制限するが如きは克く國民が安固なる生計を保持するを得ざる事既に明なるものに可有之候。

宜なり。英米諸國に於ては其大戰に當りて石炭、鐵等の輸出禁止其の公定相場の決定、且つ鐵道運輸を監理し運賃の奔騰を防ぎ、大規模の造船を斷行して物資の搬入を計り、食料を節約し則ち「食料の豊富は戰に勝つ」てふ警語を以て上下の箴言となし、小は家賃地代の制限を設け以て今日に至り、其効果も亦其決意と丶もに、愈々增大致候。飜て本邦の現狀を觀るに洵に驚くべきもの有之、假へば政府が多額の航路補助金を與へて其成績を維持せる船會社が五割七割の高率配當をなすを以て正當とし、何人も亦之を訝しとせず、然るに一粒の梅干を倍額に販賣

せりとて處罰を受け、而して民衆亦之を追究する事極めて嚴なり、今尙野に十七割の配當をなしたる保險會社あり、勿言保險會社は需給の關係に於ては梅干商人と何等擇ぶところを異にせるものありや、戰時現象の眼前に迫るを見て、其料率を引上げたるは曾に汽船會社保險會社のみには無之、朝に鐵道院の鐵道運賃引上たるあり、專賣局に各種專賣品の値上あり、而も其引上率が殆んど全く其生産費用の增加率以上なるを知るときは、物價調節の根本義と這般米價引下の施政とは如何なる關係に立つべきものなりや、深く當局の配慮を促したき所以に有之候。

歐米各國戰時狀態に於ける經濟界の實況は戰時現象として物資亦高騰を示すと雖も、尙且其狀況は物資不足によるの推定率よりも概ね低し然るに本邦現時の狀態を聯合諸各國に比較する時は、其諸物價騰貴率の單に國民日常生活上の難問たるのみならず、延いて貿易品の原料が工賃銀運輸費に多大の影響を及ぼし、高價なる我製品は到底聯合諸國の製品と市場に競爭し能はざるに至るや燎なり。吾人は徹底的に英米の採りつゝある物資調節及管理の原則事情成績等を考覈參照することの最も急務たる事に想到せずんばあらず。殊に今回の米價の暴騰の如きは戰時經濟界の變調と最も深甚なる關係に立てるものに有之、國民必需品奢侈品の何たるを論せず其の製造業者なると將運輸業者取扱業者たるとを問はず、各々相競ふて或は材料の缺乏、船腹の拂底、勞力の騰貴等に藉口して、製品を釣上げ、過大の營業成績を示して、概ね未曾有の配當を報せざるもの莫き有樣に陷りしは、畢竟此の戰時狀態に基因する異常の現象を、其の驅けるが儘に放任したる結果に有之、政府が速かに適度の干涉管理調節の策を講じ、是が安全辨を求めずんば、大資本は終に小中資本を併呑し、由々敷國家社會問題を惹起せざるを保せざる事と相成可申候。

◆必要なる社會政策論

以上の諸問題は社會政策の半面たる物質上の

見地よりせば、單に經濟上の一變態なりとして或は之を忍び得べきが如きも、之の騷擾紛亂の間國民思想の變質に及ぼす損失は、或は永久に本邦國家基礎に一龜裂を印したる事なきか、此の國內を震駭せしめたる不健全なる一揆は、爲に緊實素直忠誠なる國民の根本的倫理思想に動搖を來たし、群集心理は動もすれば民本主義と民主主義とを混じ、社會政策と社會主義とを同して、五倫五常の懿德は著しく歪形して、極端なる個人主義的傾向を呈し、之を防止するの策なきに至らざる莫きか、深く襟を正しくして考慮せざるを得ざる問題と存候。

敘上の觀察若し當を得たりとせば、是れが救濟の途一に社會政策の新方針を樹立し、其の病源たる都市より着々其れが實行の歩を進むること緊要至極と存候。換言すれば此救濟策は都市社會政策の着手に外ならず、米價調節は物價調節を幹とする枝葉の論にして、米價調節問題の如き、全局面より觀れば寔に瑣々たる其一端を企圖し得たるに過ず、從つて其効果たるや、涓滴にも及ばざらんのみ、須らく國民生活を百年の泰きに置き、國家隆昌の礎を築かんとせば、國民生活の昂上を計ると共に、宜しく日用物資の低廉なる供給策を確立し、一面又機械及化學工業の發達を謀り、以て世界貿易市場に於ける覇權を掌握せん事を期せざるべからず、而も其之を成さんと欲せば須らく民力涵養資本蓄積の緊要なるを一日も忘るべからず、見よ米國に於ては、明年度の戰費豫算として四百八十億圓を計上し、其百六十億圓は實に租稅を以て其財源たらしむと報ずるに非ずや、貧弱無資の國民豈に夫れ能く之を學び得んや、國政の要は資本を充實せしめ、細民階級をして能く其堵に安せしめ、上下協力國體の精華を發揚し、帝國の威望を擁護するに有之候、若し夫れ通貨政策の如きに至りては世間已に定論あり、政府も亦頻りに爲替關係を調節し、海外放資を奬勵し、以て兌換券の縮少を計り、洪范瀰漫せる金融界を緊張せしむれば、大資本の歸順は蓋し自然に其趨く處を窺知するに難からずと雖も、囂々たる都市

細民の聲は、當然直接社會政策上に一新進路を拓かざる可からざる義と存候、茲に於てか余が今獻せんとする都市社會政策の要義は左の十項に歸着せんとす。則ち

一、都市に於ける慈善資金を增加し、養育院細民救助施療所、職業仲介所、細民金融機關、無料宿泊所等の計畫を擴大する事

二、都市に於ては特に青年會、婦人會、慈善會、其他協和隣保の主義を宣傳擴張する團体を誘掖奬勵する事

三、法律を發布して大小都市に市場を開設せしむべき事

四、組合法を勵行せしめて購買組合の設置を奬勵する事

五、借地法、借家法を制定して賃貸料を局限案配し其引上率を制限する事

六、市街地に土地增加稅を課し、土地の投機者流を局限制禦する事

七、各都市は市費を以て貧民及勞働者の爲め所謂テナメント。ハウスを建築して、下層民を收容し貧民窟の整理をなすと共に、細民の住居に安定を與へ彼等の向上心を養成する事、但し一定利率の配當を許す事

八、資本家をして中級以下の爲め公債利子の範圍内に於ける配當をなし得る定歩を設け低廉にして而も愉快なる家屋を建設せしむる爲め政府は相當の保護奬勵を與ふる事

九、政府は衣食住に關する日常必須の物價低廉を計り此等の課稅を全廢する事

十、政府は衣食住に關する物資の海陸運賃の引下を實施する事

以上列擧せる諸項目を斷行して、國威の中樞たる都市國民生活の不安を芟除するを得ば、始めて其恒心を保持せしむるに庶幾らんかと存候這般各府縣及諸會合の企圖に係る、慈善施與、若くは廉賣等による救濟の如きは、全く一時を糊塗せんとする彌縫の策に過ずして、寧ろ獨立自恃の精神を害ふ事著しく、何等の限度なき慈善救濟に其資金を漫然と消費する時は、得る所果して如何ぞや、益々下層民をして獨立自治の

念慮を鈍らしめ、依頼乞食の卑慮を蒿め、終には其庇護に狎れて克く飽く處を知らず、「騒擾すれば食與へらる」と云ふが如き思想を醸成せんのみ、洵に國家社會の公序良俗を毀傷する事頗る大にして、邦家の爲め寒心に堪へざるものあらんと存候、況んや施米救助の事固是れ隣保の好誼に屬す、若し夫れ政府の施與劃策宜しきを得ざれば、惹いて國民思想上多大の損失を招くの結果に陥るなきを保せざるに於てをや、此際深慮猛省せん事を切に冀望して止まざるものに有之候。

如上の見地に基き政府當局は内治施政の方針を確立して、衣食住に關する物資取扱者の利益を自然に局限する爲め、市場及購買組合等の法により之が調和を計り、而して濕潤尚及ばざる處あれば、乃ち民間に諸團体並に隣保の好誼により互に相扶けて、天下蒼生のため最も安定なる生活を保証し、一面以て思想の畸化するを未然に防ぎ得ば、茲に始めて上下一致と、資本勞力の協定其の宜しきに適ひ、民衆の生活向上して國民の福祉增進し、國家社會の安寧秩序亦自ら成就せられんことを確信仕候。

敢て愚見を陳し、大方諸氏の高敎を仰ぐこと如斯。

◆むかしの京◆

むかしの京は高位高官の官女も、煤竹の布子織物の手襲にておはせしとかや。民は八木百錢に一斗の時、雜水喰うて悦びしとなり。

（それ〳〵草）



本邦森林と建築用材に就いて（六）

會員　谷民藏

■木曾飛驒御料林の樹木概要

□木曾、名古屋支局管内の面積（管内地圖）

□施業按編成地に於ける蓄積及年伐

□御料各種の規定（檢尺法、切判、産地の目標等）

□大阪出張所の概況

□綱場及ひ貯木池

□各領域より採出する木材の性質及特徴

□運材法及其經濟

□伐材期と賣行

□貯木池に於ての販賣時期

■木曾飛驒御料林の樹木概況

嘗て古人の言葉に、木曾の五大木云々とある。……亦我國の俗諺に「材は檜か、人は武士」と蓋し我國樹木の覇王として之に誇稱讃辭を放つたものもある、予は曾て擔任せし或建築の雜作用木材を、熱田白鳥御料公賣場に立會ひて、幾多の木材を買收したことがあつたが、本市場に集合するもの七八十人其約五十人は、所謂中京鬼才の商略家の集團である、之れを大向ふに對陣する各地方の勇士も又豪の者である、之れ等隨一の顧客に應酬する御料係官も、亦地方の商勢に通達すること更に敏捷なものがある。

凡そ木材公賣の時期として一、八、十二の三ヶ月は、材料搬入及び整理等で休止することあるが、他の九ヶ月間は恰も恒例の如く毎月中旬以降に、販賣材積を夫れ〳〵希望者に豫報し、之れが購入希望者は公賣當日三四日以前から桑名、白鳥兩貯木場に、池中或は丘上に堆積してある各種木材の眞價を探査するのである。此有樣は恰も敵前を偵察する斥候戰の如くで、洗默

の間に殺氣橫溢するの觀がある、斯くて公賣當日は早朝より豫め支給されてあるテイタ（明細書）を携へ、立會場の一室に集合して地方の商勢の模樣を甚だ無責任に話し合ひ、表面は一種樂園の如く相互に胸襟を披いて打ち語らひ、市場開始の振鈴を待つて居るのである。やがて準備成り振鈴の響に誘われて所長技師を初め係官一同は威儀を正して夫々設けの席に着かれイザ開けの號音に、丁度戰場の第一線の勇士が火蓋を切つた樣に鍛〳〵に鍛へた某々面々は、濁水中に其大半を沈積してある木材の數種を偵察する。此等の貯材は一と口の尺締二百數本で價格は四五千圓に登ろ、之れが最高の入札價格の差は五圓或は十圓にて甚しきは同札さへも往々見る事がある、如何に專業者が標準時價の見定めに鋭敏なるかを首肯することが出來る。

又此入札が如何に嚴正公平なる販賣方法であるかは局外の吾人にとつて頗る氣持ち好き感を與へるは歡ふべきである、予は斯くして再度迄名古屋通ひに一種の好奇心を惹起し種々なる木材の調査を創め、熱心なる當事者より仔細の說明を受けしが、今其一端を併せて紹介するものである。

但し前載のもの又は今後記載する大林區署或は營林局廠の如きは秩序ある報告書に基いて居るが、今茲に帝室御料林の林況一般を數理的に窺ひ知る事の出來ざりしは遺憾とする處である

■木曾、名古屋兩支局管內の面積

木曾支局管內

出張所名	面積（町）
諏訪	三七、五二二・三
奈良井	六、二三五・七
藪原	一三、〇四三・五
福島	一三、二八六・八
王瀧	二六、四五二・四
上松	一一、四八三・六
野尻	一七、八五四・九
三殿	七、五八三・四
妻籠	七、〇二七・七
湯舟澤	二、六四七・五
飯田	二七、四六七・五
計	一七〇、六〇五・三
合計	

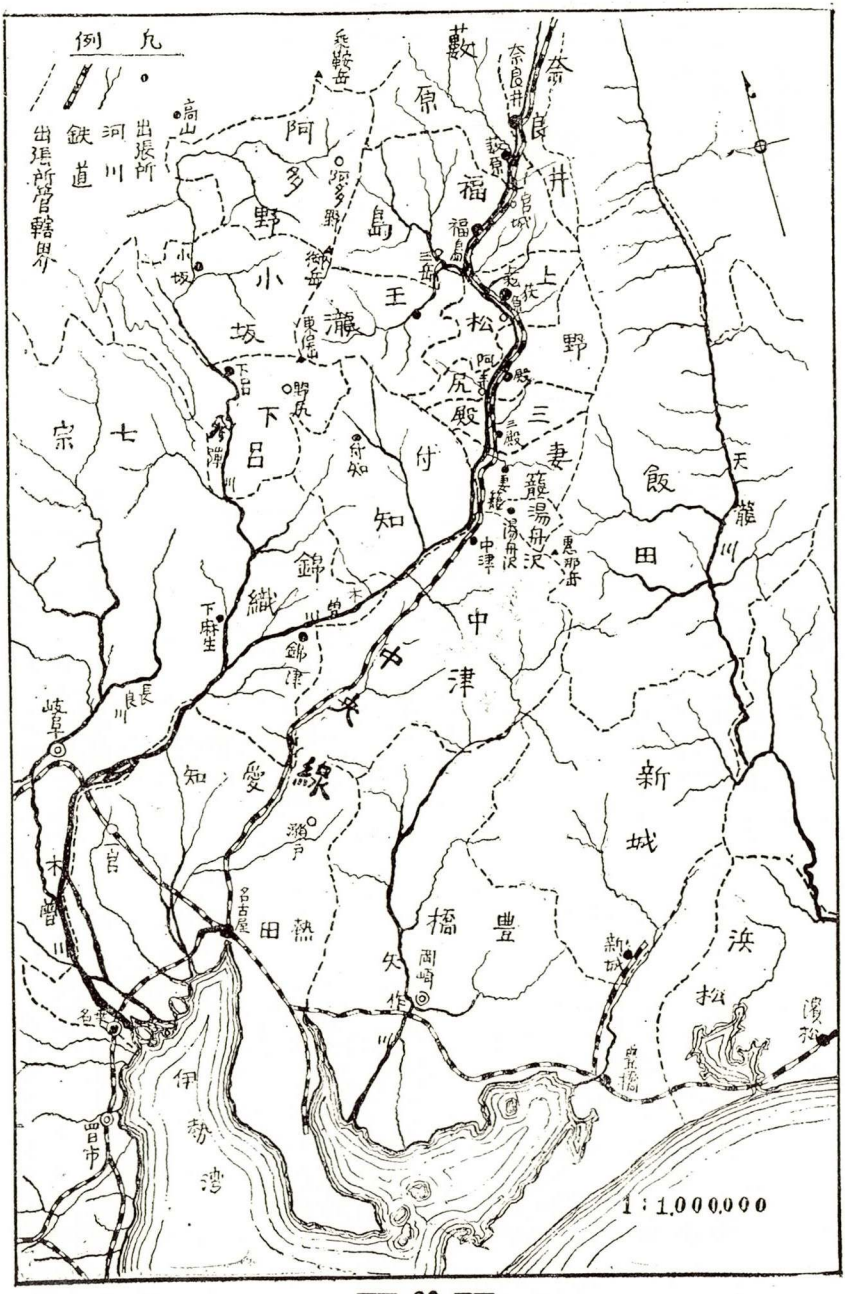
木曾支局管內に於ける森林地積は世傳並に普通山林の地積町歩で要存地のみを揭載す。

名古屋支局管內に於ける森林地積は施業案編成にかゝる林業地許りを揭載す。

茲に木曾、名古屋兩管內の地理を明かにする爲めに略圖を揭げて置いた。

名古屋支局管內

出張所名	面積（町）
付知	六、九八五・九
小坂	一二、一〇四・九
阿多野	七、〇一四・九
下呂	五、九五八・七
七宗	一、五四五・八
中津	八、八六九・七
度會	七、〇七七・〇
千頭	二五、四八〇・九
掛川、氣田、濱松、愛知、豐橋、新城、	三六、四九四・三
計	一一一、五三二・〇
合計	二八二、一三七・三


凡例
出張所
河川
鉄道
出張所管轄界
奈良井
福島
上野
三留野
松尾
飯田
天龍川
中津川
恵那
湯舟沢
籠
付知
下呂
小坂
阿多野
瀬戸
新城
豊橋
浜松
名古屋
岐阜
木曽川
長良川
伊勢湾
1:1,000,000

尙ほ掛川、氣田、濱松、愛知、豊橋、新城等は木曾飛騨即ち日本アルプスに屬せざるも名古屋支局管内なれば之れを一纏めとして末項に記入して加算することゝしたのである。

度會とは伊勢國宇治、山田、宮本、多氣郡等で更に紀伊國牟婁郡大杉谷の三千四百四十五町歩をも前表に抱擁してある。故に現今木曾森林の代表的とも云ふ處の領域は王瀧、上松、福嶋妻瀧、數原、野尻、柿其、東駒ケ嶽、飯田、付知等、更に飛騨領域には阿多野、小坂、下呂、七宗等を以て其主なる産出地となすのである、而して尙之れが出張所の管内で伐材する樹木の種類、蓄積の概要を摘錄すると左の如くである。

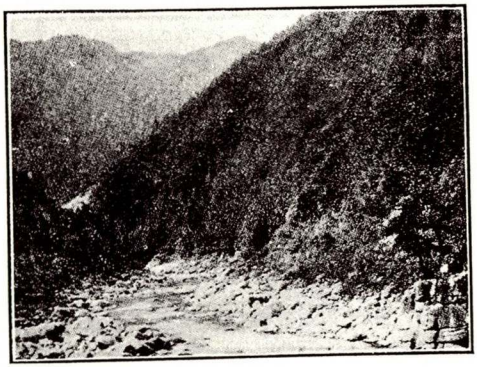
◎木曾支局管内造材處分樹種及材種別

（四角兩材）　大正四年度調

出張所名	伐木地名	ヒノキ	サクラ	アスナロ	カヤマキ	ネヅコ	ヒメコマツ	アカマツ	モミ	ツガ	ケヤキ	其地合計
王瀧原	小木曾	八、七〇石	一六、三四一石	一石	一石	一石	二石	一石	二、二七〇石	五八石	一石	一、六一九石
上松	瀬戸川、小川、藪原、西山、犬ケ峰	四一、二七〇	六、六四二	二	八、二三三	一六五	三、八五九	一	八二	一	六五	二九、〇一九
野尻	阿寺、殿、小木曾	四九、四〇〇	一八、八〇五	二三六	三、八三	一八八	一、四五三	二六	三、四五三	五、六八八	一七	九三七	八四、二七
三殿	柿其共	三、八〇	二六、七三二	二、五九	一	二五	一、四二三	一四	六六〇	一	四	四八七	六四、六七〇
妻籠	田立、男埵園	一四、五九一	一八、九九〇	三、五一〇	三〇一	一	八	八	一七五	一五	一	三八七	三七、九八五
湯船澤	湯船澤	七、七三	七、九三〇	三、八五九	二、一〇七	一	七六	一六	九、一八五	二、六九七	一三三	一、〇五九	三四、七五二
合計		三七三	四、五〇三	二一	六	一	七	一	七七	四	九五七	六一	六、〇〇七
		一五四、九一五	九九、九六二	二〇、一七	一四、五六五	三七八	六、八五二	五三	二五、八二二	八、五四四	一、一一〇	四、五九五	三二六、九一九

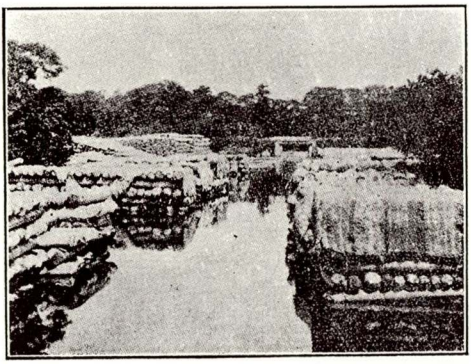
以上の大部分は大正五年度に於て熱田、豊住（東京）、大阪の各貯木場へ分送せるものなり

施業按編成地に於ける蓄積及年伐



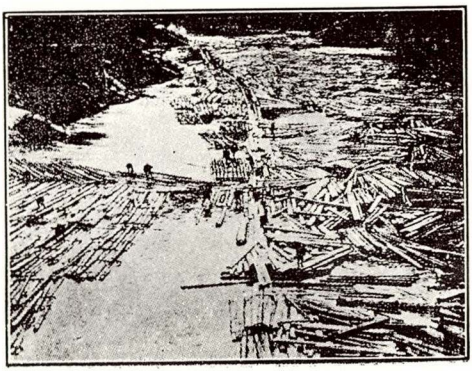
（上）

帝室御料林にして長野縣東筑摩郡
木曾にあり



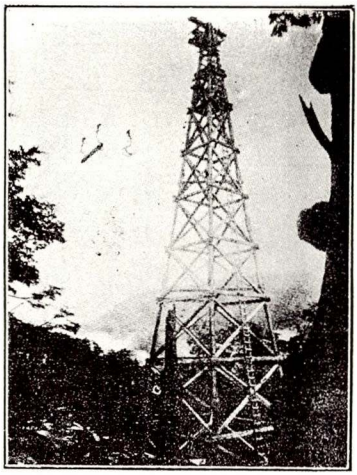
（中）

名古屋白鳥帝室
林野管理局貯木場



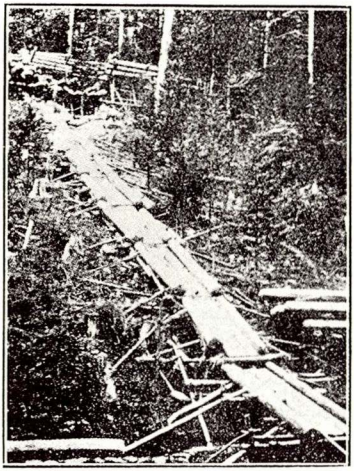
（下）

木曾川を管流したる木材を集めて
是れより筏に組立つるものなり



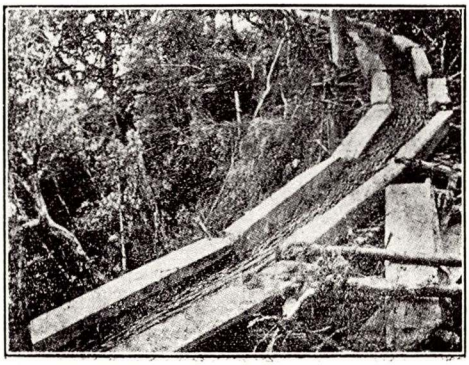
（上）

復線「ブライヘルト」式索路に
して支柱〈木造〉高さ百十尺



（中）

木曾御料林内に於ける
「ノラサデ」の運材



（下）

長野縣木曾小川御料林内に
於ける「タンバサデ」の運材。

出張所名	林業地	總蓄積	年伐材積（加能量）
諏訪	二一、〇六二町	九、七三二、九六二石	一九三、九五六石
奈良井	五、五〇三	三、三一二、八二七	五一、〇〇〇
藪原（小木曾、奈川）	二三、九六八	二一、〇七八、八七四	二三五、二〇一
福島（宮ノ越、三岳其他）	一〇、二四四	九、六九九、四四七	一〇九、八一〇
王瀧（王瀧、御嶽）	二四、一四一	四七、一八八、八一〇	三三四、八三五
上松（寶ケ峰、小川、西駒ケ嶽）	九、四五九、五	二三、七六三、二〇八	一四五、六六二
野尻（伊奈川、阿寺）	一三、四三三	二三、二五六、三三八	一五六、三三六
三殿（柿其、與川）	七、四六九	五、六一三、三六一	六八、四八八
妻籠（關、田立）	六、九六二	四、二九六、〇三三	六四、二四四
飯田（東駒ケ嶽、飯田其他）	一六、〇一五	一三、〇三〇、一八五	四四九、二五八
湯船澤	二、〇三七	一、五八一、四六九	一七、七四四
合計	一三九、三六二	一三二、五四四、五〇二	一、七六、五二六

以上は木曾支局管内のみとす。

出張所名	林業地	總蓄積	年伐材積（加能量）
付知（裏木曾、川上）	六、九八六町	八、五七七、四四四石	七三、五四三石
小坂	二、一〇五	一、〇一四、三六二	九九、七〇一
阿多野	七、〇一五	五、一二七、三七八	二八、五二六
下呂（三原）	五、九五六	四、〇九三、四五〇	五二、六九〇
七宗	一、五四六	一、二五九、九七五	一九、七三六
合計	三二、六一二	二九、二二二、六一九	二七四、一九五

以上は名古屋支局の管轄にして木曾飛騨の山岳に屬するのである、而して同管内に於て、千頭、掛川、濱松、愛知、豊橋、神垣等に於てそれを見るに。

	林業地	總蓄積	年伐材積（加能量）
共小計	七七、九二町	四五、五三五、九四二石	八三〇、五六〇石
計	一一、五八三	七四、一三八、五六二	一、一〇四、七五五
合計	二四〇、九四三	二〇七、三九三、〇六三	二、八三一、二八一

即ち二百八十三萬餘石は木曾、名古屋、兩支局管内の豫定加能量を表示せるものにして、現在實施上の伐木概數七十萬石とせば、裕に四ヶ年を要す。

今檜材の更新期百二十ケ年を一期とせば、伐採能力を更に倍加するも、猶伐木更新上に充分なる餘裕を生ずると雖、今直ちに此採算を是とするは聊か早計の感なしとせず。今次に來るべき林中運材機關の改革を計り、如何なる深山幽谷よりも一瀉千

里の速度を以て容易に搬出するの計畫を樹立せざる可らざるのである。然る時は總材積二億餘萬石は裕に百五萬餘石の伐木更新を爲し得べきものである。

大正五年度白鳥、桑名の兩貯木場に於て賣却せし木材々積並に其等級別を示せば左の如くである。

材質	ヒノキ	サワラ	アロナカウヤマキ	其他各種材木廿五種	合計	%
上	一三、二六〇石	三、九四七石	四七四石	一、五六八石	一九、五四四石	五、六
中	一六、八二八	三、八〇二	九八七	四九三	一、二六六	三、二六六	六、七
並	六二、一九四	二六、二八六	二、八四一	一、二〇〇	三、三八一	八五、九〇三	二四、六
下	一三一、九四八	七一、九一八	八、五四〇	七、七七六	一〇、五七三	二三〇、七四四	六三、一
計	二四一、三〇九五、九六三	二一、八三九	九、八二四	一六、七四四	三四九、五九六	一〇〇、〇

即ち本表に依て見るも木曾の五大木は自ら證明するものである。但し今檜材と赤松材とは第五位に列し其數相伯仲するを以て五大木の一なる檜材を省略するのである。

凡そ木材品質の等級は末項に記載せし如く一定の標準に基き材質を上、中、並、下の四等級に選別し、豫算額を定め公賣に任ぜらるゝものにして、就中木曾、飛騨材中如何に選良材の高價なるかは、左表の數量に依り自ら首肯せしむるのである。

今試みに繪材のみと一般木材とを二表に區分し之れを擧げて見ると。

◎熱田出張所白鳥桑名貯木場賣拂材積調表

（自明治三十九年至大正四年十ケ年間）

樹種 / 材積 / 年度	賣拂總高	扁柏、檜、莊柏、椹	羅漢柏	其他各積材
	合計	賣拂材積	賣拂材種	賣拂材種
明治三十九年	九五、六八七尺締	四三、四一四尺メ	一七、〇七九尺メ	一一、四五七尺メ
同 四十年	一五〇、四三七	八四、一〇三	三三、三五、三四、九六五	八、〇五四
同 四十一年	一三五、八三三	六四、六三一	三三、九四〇	二七、四八〇	九、七二三
同 四十二年	一四三、三二三	六一、九四六	三七、〇六一	三〇、八〇	一三、四六五
同 四十三年	一六七、二四四	七七、〇六八	四三、三三	二八、四九	一九、四八五
同 四十四年	一八八、三二一	九二、三三六	五三、八五二	三〇、四八	三一、七四六
大正 元年	一八三、三七〇	一〇三、三九	三六、九三〇	二一、四一〇	三一、六四一
同 二年	一六九、七〇四	九五、八六四	四三、三五	一四、一七九	一七、四三六
同 三年	一六八、八一七	一〇〇、三九七	三五、九〇九	七、四八七	二五、〇三
同 四年	三六、四三	二七、一三	六六、六一七	八、三九	二四、三五
十ケ年平均	一六一、九三六	八四、一七〇	三九、九〇九	一三、七四	一六三、四三

備考　壹石は拾立方尺、尺締は拾五立方尺と定む。

◎材積比較表

樹木約二十五種合計石數

樅材石數	廿六萬石
檜材石數	三十七萬石
槻材石數	六十六萬石
檜材石數	百二十五萬石
各種木材石數賣上總高十ケ年合計	二百五十萬石

◎最近十ケ年間毎一ケ年賣却總高比較表

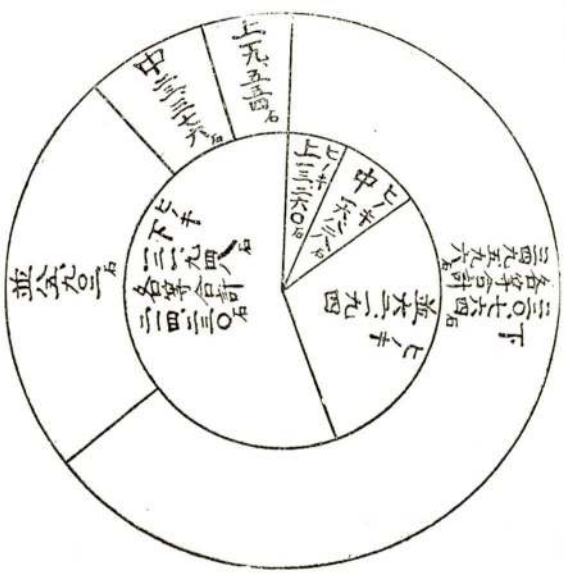
（尺　締）

明治四十一年度	十三萬五千八百廿三本
同　四十二年度	十四萬三千三百五十二本
同　四十三年度	十六萬七千二百九十四本
同　四十四年度	十八萬八千三百二十一本
大正元年度	十八萬三千三百七十本
同　二年度	十六萬九千七百四本
同　三年度	十六萬八千八百十七本
同　四年度	二十一萬六千四百二十一本
同　五年度	二十三萬二千百本
同　六年度	二十一萬三千八十二本

◎木材の等級と積材積の比較

（單位は石を以て表示す）

外輪劃は賣却總數の材積比較表にして內輪劃は賣却せし檜材のみである。



上は上材　中は中材　並は並材　下は下材の略にして長、短、太、細、の別なく單に品質のみを區別せしものである。

■帝室林野管理局各種の規定

今帝室林野管理局にて定められたる各種の規定を擧ぐれば

各種の規定

帝室林野管理局の刻印

品位の刻印並に切判

上材	刻印	切判
中材	仝	仝
並材	仝	仝
下材	仝	仝







而して品位の優劣は左の方法に依りて之れを定むるのである。

(1)上材は、無節直材、小曲無節、一方小節、中曲無節二方小節。

(2)中材は、直材一方大節、三方小節、大曲無節。

(3)下材は、三方大節、四方小節、大曲、傷木、損傷材は便宜の方法を以て寸尺を減ずるものである。

以上の檢別標準を近時更に左の如く訂正せられし樣に聞くのである。

(1)上材は丸太の外周を四等分し其一面に小節三個迄其他は無疵良材を云ふのである。

(2)中材は一方節又は檢尺點より末口迄に輕少の裂れありて其他は無節良材を云ふのである。

(3)並材は二方節其他は中材の條件に倣ふのである。

(4)下材は四方節、又は大小疵、例へばアテ、入皮一部の腐り、同木半眞以上曲りたるもの、檢定點以內に裂れ僅少ある場合も亦同じである。

左の如き規定に準據して檢別せるため若干の裂れ、アテ、疵、腐り、等あるものは凡て下材に振り落さるゝものである、故に低級材中には往々俗言、堀り出しものゝ良材あるを知り專門家は之れ等の下材を爭ふて買收するのである。

◎檢尺法

木曾、飛彈の兩山脈より搬出する木材は名古屋市、熱田、白鳥及伊勢桑名、或は東京深川、大阪櫻の宮等の各貯木場に堆積する木材を調査するに檢尺概要左の如くである。

A長さに於ける正尺の制限及末徑測定の位置

長さ稱呼	檢尺の位置	長さ	尺ノ單位尺ノの分掛
半間もの	三、二五	三、五—六、四	〇、二五
一間もの	六、五〇	六、五—九、九	〇、五〇
一丈もの	一〇、〇〇	一〇、〇—一二、九	〇、七〇
丈三もの	一三、〇〇	一三、〇—一四、四	〇、九〇
二間もの	一三、〇〇	一四、五—一五、九	一、〇〇
丈六もの	一五、〇〇	一六、〇—一七、四	一、一〇
二間半もの	一六、〇〇	一七、五—一九、四	一、二五
三間もの	一九、五〇	二〇、五—二三、四	一、五〇
三間半もの	二三、五〇	二四、五—二六、九	一、七五
四間もの	二六、〇〇	二七、〇—二九、九	二、〇〇
四間半もの	二九、〇〇	三〇、〇—三三、四	二、二五
五間もの	三三、五〇	三四、五—三六、四	二、五〇
五間半もの	三六、五	三六、五—三九、四	二、七五
六間もの	三八、五	三九、五—四二、五	三、〇〇

B末徑は寸位未滿を切捨るものとす。

C材積の計算は左の方法に依のである。

二間材は末徑を自乘して得たるものを尺締數とす、尺締の單位以下は二位を存し餘は四捨五入するものとす

太さの稱呼

直徑一寸乃至六寸を　六以下と稱す

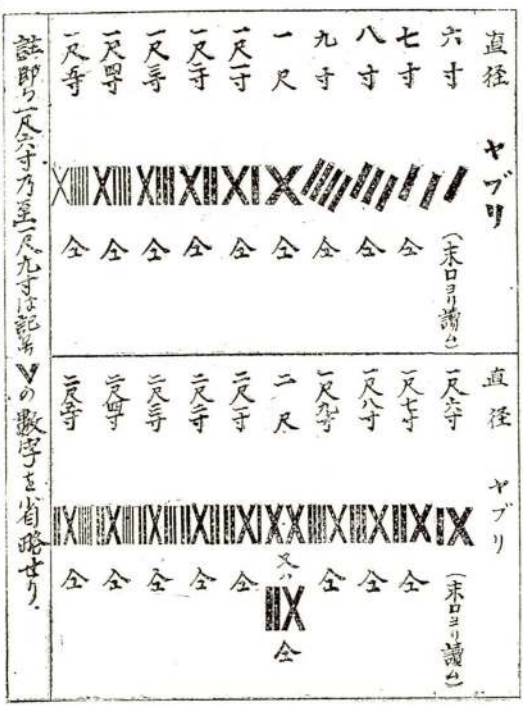
同　七寸乃至一尺を　中目と稱す

同　一尺一寸乃至一尺四寸を　一上と稱す

同　一尺五寸以上を　五上と稱す

長さに於ては一丈以下を長短ものと稱す。

貯木場の寸檢「一名ヤブリ」



尙寸檢に當り特種の隋圓又は二つ割れのものは二方を計り自乘したるものにて端寸は(寸以下)切捨とす。

年度別の切判

年度	別呼名	
明治三十一年	大正元年	「ウケタヨ」
仝 三十二年	仝 二年	「ヨコヒ」
仝 三十三年	仝 三年	「ウケヤマ」
仝 三十四年	仝 四年	「ホントヒ」
仝 三十五年	仝 五年	「ブチガイ」
仝 三十六年	仝 六年	「ホンチヨ」
仝 三十七年	仝 七年	「ヨコヤマ」
仝 三十八年	仝 八年	「ヒグリト」
仝 三十九年	仝 九年	「ホンヤマ」
仝 四十年	仝 十年	

如上の如くにして切判は十ヶ年を以て同一記號を繰返すものなり。

以上の切判は一定不變のものにあらずして新口伐木地を設定すると同時に便宜增設せらるべきものとす。

木材產出地の切判	賣却命證の記事
切判	產地出張所名
仝 木曾山	
仝 仝 上松	
仝 仝 福島	
仝 仝 須原	
仝 仝 野尻	
仝 仝 阿寺	
木曾山 林業試驗所	
仝 仝	
仝 仝	
仝 仝

出張所名	事業ノ種別	伐木面積	原木材積	造材材積	山落小谷狩	軌道々路（輸送）	鐵索運搬	鐵道輸送	大川狩	經費合計	人夫延人員數
藪原、三瀧、上松	伐木	三八一三三町	五三、九九二、七四一石	一九六五六、六四八一石	二四、〇六六、九一石	一九四、八五八、六六石	九三、〇二二、〇石	五九三一三五九〇円	杣 四一、三四人	合計 三九一、三七〇人
尻、三殿、妻籠	合計内比日伐	二四七一四六九、七五九、三五五	八二六、三九〇、五三七石						小杣 三三五、三		
湯船澤	間伐	八六、六二	八三、三三五石	六三、八四四、〇石	九一、三三三石	六八、三四五、七二石	一三、九〇三、四石	一六、七三八	常日雇 三八、六一三		
									出日雇 八、九九一		

圖 大阪出張所概況

帝室林野管理局大阪出張所は明治晩年の開設にして、其後多額の資金を投じ北區川崎町（櫻の宮）に壹萬八千坪に近き敷地を求め、貯木池には城東線櫻の宮驛を基點とし、河川には淀川沿線にて俗名源八の渡場に接觸するので、運搬には水陸共に至便此上なし、材木は、熱田、桑名の兩貯木池の材質に等しく共に木曾、飛彈地方の御料林より、中央線を經て直に我大阪に移入し來れるものであつて、其數量は熱田出張所取扱に比し遠く及ばざるも、其材質と寸法、價格に於ては何等異る處なく、故に公賣の立會者は大約六十人なるが、其中二三十人は名古屋商人にして、其他は大阪或は一部地方人である。而も此公賣に落札するものには名古屋商人多く、木曾方面より來れる木材が再び名古屋地方へ逆送するの奇現象を見ること往々である。何故に斯る不合理を累年演出しつゝあるや、之れ決して御料局が我大阪に過送するに非ずして、需用家は水陸共に至便の地に斯る良材の到來せるを輕視して、古き因習に囚はれ遠く名古屋に購賣するは、之れ蓋し該貯木池の狹隘にして各種寸法、材質共に異種のもの尠少なるが爲め、遂に購買者の眼を喪ざるに歸因せるものではあるまいか、少なくとも專門者ならざる吾人が、土地習慣の知れざる熱田に迄之れを求めずとも、該設備に今一歩を進めたらんには、我大阪市は居ながらにして然も安心して之を得るの域に到達せられ度きものである。

最近三ケ年に於ける我大阪出張所に於て賣却せられたる材積並に其數量を記載して之れが參考に供せんとするのである。

◎大正自四年至六年主要木材處分比較表（最近三ケ年間）

大正四年度

樹種	上材	中材	並材	下材	小計
ヒノキ	九九五・〇三石	一、一八三・五〇石	四四五六・三三石	一三、六二三・八一石	二〇、三三七・六六石
カウヤマキ	六一・〇三	八二・五六	二五二・一八	一、五五七・七八	一、九九三・五四
サワラ	七四・二九	五九・七五	二三四・六五	一、八九九・〇八	二、二六七・七七
アスナロ	〇・七〇	——	一・二七	三八・〇三	三九・九九
モミ	四・三〇	一・六三	六・〇九	三四・九五	四六・九七
ツガ	八・七五	八・七五	三四・三六	一、五九・三五	一、九八一・二三
其他	八・二三	三四八	五・七七	三七・九一	五五・三八
計	一、一五二・三	一、三三九・七七	四、七〇・六五	一八、七〇・九〇	二六、一二一・六五

大正五年度

樹種	上材	中材	並材	下材	小計
ヒノキ	二、〇八五・二六	二、一九三・五四	七、八六九・八九石	一九、六〇一・四四石	三一、七五〇・一三石
カウヤマキ	一九二・二〇	一九五・四八	六六五・六〇	六、五六〇・六八	七、六二三・九六
サワラ	二九六・五九	三八三・九六	一、〇八八・〇一	二三、八七四・〇七	一四、六四二・六四
アスナロ	一・九〇	九・七八	二二・七五	三四四・三八	三六八・七三
モミ	六一・三六	一〇一・〇五	一四八・一〇	九五二・三八	一、二六二・八九

樹種	上材	中材	並材	下材	小計
ヒノキ	二、九八〇・九三石	二、七三九・八三石	八、〇四八・二五石	三二、三二・四〇石	四六、一三一・四〇石
カウヤマキ	五五・一三	四三・七九	一二一・六七	一、七六二・三五	一、九八一・九三
サワラ	三三八・一七	二〇一・九二	五〇〇・八七	四、九八八・三六	五、九二九・三三
アスナロ	八一・六九	七六・四九	一三四・三〇	三、二七〇・四六	三、五六一・九四
モミ	二六四・三六	二三〇・一二	二六五・六七	一、二〇九・三〇	二、〇八九・四五
ツガ	五〇・八一	八五・三三	二四六・九四	二、二六三・〇九	二、五五一・一七
其他	三六六・九四	二八四・五八	四三・一九	二、六三・二九	三、七〇七・九八
計	四、〇三八・〇三	三、六六三・〇五	九、八〇〇・八九	四八、四八四・二五	六六、〇四六・二二

樹種	上材	中材	並材	下材	小計
ツガ	一五・九四	四七・四三	一二三・三二	二、六九五・三八	二、八七二・〇五
其他	六二・〇七	二三五・〇六	三七二・四五	一、一三三・七一	一、七八三・二九
計	二、七二・六三三	三、一五六・二二	一〇、二七〇・一三	四四、一五・〇四	六〇、二九三・九九

大正六年度

總合計	一五二、五二二、五五石
ヒノキ（上中並下各等合計）	九八、〇九九、一九
サワラ（同　右）	二二、八三九、七三
カウヤマキ（同　右）	一一、五四九、四四
ツガ（同　右）	七、一〇四、四五
アスナロ（同　右）	三、九七〇、六六
モミ（同　右）	三、三九九、三一
其他（同　右）	五、五四六、六五

◎各種木材等紙別

	16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 萬石
上等材	九、九〇六、六五石
中等材	八、一五九、〇五
並等材	二五、一〇一、六六
下等材	二一、三四四、七五
合　計	一五二、五二二、五五

■綱場及貯木池

綱場　木曾、錦織（美濃國加兒郡錦津村錦織）
飛騨、下麻生（美濃國加茂郡下麻生村下麻生）

貯木池
熱田白鳥　五四、〇二七面坪
伊勢桑名　三五、〇九〇同
東京深川豐住　一八、二四〇同
同　猿江　內匠寮所管（豐住の約四倍）　一七、六四〇同
大阪櫻の宮

白鳥貯木池へは大正六年度に鐵道院名古屋驛より引込線開設せられ本線には熱田驛を至便なりとす。

更に貯木池へは筏にて搬入するもの多し。

桑名貯木池へは同驛より約十町にして、馬車の便がある。

水運は筏に依るものとす。

◎各領域より採出する木材の性質及特徴

各御料地産出の木材を比較研究するが如きは本項の主意にあらざるを以て主として木曾、飛騨材即ち尾州材に就て其梗概を略述して見やう。

凡そ扁柏（ヒノキ）、金松（サワラ）の郷土として本邦木材界の覇を誇るもの、獨り木曾御嶽を中眞として、東西は奈良井方面より西南中津川に至る中央本線約五十哩山面積約十五萬町歩の森林には、其林相甚だ複雜にて緩急突々數條の溪谿盤旋蜿蜒して形成して居る海拔七八百尺より壹千七八百尺の間に介在し、殊に御嶽、王瀧の御料林は標高三千餘尺の劍峰を分水嶺として、東降御嶽七八合目より小三笠山西走三浦山を抱擁して西筑摩より王瀧川に注ぐ更に上流三浦御料より濁川、瀨戸川御料林に至り、中央線上ヶ松、木曾、福島の中間神戸（コード）に於て木曾川に合流するのである。

之れ等の土地には地には概ね垂直的位置に於ける扁柏、檜樹帶より見る時は溫暖二帶を擁し盛夏と雖最高の溫度八十度に昇ら

す又寒冷と雖氷点下に降下する事稀であると云ふ。氣候は温暖和適にして降濕度多量にて雨量又豊富である。加ふるに土地豊沃にして暴風雨少なく、樹木繁茂上の要件一として可ならざるなく、然も密雲深く鎖し風塵達せず人跡未だ到らざる此別天地に於て、其郷土の樹木が極度の繁茂をなし居るもの、世に愛林家は垂涎恍惚たるものである、即ち木曾、飛騨中最も良材を産出するは木曾支局野尻出張所管野尻山を中心とする野尻山系の東側一帯の地にして、王滝、小川、阿寺、柿其等の各地之に屬すのである、殊に上々松、小川産(**クノ上**)檜の如きは其色彩、光澤並に木理通直等を以て古來定評あるものである。

是れ蓋し同連山一帯の母岩(**石英斑岩**)と山向き等の關係に起因するものである、其他此地方の檜材は木理特に通直なるため屋根板の製作に適し金松、椹、標等何れも材質可良である。木曾駒ヶ丘を中心とする木曾山脈西側の一帯は之れ亦木曾川流域に屬し等しく木曾材の産地なれども其母岩(花崗岩)及山向きの然らしむるためか樹種、材質共に甚だ劣等なるものである。

名古屋支局管内付知産の木材は老大なるを以て名あるのである、若し檜、檜等の大材を必要とする場合は同材(**クナ**)印を適當とするのである。併し木理聊か粗大なるは免れざる欠點である、小坂出張所管内の伐出材は細少のもの多きも材質良好のもの點からず殊に**椹**材の如きは尾州椹材中代表的のものである、彼の東北青森縣内津輕半島地方よりの産出材にして遙かに優表材である、共他木曾地方産の樅、梅、松等何れも他國産に比し材質佳良なるも數量僅少なるを以て省略す。

附記　飛騨山脈即ち阿多野、小坂、下呂方面は概ね御嶽以西、西北に面する裏山にして寒霜烈風荒きために「**アテ**」、入皮、脂壺、陰れ節等の惡質材の如く推斷する人往々なるもそは大なる誤謬である、勿論木曾王滝、上松等の如き特種材を除けば孰れも一長一短ありて製作上何等の遜色なきものである。

明治神宮御用材には「**クケ**」即ち下呂材を御獻木相成ると聞く該山勢を見るに木曾鞘堂ヶ峠、糸揃山の山腹より竹原川に沿ひ下呂村を中心とせる平原の地多く概ね此林地より産出するもの多しと云ふ。

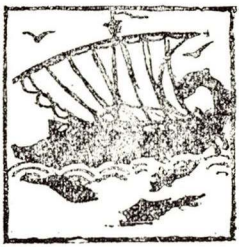
伊勢神宮司廳にて大廟御造營用木材は木曾御料地森林の各地より各一本選びの優良檜材を蒐集して御採用被爲在べきものと奉伺す。(未完)

□木曾路　(大淀三千風)

見上ぐれば梟端に花咲き、直下は膝頭に良材をしがらむ。樹神(ヤマヒコ)川音をあらそひ、丁々たる鉞の聲北にひゝけば、子をよぶこ鳥峰にかへり、桴(イカダ)に乘りし鶴は、南をさしてながれ行く。

木曾山の斧やおのれを呼子鳥。

鶴鶴(シキ)も査に氷る餘寒かな。



運河に就て（上）

東京高等商業學校教授 石川文吾

一

明治維新以來吾國の實業界は着々泰西の長處を模倣して成功を占め來れり。吾國に現時重要なる事業にして泰西より輸入せられざりしもの殆んどなく、歐米に繁榮せる事業にして吾國に移植せられざるしもの亦殆んど存せず、鐵道、海運、保險、通信等の事業は云ふも更なり、信託事業、廣告事業、與信事業等の凡ては皆何れも輸入せられたる新事業なり。然るに歐米の地には久しく重要なる事業として經營せられ、又現時に於ても須要なる事業と認められつゝあるものにして、未だ殆んど全く吾國官民の間に閑却せられつゝある一事業の存ずるあり。

運河事業之なり。

運河とは隔絶せられたる二個の水路を聯結する爲に、或は全然隔絶せらるゝにあらざるも又天然の儘にては水量四時に不定にして乾水增水の不便あり、又は水路逶迤屈曲徒らに舟航の距離を長からしむる河川を改善する等の爲に、人工的に開鑿したる水路之なり。其直接間接に經濟界に貢獻する事の多方面なるは別に論ずる處の如く、或は之を非營利的に開鑿經營して、斯くして生ぜる交通の利便に伴ひ來るべき其地方の殖産興業を期するも可なり。或は之を營利事業として實行し航行の船舶に運河料を課して好乎の收益を見るも亦可なり。歐米の地到る處始

んど其施設を見ざるものなきに拘らず、吾國にありては此業始んど起らず、僅かに四十萬圓の資本を有する一運河會社の事業と、京都の疏水工事とに其面影を偲び得るのみに止まり、一時計畫せられたる京濱間の運河事業も、今や之を記憶する人さへ少く官民共に此事業に付きて說を爲す者稀なるは奇と云ふ可し。頃者東京市が市長として田尻博士を迎ふるに及び、偶博士の計畫として鹿島灘より東京灣に通ずべき大規模の運河を傳ふる者あるも、吾人寡聞未だ其果して如何なる程度迄眞摯なる意見なるやを詳にせざるを惜む。

アボツトの云ふ處に據れば一馬力の動力は一秒間に良好なる道路の上にありては善く三千英斤の重量を三呎動かし得べく、鐵道上にありては三萬英斤、水上にありては二十萬英斤の重量を同一距離に動かすを得べしと。(W. Abott: Commercial Theory and Practice, pp. 41)斯かる概念は太古以來幼稚なる人種の間にも夙に認識せられたるものゝ如く、紀元前七千年の古にありて彼の**フワラヲー**朝以前に埃及に君臨せる支配者は既に組織立てる運河を開き、埃及人、カルヂア人、支那人等此方面に於て畫策せる處既に甚多かりしなり。「バビロン」人は紀元前千七百年に於て當時世界の偉蹟を以て呼ばれたる大運河を作り其後世荒廢に歸するや、**ネブカドネザー**の手に依りて紀元前六百年其改修を見るに至れり。道路の開通を以て著名なる羅馬人は此事業に付き爲せる處多からざりしも、**シヤーレメーン**は「ダニユーブ」と「ライン」を連結する運河を竣工し、進んで「ダニユーブ」を「メーン」川に連ぬる運河をも計畫したり。十五世紀に至り伊太利若くは和蘭に起れる堰を設けて坂路に運河を通ずる工夫ありて以來、運河は一層著大なる發達を遂げて十九世紀の初期鐵道事業の起れる頃までは陸上に於ける最重要なる運輸機關として存し來れるなり。(A. B. Hepburn: Artificial Waterways of the World, pp. 2—5)二千五百年の文明を有し大寶令以來治水の策に盡し來れる事例少からざる吾大和民族は、不思

議にも此事實に關しては記錄を遺せるもの甚だ少く、慶長以來二三の經世家が河川を改修せる事實はありしも、新に人工的水路を疏通して舟揖運輸の便を謀りし事蹟に至りては甚だ缺けたり。然も是等は當時の經濟界を識る者の必しも奇とせざる處なるべし。雄族各地に據り專ら自足經濟狀態に安んじたるが上に、消費者の嗜好尙幼稚にして只其土地に產する粗末なる產物に恁りて低級なる慾望を充足し、生產の規模亦少にして其他の消費者の需要をすら充たし能はざりし時代にありては、便利なる運輸手段を慾求するの念痛切ならざるは當然なればなり。只異む維新以來產業熾に起り慾求頻に向上し、大事業を營むべき資力亦大に充實せるに拘らず、更に又道路の改修鐵道の建設歲々相踵げるの機運に逢着せるに拘らず、運河事業の獨り泰西に盛にして、他の幾多の彼の地に起れる事業が。吾國に模倣せられたる間に、何等の反響を吾國に生じたるものなかりし事を。吾人爰に於てか先づ惑ひ而して其惑ひの由て來る處を闡明せずんば止む能はざるなり。

二

經濟界の事情大に異れる往時は暫く措き世界を相手とする大規模の市場生產が行はるゝに至りて、後に至るまで吾國に運河事業の進步極めて遲々たる理由を想像し來れば二種を得べし。第一は吾國の地理的形勢が運河事業に適せざるやに思はるゝ事にして、第二は鐵道事業の發達現在の如き時代に在りては運河の如きは最早過去の遺物として論ずるの價値なしとするものなり。

先づ第一に付きて考ふる運河は歐米大陸諸國の如くに廣き範圍を綏く貫流する大小の河川多く、土地亦平垣にして比較的海岸線短き地に於ては或は必要ならんも、形勢全く異れる吾國の如きに在りては其の存在の理由甚だ乏しとなすものなるべし。然りと雖も吾人は此斷定を否定すべき幾多の事實を聞知するものなり。英國の水路協會の秘書たる Frank Impey 氏が統計に

基きて立論する處に從へば、佛國の水運事業の繁盛は其自然の儘の河流に由來するにあらずして全く其設備周到なる運河自身の存在に胚胎す氏の算出する處に據れば千八百八十年には彼國の航行に堪ゆべき河川四千百七十哩は五億六千萬噸哩の貨物を往來せしめたるに對し三千百十哩の運河は六億八千四百萬噸哩の貨物に役立ちたるに、千九百五年には河川は十三億四千九百萬噸哩の貨物を通せるに對し、運河は實に十八億四百萬噸哩の役立ちを爲せる事實あり。土地の高低儉夷の点に付きては元來運河の性質として勾配の急なる地に設置する事鐵道の如くに容易ならざるは事實なるも、其方策宜しきを得るに於ては未だ必しも吾國に斯業の發生を不可能ならしむる迄に重きを爲す問題ならざるべきを信ず。此点に付きても前記**インペー**氏は歐洲大陸の運河中最も善く利用せられつゝあるものは急峻なる山地に設けられたるものに多き事を擧げ、「ヲワズ」川に沿へる「ショーニー」を「エスコー」川に沿ふ「カンブレー」と連結する「サンカンタン」運河が五十八哩間に三十五の堰と二の隧道を有する難路なるに拘らず著大の成功を占めたる事、「ライン」川を「マルヌ」川に連ぬる百二十八哩の運河が途中百十三の堰と三の隧道と三の導水槽を設けて僅かに通せるものなるも、千八百九十五年より千九百五年に至る間に於て通過貨物に五割の增加を見るに至れる事實其他數多の類例を擧げて山地に於ける運河の尙大に用ふべき所以を明にせり（Whitaker's Almanack, 1918, pp. 715）吾人は是等技術方面の事に通ぜざるも、親しく見聞せる事例は吾人に敎ゆるに急勾配の地に於ける運河に付きては自ら施すべき策の尠からざるを以てするものあり。南半は「ルユサンブルグ」に亘りて土地比較的急峻に、北半は和蘭に連りて平垣なる白耳義の中央部に在る La Louviere なる都會には高さを異にする事二百十餘呎の二條の運河を容易に連結する昇降機（Ascenseur）ありて些の遺憾なく南北の交通行はれつゝあり。

海岸が近くに存じ海岸線長きが故に運河を要

せずとの意見の如きは、内地の何れの地点よりも容易に海岸に到り得る便宜ある事を前提として、始めて一顧を値ひするに至るものにして、吾國現時の交通の便宜の程度を以てしては未だ重きを置くに足らざるものと云ふべし。寧ろ此事たる反對に短距離の運輸機關として鐵道に勝る便宜を有する運河の必要を說くの一論據としてこそ若干の價値あるべきなり。天然の形勢吾國に冨る處多き伊太利に在りて尙六百五十五哩の運河存し、特に舟楫の便に供する爲めに改修せられたる九百六十七哩の自然水路と相俟ちて國內重要の運輸機關なるに拘らず、曩に千九百三年政府は新に二千百十二哩の人工水路を疏通するの策を建て四千五百萬圓の經費を議定せるの事實に想ひ到れば、所謂地理的形勢が獨り吾人に對してのみ運河の利用を不可能ならしむる事あるは信ずる能はざる處なりとす。

三

十八世紀の後半以來盛に隨所に起りたる運河事業が鐵道の一たび起るに及びて一旦萎靡不振となれるは爭ふべからざる事實なり。然も此事たる運河事業が運輸の上に於て絕對に鐵道事業に勝り得ざる弱点あるが爲にはあらずして眞の原因は多く他に存せるなり。固より運河には固有の短所も存じ鐵道事業が殆如何なる山地にも行はれ得るに反し、運河は水量の豐富なる傾斜緩なる地方に限り之を設くるを得べく、鐵道上には必要に應じては善く五十哩の急速力を使用し得べきも、水路狹く從て水壓多大なる而して兩岸の護岸を保全する必要ある運河內にては最高の速力と雖も十哩を出る事能はざるべく、鐵道は四季間斷なく使用し得べき利益あるも、吾國にては降雪洪水等の爲めに夏季及冬季に於て毎年鐵道の不通を生ずる事はありとするも）運河に至りては洪水、乾水、結水等の爲めに其の使用し得べき時期甚しく局限せらる。洪水と乾水とに對しては之を防ぐの設備なきにあらざるも如きも免れ難き缺点は實に多期の結水なりとすクレルジエの言ふ處に從へば「ライン」川は「マ

イヤンス、コブレンツ」間に於て毎年十八日、「エルベ」川は「ハンブルグ」附近に於て三十九日「ダニューブ」川は「ガラツ、」附近に於て三十八日「ボルガ」川は「アストラカン」附近に於て百十一日「ホドソン」川は「チルバニー」附近に於て九十二日「シントローレンス」川に至りては「クエベック」附近に於て百四十一日の結氷を生ず(P. Clerget: Manuel d'economie Commerciale, p. 194.) 其近傍に設けらるゝ運河蓋し略是等と同一の運命の下に立つものなるを思へば、運河の利用時期の案外に長からざるを知り得べきなり。然れども是等短所の半面には同時に鐵道事業の企及すべからざる長所の存ずる事別に說く處の如きものありて、運河の急激なる衰頽は決して其の固有の扱くべからざる劣勢が爲にはあらざりしなり。鐵道事業が續々各地に起りたる時に方り多くの運河業者は、此時世を達觀し得ずして依然過去の巨利を夢みて毫も其事業の改良に盡さゝりし事、鐵道業者が運河の事業を奪はんが爲めに運河に併行する線路に於ける運賃を極度に引き下げて辛辣なる競爭を試み、或は運河流域の主要なる部を買收して特に其部分の通航料を引上げて運河全線の使用を難からしめたる事、當時の運河が多く地方的の利益の爲めに設けられたるものなりし爲め、其幅員水深區々なるのみならず閘門の大さ亦差異少からず連絡輸送の便宜なる時に同一運河業者の所有に係る水路にありても、途中幾たびか積換を爲して僅に目的の地點迄輸送を爲し得るの不利ありし事等何れも重要なる原因なるが、特に運河の沈滯振はざるに反し鐵道事業の目覺ましき活況は人才と資本との凡てを羅致するの結果を呈し、苟も手腕あり抱負ある技師、經營者は擧りて鐵道業者の門に集り既設鐵道の成巧に熱狂せる資本家は鐵道事業とし云へば其内容を顧る迄もなく爭うて資本を供するに至り、數百千萬の資金は年々鐵道に關する新しき試の爲めに使用せられ實驗の結果は年々實用せられて能率年と共に加はり運河事業が何の改良進歩もなくて經過し甚しきに至りては維持修復をすら爲さずして荒

廢に委せつゝありし間に於て、鐵道事業は駸々として　達の機運を捉へ得たるものなり。(E. J. James: The Canal and the Railway, pp. 11—25.)

以上述ぶる處は主として英米二國の事實に原き立論したるものなるも蓋し他の國に付きても概要過らざる處なるを信ず。吾人の視る處にして大過なしとせば鐵道業の大に起り運河業の大に荒れたるは鐵道と運河其の物の間に優劣の勢動かすべからざるもの存せるが爲めにはあらずして、鐵道業者と運河業者の手腕、活動力、判斷等の點に著しき軒輊の存せるが爲めと云ふを得べく、其の結果は事實に現はれ來りて鐵道事業が其速力に於いて其の運賃に於て又其の運送依賴者に對する態度に於て往々當初世人の期待せる處に副はざるの事實認めらるゝに至りて以來、運河復興は自然の數として世の注意を索くに至り、Canal Resuscitationの聲漸く高からんとす。項を改めて少しく其事實を舒し彼の運河を目して鐵道存在以前の運輸機關となし了る人の一顧を煩はさんとす。

四

各國運河の近年に於ける發達を一目瞭然たる數字に依りて揭ぐべき材料は缺げたり。**マルホール**及び**ウエツブ**の統計辭典、**コンラツド**の國家學辭典**カルワー**の世界經濟年鑑の如き倶に此點に關し資料を供する事甚乏しきを以て此手段を採る能はざるを遺憾とす、然れども歐米の諸國が近く千八百八十年頃より頻々運河事業に多大の注意と經費を拂ひつゝある幾多の事實は千百の統計よりも此事業の意義の如何に大なるやを知るの手段たり得べし。

佛國は普佛戰爭の後を承けて事業不振失業の勞働者多かりし時に於て彼等を救濟する趣旨を兼ねて其多年囑目し來れる水路の改修を實行する事とし、先づ千八百七十一年より七十八年に亘りて「セーヌ」川を浚渫し「ヨンヌ」川に運河工事を施し「バーカンディー」運河を改修する爲めに五千萬圓餘を支出し、其工事僅に了るや、

千八百七十九年更に「フレーシネー」案を採用し二億八千萬圓を投じて國内の水路を疏通する事となはれり。其の案は二千五百哩の河流二千二百五十哩の運河の改修と八百七十五哩の新運河の開鑿を含むものにして、是等は大洋を航行する船舶のために設けらるゝものにあらざるも能く三百噸の艀舟を通せしむるを期せり。千九百五年に於ける國内運河の全長三千五十哩に及び歐大陸中の巨擘たり。(J. E. Palmer : British Canals, pp. 108—112; J. James: Op. Cit. pp. 22—23.)

獨逸にては普魯西政府は夙に運河の須要なるを認め千八百八十二年大規模なる蛛網的運河疎通の策を建て千八百九十三年迄に支出せる額一億八千萬圓に達せり。是等運河は主として舟運を通じ得べき自然の川流を連結する爲めに穿たれ、其幅員水深共に大にして善く六百噸の艀舟を往來せしめ得る事に於て歐洲に冠たるものなり。近く着手せられたる「ミュールハイム」より「ライン」川に達すべき運河が其の距離の短かきに拘らず、四百二十五萬圓の經費を計上したるは其規模の大なるを語るものにして、水深實に十三呎千七百噸級の艀船の航行に堪ふるものと傳へらる。一層最近時に於て「ババリヤ」の政府は新しき「メーン、ダニューブ」兩河連結の運河を起工し、「メーン」川に沿ふ「ハンベルヒ」より「ダニューブ」河畔の「ステップベルヒ」迄四百七十哩の水路を設けんとし、之が經費として三億三千萬圓を可決したり。

英國は一時歐洲に於ける最も進歩せる運河國なりしと共に其後に至りても最も退歩せる運河國たるに近き事實を現出したるものなり。運河の長さに於てこそ未だ曾て何れの國にも一歩をも輸せざれ、其の三分の一は鐵道業者の掌裡に在りて所謂 Railway-Canal Policy の犧牲となりて荒廢に委せられつゝあるもの多く其餘の多數亦規模小にして統一を缺き實益を發揮する事甚少かりしも、四十年來歐洲大陸に鬱積し來れる運河復興熱は最近に至りて此國の人士を警醒するに至り、千九百五年「マンチエスター」に

開かれたる全國商業會議所聯合會は滿場一致を以て公なる團体は國内運河の改良擴張のために必須なる措置を爲すべしとの議決を爲し、翌千九百六年「ローヤルコンミッション」置かれて、

(一)運河の現狀及其財政狀態

(二)民業たる運河が改良せられざる原因及び何等か法を設けて斯る原因を撤去し得べき手段

(三)商工農に重要なる地點間及び是等と海岸との間に完全なる人工水路を設くるに方り必要なる施設、改良策、擴張策

(四)運河業者が其投資に對し相當の利潤を見るに足る料金を課する事が英國の商業に及ぼすべき影響

(五)運河の經營を公共團体に託する事の可否若し可なりとせば之に要する經費の支辨方法及斯る事業主體に必要なる監督策

等の點に付き調査を命ぜられ、爾來委員は頻繁に其の調査の結果を發表し、千九百九年に至りて最後の答申書に公にせられたり、其一節に曰く

「吾國の運河は現在の狀態に在りても、尙人口多く産業盛なり、而して工場、炭坑又は舟舶を其附近に有する地に在るものは、若干地方的の運輸に役立ちつゝあり。其事業の性質は鐵道事業と利害衝突するものにはあらずして普通の道路上に行はるゝ運輸を輕減するの地位に在るものなり。然れども現狀の儘にては遠距離の運輸に付きては、吾運河の能率甚乏し國家は宜しく千七百五十萬磅の資を割きて國内の幹線とも云ふべき運河を改修し、少くとも百噸の艀舟を自由に往來せしめ得るの策を建てざるべからず」と (Hazell's Annual, 1911, pp. 335—336.)

爾後此國に於ける運河は着々改善の域に向ふと共に新しき計畫の起るもの亦多し。最近の一事を擧ぐれば蘇格蘭の西海岸たる Firth of Forth を東海岸に流れ入れ「クライド」川に連絡する大船運河たる Midscotland Ship Canal にして其完成に依りて現時取られつゝある長き且つ危險

なる Pentland Firth の航路を避け得るに至り「グラスゴ、リース」間に於て四百八十五哩「グラスゴ」「龍動間に於て二百三十五哩、「グラスゴ」漢堡間に於て三百十二哩の短縮となり「リバプール、トリース」間の距離亦四百哩を短縮し得べしと傳へらる。

露國亦大勢に晩るゝ事なく曩に二千萬圓を投じて「クロンスタット」と「ペトログラード」の間六哩に亘り、二十呎半の運河を設け千九百十二年には八百萬圓を投じて「マリインスキ」運河を改修したるが、更に最近時に至り北「ドヴイナ」川に沿ふ「ヴイテブスク」より南「ドニーパー」河に瀕する「チルシヤ」迄五十哩の新運河を造り併せて是等兩川を改修して一千四百七十三哩の人工水路を開かん事を計畫したり。其の經費戰爭前の豫算にて一億六千七百萬圓に及ぶも、斯くして「バルチック」海と黑海との連絡を十二日間の舟行に短縮するを得るを思へば其業決して徒爾にあらざるべし。

紐育州は米國に於ける運河事業發祥の地なり著名なる「イリー」運河は千八百二十五年三千五百萬弗の資金を投じて竣工せるものにして、爾來幾度か擴張工事を施こし來れるも、尙此州の商業上の位置を鞏固ならしむるに必要なる手段をして、千九百三年一層大規模なる改修を加ふる事となり、三億圓の經費を支出して一千噸級の船を往來せしむべき工事を起すに至れり。

此他比較的小なる例は擧げ來れば際涯なし。白耳義が千八百八十年より千九百五年に至る間に運河及港灣の改築に一億六千萬圓を支出して「ダニューブ」「ヲーダー」「モンダウ」エルベ」「ワイクセル」等の諸川を連ぬる新運河を設け、併せて舊來の運河の改良を爲すの策を建てたる如き伊太利が既記の大工事を發案したるが如き何れも既に鐵道の大に利用せられつゝある國が近時に於て熱心なる注意を運河事業に拂ひつゝある重要なる事例たり。



都市と建築

都市研究生

三十年後の大阪（四）

六　衛生設備と市民の健康狀態（上）

三十年後の我大阪の衛生設備や市民の健康狀態を考ふる前に、現在如何なる設備を有して、我々大阪市民が其健康狀態を維持しつゝあるやを一と通り知ることが必要である。

都市の衛生設備は科學の進歩と共に今後益々複雑多岐に至れることゝ思はれるが、其大綱は凡そ左の三項に分れるのである。

一　上水供給
二　下水處理
三　家屋築造の制限

而して應急策としては更に幾多の緊要痛切の問題を含むのである、今其主要なる項目の二三を擧ぐれば。

屠芥處理、結核療養所、食糧試驗所、衛生試驗所等にして、更に市民の衛生思想涵養の爲めに衛生博物館の建設をなし、常設觀覽の外頻繁に通俗講演をも開催して、公共設備と箇人節制とを並び進ましむるの方法は、最も望ましき事である。然るに現時我國の都市は以上の設備を徹底的に實施しつゝあるもの皆無にして、文明都

市としては甚だしき欠陥を有するのであるが、唯其中に就て東京及大阪は比較的其施設に優れるものあると言ふまでのことである。其結果は又都市民の健康狀態に影響すること勿論にして、現代歐米都市の死亡率が最近二三十年間に千人に付二十八乃至三十八より十四八乃至十五八の程度にまで遞減したにも拘らず、我國都市のそれは漸く千人に付き十七乃至二十の程度に達したに過ぎない。今大阪市民の死亡率を示せば、（明治四十年より大正五年に至る）左の如く、一進一退の狀況を繰返すのである。

明治四十年	二〇・五二
同　四十一年	二〇・三一
同　四十二年	二〇・七四
同　四十三年	一八・二一
同　四十四年	一八・二七
大正　元年	一五・八一
同　二年	一五・九七
同　三年	一七・三一
同　四年	一七・二七
大正　五年	一八・一五

而して此等の示數を明治二十三年より同二十七年に至る五ヶ年平均死亡率二十四八七分八厘に比較する時は可なりの改善進歩をなしたものと見ることも出來る。乍併之を衛生生理學の立場より見、都市衛生工學の理想より觀察するに都市住民の健康狀態は結局農村の住民よりも好良なる成績に達し得るのであるから、我大阪市の現在の死亡率が尙ほ千人に付十八人と云ふ如き高率を示しつゝあるを見ては、到底之に滿足するを許さないのである。況して今後都市の群集甚しく、生活不安の傾向著しきに於ては、都市民の健康狀態は漸次危險を增すの虞あるに於てをや。吾人が現時の如き不完全なる衛生設備は一刻も早く之を改善して、三十年後には我大阪の地は倫敦以上の健康都市であるように畫策せねばならぬと唱ふるのも、必ずしも無謀の考ではないのである。以下各種の項目に就て現狀を述べて其改善の徑路を辿ることゝする。

給水工事　は現代都市として之を欠くことの出

來ない最も主要なる衛生設備の一つである。

國の都市が水道工事を起して一般市民に給水をなせし最初は明治十八年の横濱市のそれであつた、同市は英人バーマー氏の設計により、その人口十萬に對し英國流の緩慢砂濾式を用ひ一日百八十萬ガロンの淨水を供給し得るのであつた其給水開始後の同市の衛生狀態は非常に好良となり、其死亡率の低減と日用の利便は實に想像以上のものがあつた、此に於て政府は之を全國の都市に普及せしめんと決心し、横濱に次いで函館、長崎に之を實施せしめ、明治十九年の虎疫大流行の機會に我大阪市に其計畫を慫慂したのである。大阪市は即ちバーマー及バルトン氏の計畫により其實施の準備をなし、明治二十八年に其一期工事は竣成し茲に始めて市民は清淨の飲料水を得ることゝなつた。其後の急性腸胃傳染病患者は急激に減少して毎年千人の單位より百人の單位に低下し、又一般死亡率をも著しく輕減したことは前表にも示す通りであつた。

其後大阪市の膨脹と共に給水の不足を感じ、第二期擴張工事に取かゝり自今五年前に竣成した、現在は毎日四千四百八十八萬ガロンの給水容量を有するのである。東京市は舊式の神田上水等の給水ありし爲めか、砂濾式の水道工事は非常に遲れて明治二十三年に出來たのである、然るに其後給水量不足勝にて今は大規模の擴張工事を實施中である、其計畫によれば三百萬の人口に供給し得る容量を有つと言ふことである（毎一日の供給力一億二千八百萬ガロン）今大阪市の給水能力を見るに、約四千五百萬ガロンの水量は人口百五十萬人に對し一日三十ガロンに過ぎないのであるから、現在の大阪市行政區域内の人口のみに對して給水量は已に其極度に達して居ると言はねばならぬ。之を都市の衛生狀態保護の精神より言へば、大都市は其周圍の接續町村の住民に十分なる給水をなして、彼等の衛生狀態を都市内部の住民と並行するように努力すべきである。幸に我大阪市は現在多少の餘裕ある給水力を附近町村に分配するの案を立て、之を實施しつゝあるは吾人の大に賞讃する

を惜まぬところである、けれども其反面には甚しき矛盾を發見するのである。

我大阪市の現時の給水策には二箇の大欠陷あるを指摘せざるを得ない、其第一は人口の增加率に伴ふ擴張計畫と文化の進歩に適應すべき擴張計畫の方針なきこと、其第二は市民及接續町村住民即ち大大阪の圈內住民には强制的に公共給水を使用せしむる方針なきことである。以上の二大方針なくして我大阪の給水事業を經營しつゝある現時の市政は我大阪の日進月步の趨勢を沮害するものと言はねばならぬ。現に東京市の給水事業經營は其接續町村への給水を拒絶せざるを得ざる狀態にあり、其結果東京市民の衛生狀態が其外廓住民より脅かされつゝあるの事實は、やがて我大阪市にも適用さるゝに至るや必然の勢である。

大阪の人口增加率は前章に述べたる如く、將來は每年參萬五千人以上を算すべく、三十年後には參百萬人に達するは殆んど疑の餘地なき推算であるとすれば、其給水計畫は其人口增加に先んじて常に餘裕綽々たるものでなければならぬ。若し給水不足の聲轟々と喧しくなりて後に其計畫を立つるが如き事あらば、其給水の實現さるゝまで數年の間は市民は如何にして其健康狀態を保護し得るや、考ふるだに恐ろしき事である。殊に工業の進歩に伴ひ工業用給水は益々其分量を增さゞるを得ざるべく、各種の淸淨法又多量の水を消費すべく、搗てゝ加へて强制給水を實施する曉に要する水量の增加もあるならん、此等を十分に酌量して其計畫を立て、遞次其案を實施するの方針を採り、第三期、第四期或は第五期と每期貳千萬乃至參千萬ガロンの擴張をなし、三十年後には壹億五千萬乃至貳億ガロンの給水量を有することは絶對に必要なる施設でなくてはならぬ。

現代の都市は其文化の進歩に伴ひ、各方面に科學的施設の適用益細密となり、又同時に其計畫益大規模となるの傾向となつて來たのである殊に給水と下水の事業に於て其甚だしきを見るように立至つたのは、健康の保全が人類の最大

問題であるからであると見ねばならぬ。舊式の給水事業は今此處に贅せず、近代の給水事業の傾向は先づ飲料、清潔法（排便裝置、浴場、洗濯、料理、街路掃除）防火栓及工業用の四種に適用するを原則とするようになつて來た。我國の給水事業も稍その方針に近きものなれども、飲料を主とし其他には十分に徹底せざる遣方である。それにしては水量の使ひ方が多量に過ぎる嫌あるを免かれぬ、歐米各國都市の給水は其人口一人に對し二十五ガロン以上七十ガロンを普通とすれども、最近亞米利加都市の給水計畫は非常に大規模のもの多く、其人口一人に對し三四百ガロンの容量を有するものさへ見出すのである。我大阪市は現在人口一人に對し、一日三十ガロンの給水容量を有するけれども、若し今後各種の清潔法に上水を利用するに至らば、恐らく一人の使用量は五十乃至六十ガロンに達するであろふと思はれる。我國の習慣として飲料水、洗濯、浴室等の使用水量の贅澤なるは、將來の給水計畫に甚しき影響を生ずる問題であることは吾人の特に一般人士に愬へざるを得ざる事柄である。

要之我國都市は今後其文化の進歩と共に市民の使用水量が著しく增加するは覩易き事柄であるから、唯從來の統計を辿りて其擴張計畫をなすならば、忽ちに其欠陷を暴露することを考へねばならぬ、今や都市改造、建築改善の聲は輿論となり、我大阪市の如き率先して其實施に着手するの機會に到着したのであるから、其結果を擧ぐるに從ひ、一般清潔法に使用する水量の增加するは自然の數でなくてはならぬ。吾人は三十年後に於ける給水量を一人に付き一日五十ガロン乃至七十ガロンと見做し、其人口參百萬に對して壹億五千萬ガロン乃至貳億ガロンと豫定したのは、必ずしも杜撰なる計算ではない。

次に行政上市民一般に水道の良水を使用せしめることを強制して、たとへ一人たりとも河水や不良井水を使用することなからしめねば、給水計畫の根蔕に欠陷を生ずる譯であるから、此点に就ては衛生行政の衝に當るものは深く考へ

ねばならぬのである。然るに我國都市の水道事業は凡て市營にして、其給水を求むると求めざるとは市民の隨意であるから、如何なる都市にても其市民の大部のものが市營の淨水を使用するに限らず、其場末の貧民窟や、井水の豐富なる方面の住民は依然として河水及井水を利用しつゝあるの狀態である。近來衛生思想の進歩と衛生官吏の努力により水道上水使用者は餘程增加したけれども、大正三年度の調査によれば東京市は戸數百に付き水道使用のもの

大阪市は	五六・七九
同	六二・一二
京都市は	同 三三・六〇
横濱市は	同 五五・五〇
神戸市は	同 四七・五一

に過ぎなかつのである。大体に於て市民の三割以上のものが水道上水を利用せざるが如き不徹底なる現象は、何としても衛生行政の大欠陷である。吾人は今後都市住民は如何なる場合たりとも絶對的に其使用水（飲料及調理用）を水道上水に限らねばならぬことを主張せざるを得ないのである。

次に給水工事の進歩に伴ひ、防火栓用の水道を別系の高壓式となすを必要とするに立至るは明かである。現に亞米利加都市の數ケ所には、一平方吋二百斤以上の防火栓系の水管布設を實施して居るのである。

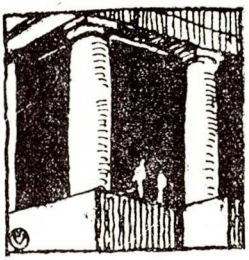
今後文化の進歩は我國の都市にも此の方法を採用せしめば止まぬであろふと思はれる。我國の都市が其經濟活動に於て今後更に一般の發達を遂ぐると共に其都市建築の高さが次第に增大し、五階建六階建を以て普通とするに至るは明かな事實であるとして見れば、防火水栓の水壓が少くとも二百斤以上は絶對必要の事柄となつて來るのである。又雜用水の水管を飲料水と別系にすることも場合によつては必要となつて來るかも知れぬが、我大阪の地勢は如何に都市が膨脹すればとて、郊外地に廣大なる緩慢濾過池を得ることさして困難を生ぜざるべく、旁々雜用水の濾過地を別になす程に窮することはなか

るべく思はれる。現に東京の如く取入れるべき水量に窮しつゝある場合には、飲料水と清潔法所用の水とを別系になすこと或は其必要を生ずるかも知らぬ。（未完）

▼北米合衆國の建築許可數漸減▼

一九一六年を標準として之を見るに北米衆合國の建築物建設は漸次遞減し、本年の上半季は一昨年上半季の約半數にまで落ちた、其數字左の如し

年次	建築費總額（弗）	百分比
一九一六	八五二、四二六、一〇六	一〇〇・〇
一九一七	五九一、四六八、二四四	六九・三
一九一八	三九一、二六三、五八三	四六・〇



名流の住宅觀

陸軍中將
前陸軍大臣
楠瀨幸彥氏 談

□應接間だけを洋風に

住宅には西洋建築が宜しいか、將た日本風建築が宜しいか、と云ふ問題は、大体、社會上の地位、即ち上中流とか下層社會とか云ふ事に依て違ふのであつて、之を一概に論斷する事は出來まい。然し先づ假りに、中流以上を標準とすると、所謂和洋折衷が、最も便宜で且つ住み好いものと思ふ。尤も私の和洋折衷論は、範圍が極めて狹きのみならず、簡單明瞭である、即ち大体應接間のみを西洋造りとしたいと考へるのである、日本人は人を訪問するに當つて、主人の迷惑を顧みず、兎角、平氣で長座をする癖がある、用のない時は差支ないが忙しい場合は非常に迷惑をする。夫れには應接間の設備も成るべく長座を爲せぬやうにする事も必要である、若し日本間にし、疊の上に座布團を出すとすると、客もスツカリ、坐り込んで了つて、談話もツイ長く成り勝である、此邊の意味もあつて、私は應接間は、椅子卓子で、手つ取り早く要談を濟ませると云ふことにして居るのである。

應接室を除いた凡ての外の室は、悉く日本風建築にしたい、日本造りは元來、一室でも種々のことに流用が出來る、例へば書齋でも、膳を運べば食堂となり、夜具を持つて來れば、寢室にもなる、打寬き胡坐でもかいて話す客間とも

なるのである。然し西洋造りとなると、寢臺の据へてある寢室を食堂にすることも出來ぬしいくら親しい人だつて眞逆に寢室に請じ入れると云ふことも出來ない、又食堂に寢臺を据へて寢ると云ふことも出來ない。要するに是等の點は日本造りの方が西洋造りよりも、遙かに經濟的であり流用可能で便宜である。

又日本室であると、狹くても結構であるが、西洋室であると、相當の廣さが無ければならぬ例へば四疊半と云へば、狹いには狹いが、結構一人の書齋とすることも出來る。然し西洋造りで四疊半と同じ大さの室を拵へたら、それは非常に狹いものになる、又假りに二十疊坐敷の疊を、スッカリ上げて、其中央に卓子や椅子を据ゑ附けると、其卓子や椅子にも場所を取られるし、旁々左して廣い室では決して無い、若し日本室で二十疊敷と言つたら、可なり廣い部屋になるのである、是れも日本造りの方が、遙か經濟的である理由の一である。

私は一体建築には多大の趣味を持つて居る方で、現に此の自分の住宅を建てるにも、圖は大工委せにせず、一切自分で引いた、又懇意の人の住宅で、私の引いた圖で建築した所が數軒ある、私の考としては、若し夫れユックリした建築をするならば、是非中庭を一つ設けたいと思ふ。現に此家にも設けてあるが、泥坊なら屋根を乘り踰へて來なければならぬから、用心の點には少しも差支なく、而して之に玻璃戸を嵌めて置けば、夏なら開けて置けば凉しいし、冬なら閉めて暖い、又光線が自由に入るから四邊の室の光明取りに、極めて都合よく、夏の夜なら開けつ放しの儘で寢られるのである。廊下も之に準じ玻璃戸にして置くことが、衛生的である、臺灣などでは窓を小さくして、成る可く外側の空氣を入れぬやうにして居るが、日本は成る可く開けて外側の空氣を入れるやうにした方が好いのである。一体、昔しの日本造りの室は天井が低く、光線の入らない、薄暗いのを以て言はゞ原則として居た、千の利休の茶室など云ふのが此の原則に適ふた生粹のものであつたの

であらう。然し今は最早、夫れではいかぬ、天井を高くし、光線は十分入れ、中の空氣は絶へず新らしくなつて居るやうでなければいかぬことは勿論である。

序であるが私の此の和洋折衷主義は、日本の農家が逸早く實行して居る、即ち住宅の中に、廣い土間があり、野良から歸れば、土足の儘、家へ入れる、腰を掛けて煙草も喫らせる、又人が來れば同じ樣に、草鞋の儘に腰を掛けさせ、用談をする、詰り椅子卓子の西洋造り應接間と少しも變らぬ、そして其外の室は寢室にも、食堂にも、其他お客をする間ともなるのである。

次に建築に關聯して、私の大問題と考へて居るのは便所である、日本の便所は壺の上が廣く若し常に之を塞いて置けば、開けた時に臭氣烈しく、常に開けて置ば近くの室迄臭氣が洩れる之に就いて私は種々研究を爲て見た、第一に、之を西洋流にして、臭氣が外へ出ぬやうにし、そして汚物は、直ぐに水で洗ひ落すやうにした所が水が兎角多くなつて、壺が直ぐに一杯になり、然も汁が多過ぎて、實が少いから肥料にはならぬとて、下肥屋が取つて行くことを拒む始末、是れには殆んど閉口して、早速中止して了つた。それで今度は、便所の傍へ壺を移し、汚物を土管で運ぶやうにしたが、是も失敗に終りトウ〳〵元の日本流のに逆戻して了つた。

人も知る如く、西洋の大都會は、上水道と共に下水道の仕組が非常に能く整理して居るから各住宅の汚物は直ちに管で、大下水へ落すやうになつて、極めて始末が好く附いて居る。先年私がペトログラートに行つた時、實見したことがあるが、所謂蜂窩邸宅を爲して居る一廓には中央に中庭があり、其處に大きい汚物溜が一つ置いてあつて、各室より管でもつて、汚物が其中に流れ込んで來る。夜になると下肥屋が、大きいタンクを運んで來て、喞筒で汲み上げて持つて行く仕組になつて居る、是も一方法に相違ない。が多くの大都市は皆下水道に依て便所の汚物を運ぶことになつて居る、下水道は實に大都市には、一日も缺ぐ可らざるものとなつて居

るのである。電燈などよりも先きに出來て居なければならぬ筈のものである、東京市民などもも下水道の設備が出來ぬ爲めに、便所は依然として舊套を墨守して、今日の非衛生的なる狀態に滿足して居なければならぬのである。市に隣接せる郡部に於ても、市と同樣下水道の開設を切に要求して居るが、是は個人々々の仕事ではいかぬから、共同一致して、郡なら郡の事業として、一日も早く之を解決したいと思ふ。尙ほ便所問題に就いては私は何處までも、斯の道の人々の所見も聞き研究の資に供したいと思ふて居る。

二階造りは大不賛成である、若し地所の無い時は、止むを得ないが、さもなければ二階は設けたくない、現に此の西洋造りの應接間の上に之と同じ廣さの一室があるが、唯の一度も客間等に使用したことがない、物の持運びやら何やら、非常に不便で、女中や書生に氣の毒に堪へない。西洋でも地價が不廉で、平面的に廣げることが出來ぬ市街地などは、止むなく縱面的に二階三階……何十何階と、上へ〳〵と擴げて行くのであるが、然も上へ行けば行く程、借賃が廉くなるのは蓋し當然の事と言はねばならぬ。

夫れから今一つ、押入の上に、更に押入を造ることが、非常に便利である、普通押入の上と天井の間に矩離があるから、之れに押入を拵へ下には日常使用するものを入れて置き、上には滅多に使はぬものを、仕舞つて置くのに用ゐると空間を有益に使用することになるのである。

□人手主義を廢して

國民經濟調査會委員
法學博士 小山温氏談

私は日本の住宅に就いては、モツと、小じんまりした建築法が、無いものか知らと思ふ、今

日の住宅は、徒らに、ダヾッ廣く、莫迦に坪數ばかり取つて、戸の開け閉てばかりでも、非常な手數を要するし、其他掃除から何から、ダヾッ廣い爲めに中々面倒臭い、モッと簡單な、モッと引締つた建て方にする工夫が、無いものかと思ふのである。然らば西洋風建築は何うかと云ふことになるが、是れも不感服なことが多い、第一、日本建築なら、空氣の流通などの點は、殆んど殊更ら注意しなくても宜いのであるが、西洋風建築では、之に反して、餘程氣を附けなくてはいかぬ、又掃除にも、餘程注意を要する、又日本人は、何うしても疊の上に、坐ると云ふ習慣が附いて來て居るから、全く椅子や腰掛けばかりではいかぬのである。

又西洋風建築に、日本風建築を、附け足すと云ふことは、尚ほ更ら不經濟になる。一体日本の住宅なるものを見て見ると、殆んど何から何まで、貴族的に出來て居る、先づ坐席にしてからが、自分は動かないで居て、外のものから、動いて來るやうになつて居る、食事を爲るにも、食器を備へて、チャンと待つて居る食堂へ、自分から足を運んで行くのではなく、小さい膳を、外の方から自分の前へ運んで來る、暖を取るにも、ストーヴのある所へ、自分が暖まりに行くのではなく、自分の坐つて居る所へ、火鉢が運ばれて來る、寢るにしても、自分から寢床へ足を運ぶのではなく、自分の寢る所へ、夜具を運んで來て敷いて呉れる、其他例を擧ぐれば際限が無いが、大体斯う云ふ風に出來て居るのである。即ち日本人は、家に在つては、全く身体を動かさないで、暮して行けるやうな建築に住つて居るのである、而して其反面には少しも動かぬ自分へ、外から運んで來て呉れる人手と云ふものが、澤山に要ることになる。嚴肅な意味から言ふと、全く無用な人手、省けば省き得べき人手を、澤山使つて居るのであるから從つて、徒らにダヾッ廣い建築も、必要になつて來るのであらう。私の所謂小じんまりした、引締つた建築にするのには、先づ自分が動かないで、人ばかり動かせると云ふ仕組から廢して

掛らねば、出來ない相談であるとは勿論である。

西洋風建築は、之と正反對に、坐席には椅子が、チャンと決まつて在り、食堂があり、寢床があり、暖爐があり、洗面所があり、萬事、自から動き、自分の身体を持つて行つて、夫れ〳〵用を足すやうに出來て居るのである、言はゞ前と後、左と右と云つたやうな正反對の風習を、一朝一夕に壞して行くと云ふことは、中々困難であらうが、兎に角、從來の他動主義、人手入要主義は一日も早く絶やす工夫をせねばならぬと思ふ。要するに、日本風建築の如くに、快濶に住まはうと云ふことゝ、他動主義、人手入要主義の惡弊を防ぐやうな、折衷的建築が出來て欲しいと思ふ。

次に西洋風建築は、家屋の構造が個人的に出來て居る、室と室との間には、堅固な戸や壁があり、儼然として、一室々々に分れ、其間劃然たるクギリが出來て居るのである。之に反して日本風建築は、全く一家が一室である、障子や襖で家が幾つにも〳〵分れて居ても、一度び悉く之を撤すれば、全家正に一室となるのである換言せば、西洋風建築の住宅は、室が手々バラ〳〵である、割據的であるのに、日本風建築の方は、共同的、團欒的である、即ち西洋風では親は親の室に、子は子の室にと、夫れ〳〵割據して居るのであるから、食堂と云ふやうなものを設けて、せめて食事の時だけでも、其處へ銘々に身体を運んで來て、食べながら顔を合はせると云ふことにしなければいかぬのであるが、日本風では親子夫婦皆一緒に共同的に團欒的に住つて居ると云ふことになつて居るのである。

詰り西洋風建築にすると、事の善惡は別として、兎に角、一家が一つであると云ふ、我が國の家族制度に、適合しないことになるのである更に一歩を進めて言へば、假りに日本國全部の住宅が、悉く西洋風建築に變つたとすると、行く〳〵は我國古來の家族制度が全く破壞されて了へはせぬかと云ふ虞があるとも言へるのである、然し一方には、前述の如く、日本風建築に種々缺點があるのであるから、此間の眞中を行

つて、折衷的で、以上の弊害も豫防し得るやうな、簡單な建て方は、無いものであらうかと思ふのである。

書齋は先づ大体としては洋風が宜しいが、或る場合には、日本室の方、遙かに便宜なことがある、例へば何か調査をしながら、原稿を書くと云ふやうな時に、卓上先づ原稿紙を自分の前に置き、夫れから書架から出した參考書を、其周圍に列べる、然も其參考書は、溜り〳〵つて何十冊百何十冊ともあると、洋風の卓子で、可成大きいものでも載せ切れない、と云ふやうな事がいくらもある。若し夫れが日本室であると六疊敷や八疊敷の室には、可なり澤山の本を並べて、置くことが出來る、私などでも一寸と調べものを爲すに、六疊敷一杯に、參考書を持ち出して遣ると云ふことは、隨分珍らしくないのである。尤も斯う云ふ利益はあつても、例へば腹這になつて、遠方にある本を、一寸開けて讀む、ツイ不行儀になるので、その儘、欠伸などをしながら、寢そべつて了ふ、など云ふことも有勝ちだからね、アツハヽヽ……。二階造りや三階造りは、物の持運びや何か、非常に不便である、私の宅なども、少し高臺にあるから、二階でも拵へると、可なり見晴らかしも、好いのだけれど、この通り二階は設けなかつた。即ち私の考を具体的に申すと、一種の和洋折衷の建築を望むのであるが、骨子を日本風建築に取つて、西洋風建築の粹を加味した小じんまりとした新建築を要望するものである。

□經濟衛生實用の見地から

貴族院議員
前遞信次官　内田嘉吉氏　談

私は住宅としては、日本風建築よりも、西洋風建築を取るものである、若し優美であるとか

瀟洒であるとか、美術的であるとか云ふ點から言へば、日本風建築も好いかも知れぬ。又日本の風俗習慣や、古來よりの事物を保存する、即ち國粹を保存すると云ふ見地からならば、是は全然別問題で、私としても一の意見を持つて居ぬでもないが、之を經濟的とか、衛生的とか、實用的とか云ふ諸點から見れば、私は何うしても、西洋建築の方を主張せんとするものである。

尤も今日、過渡時代の象徴の一と見るべきものであるが、各種の方面と同樣に、建築にも所謂和洋折衷と云ふことがある。即ち玄關、應接間等は全然西洋風建築に依りながら、書齋は昔しの書院造りにし、又客間には床の軸、生花を見ながら坐ることになつて居るが、之を實用上の便宜から見れば、腰を掛ける事にした方が、立ち易く坐り易い、光線の具合、空氣の流通も西洋風建築が宜しいし、第一、掃除も行き届いて、遙かに衛生的であることは言ふ迄もない。日本の疊には、諸々の病源も潜んで居ることは人々の能く知つて居る所である、又今日としては疊の爲めに費やす負擔も、決して並大抵ではないのである。

次に經濟的建築と云ふことに就いては、米國邊にある所謂標準家屋の仕組は面白いと思ふ、夫れは第一號標準家屋なら、用材は是れ、ペンキは是れ、摂圖は是れ、窓の數は是れ、床板は是れ、第二號なら此の方、第三號なら彼つちの方と云つたやうに、チャンと何から何まで、型と、材料とが一定して居る、そして懐ろ合の都合で、例へば第三號の標準家屋を建てやうと思へば、註文さへ發すれば、用材に番號を打つたのが、チャンと備附けてあるから、直ぐに建築が出來ると云ふ譯である、是は長屋作りにもなつて居る。斯る仕組の家屋は、美術的とか、風流とか云ふ點から言へば、素より問題にはならぬが、實用生活安價生活など云ふ點から見れば我國にも斯くの如き、標準家屋の仕組も、極めて面白いことゝ思ふ。



建築と趣味

(二)

香櫨書生

三　建築上の趣味の分類

段々述べて來た樣に、この建築に於ける趣味こそは實に廣大無邊なもので、上は哲學藝術の形似上の趣味より、下は材料結構の科學的趣味又は實用効利の上に宿された朝露の樣な世間的形似下の趣味に到る。即ちあらゆる人生の事象を寫した魔鏡の樣な不可思議さ、百科全書の樣な豐かさがある。

併し恁う云つたからとて之等のものが決して離れ離れに存在して箒溜の樣に集められて居るのではない。きちんとした分坦と連絡とを以て各其域を屆さずと云つた樣な有機的な秩序整然たるものがあるのである。即ち完全な綜合体と稱し得らるゝのである。

所が今日の學問上のやり方で恁うした綜合体を解說するのには、先づ之を大きく數相に分類する。そして之の一々に對して更に細い分類別をして一方の隅から蠶が桑の葉を一枚囓る樣に押しつめつゝ進んで行つて、さて最後に結論と云ふ奴で宜しく接ぎ合せをやつて焉をつける。あまり感心したやり方ではないが一寸分りのいゝ事では之に越したものがない。(獨逸の學問は總て極端にこの方法で發達して來た。で之を一般に獨逸式の解說法と云ふ。此所では一寸この獨逸式解說法を借用する)

扱てこの獨逸式を以て分類すると、建築の趣味上の問題を大体次の様に擧げる事が出來る。

（一）**形似上の趣味**
（イ）**哲學的趣味**
（ロ）**詩的趣味**
（ハ）**歴史的趣味**
(1) **一般歴史的趣味**
(2) **文明史的趣味**（人文的）
(3) **考古學的趣味**
（ニ）**藝術的趣味**
（二）**形似下的趣味**
（ホ）**構造的趣味**
（ヘ）**材料的趣味**
（ト）**用途的趣味**（生活的趣味）
（チ）**經濟的趣味**
（リ）**社會的趣味**

大体右の様に分類する事が出來る。

扱て此の分類に從つて（大体この順序で）建築の趣味を說くとして早速取かゝり度いが、其前にも一つ注意して置かなければならぬ要點がある。

それは外でもない。恁んなに分類しては說くものゝ之は前にも謝つて置いた様に全く便宜上の分類で決して建築の趣味がこんな離れ離れのものゝ寄合世帶ではないと云ふ事である、それをよく注意してかゝらないと兎角離れ離れなものとしての印象が頭に殘り易い。

その最もよい例が二つある。第一は素人の建築批評家で**ラスキン**と云ふ人である。この人は十九世紀の英吉利の文藝批評家であつたが、丁度この時代は歐洲文明に於て**新古典主義**があまり盛んであつた反動として、**新羅曼主義**が勃興した時であつた。それにはこの先生なども大に力のあつた方だが、先生其一方の旗頭として盛に文藝批評を初め詩とか繪畫とかの批評には大分**力瘤**を入れたものだ。彼の有名な**ターナー**と云ふ畫家などもこの先生の指導と推薦とに負ふ所が少くなかつた。元來先生も非常に器用な天才肌の男で、詩や繪などは批評する許りでなく自分も大分お得意であつたので本統に當つて碎

けた方であつた。だから其說は兎も角も當時の思想界に重きをなしたのである。所で先生このお得意の新羅曼主義を振翳して建築批評と云ふ奴を初めた。元來新羅曼主義と云へば中世紀の基督敎全盛時代の理想的夢幻的天國憧憬的信仰の思想を受續いだものである。で建築の方ではどんなものかと云ふと、彼の天に聳ゆる高塔(Spire)を築いて其高い塔の上に大きな鐘をつるして、其鐘の音が空に漲り渡るのに無限の渴仰の情をやつたと云ふ、向上的心情を表現した垂直線だらけのゴシック建築の時代である。

そこで**ラスキン**先生は盛にこの精神的向上の表現たるゴシック建築の美と力とを說いた。有名な『建築七燈』とか『**ベニス**の石』とか『**エヂンバラ**に於ける建築の講演』とか云ふ諸書の中に說かれてある、彼の火の樣な熱烈な叫びはいたく當時の建築家並に一般社會の有識者達を感心させたものである。その影響のいかに强かつたかは、今日英吉利とは全く日の照方の異ふ東海の君士坦丁の建築家方までが少し古いのになると**ラスキン**先生と先生附きで讃歎して居るのでも大凡は知られよう。又彼の**テームス**河畔に聳ゆる有名な英國々會議事堂の建築の如きもこの**ラスキン**先生方が作つた羅曼主義の生んだ代表的傑作である。

では其程に建築家を初め一般社會の有識者達を刺激し興奮せしめた**ラスキン**の建築批評とはどんなものかと云ふと、私の伺つた一端から推測して見ると、成程當時の建築家達を興奮せしめたのも尤もと思へる程の熱情と詩的魅力とを備へては居る。其點は吾々もうつかりすると乘せられさうになる程の誘惑力に富んで居る。併しよく見ると先生は建築が地の上に建設せられて地下に深い基礎のある事を忘れて居た樣だ。建築の人生に對する割役を少し輕く見すぎて居た樣で、建築の綜合的趣味に氣がつかなかつた。管弦樂の中の**バイオリン**計りに注意して他のものゝ意味を知らなかつた。從て先生には建築の管絃樂的の味が理解されて居なかつた。で先生の說くものは何處の塔が力があるとか何處の窓

に面白味があつて其面白味は恁う云ふ自然の一劃を捕へてるのだとか、何處の城の壁にぶら下つて居る小塔（タレット）は非常に詩的だとか、そんな事許りに注意して一向其建築が何んな風に生きてるか其吾々との交渉は何處にあるか、其建築ははたして建築として存在の實質的意義があるかなど云ふ事徹底して居ない樣だ。

勿論前述の通り先生は繪や詩は自分でも描いたり作つたりしながら批評したので、其批評たるや甚だ要を得て居たのであらうが、建築はさすがの先生にも出來なかつたものと見ねて手をつけて居ない。從つて一般の技術家ならぬ批評家の通有性たる慨念的批評しか出來ないのは誠に無理のない話、吾々は先生のが慨念的批評であるが故に意味がないと云ふのではなく。總て批評には慨念的批評と具体的批評と、對立又は兩者が各其意味を失はないで統一されたがよい文展や二科會などの批評に學者的批評家と技術者的批評家との兩者があつた方がよい樣なものである。所が先生の建築批評に到つては部分的味の慨念批評だからいけない。塔が美いのも結構、入口が魅力のあるのも結構。然し建築とはそんなものではない。それは二の次の話だ、第一に綜合的味が理解されなければならぬ。其綜合的にこそ無限の美も魅力も備つて居るのだ。

大江匡房流に云ふとラスキンは立派な批評家であつたが惜むらくは兵法を知らなかつた。根本を知らなかつた。

私が第二の例に引出したいのは小堀遠州と云ふ日本の建築家である。彼は豐臣から德川の初期にかけての名建築家として幕府の建築官として有名な男である。それのみではない彼は茶湯や活花に於ても亦一方の雄で遠州流なるものゝ始祖である。之で見ても彼が如何に趣味の豐かな洗練の達した人であつたかは充分知らるゝ。

彼は當時の洗練の標準的のものには統へて通じて居た。その洗練の標準とは如何んなものかと云ふと、和歌、活花、茶湯、書畵等である、そして其等の綜合的表現として茶室建築を建てる事である。彼が部分的洗練の方から進んで建

築家となつたのか又は建築家として先づ起つて後其洗練を他の餘技に移したのか其邊は今私の詳にしない所である。彼の傳記のあるものを見たら其が明になるであらう。併し今其程に彼に就て調べるのが目的でないから其穿鑿はやめる兎に角彼は其等の總てに通じて居た。

勿論其等の事に適じて居たのは決して彼が初めてゞはない。千利休なども其一人であつた、し、又少し溯ると、彼の足利義滿や義政なども自分でこそ建築は出來なかつたらうが、其等の趣味の總てに通じて居た男らしい。

併し、兎に角今日彼のいかさまな宗匠共に、中興の祖として認められるのは彼である。今日宗匠共が住宅建築に口を差出して所謂月並を振廻すのも、彼と云ふ背景を持つて居ればこそである。

今日大阪の市内を散歩して見ても、彼の末流が如何に力強く根を張つて居るかに氣附くであらう。遠州流茶道指南だとか遠州流華道指南だとか云ふ掛札や、骨薫屋の店頭にある遠州形と か『遠州お好み』とか云ふ貼札が、多くの婦女子や老人を引寄せて居る。

では其程の大宗匠の始祖の小堀遠州が作つたものとはどんなものかと云ふと、大分數はあつたらうが、今殘つて居る代表的作とは、彼の京都紫野の大德寺境内にある弧蓬菴と云ふ茶室建築である。

自分は之を實物としても亦圖面や寫眞としても度々見た、成程其所には淡い輕い快さが一本の釣竹や一個の襖の引手にまでも行届いて居る、其快さ微妙さはとても毛唐などの味ひ得ないたゞひのものである。彼が活花や茶に於て名家は自から流を開くと云ふ格言を實現したのも實に宜なるかなと思はせられるものがある。

併し一度彼の室外の取扱びに眼を到す時、其處に何等の清新さもない。恐らく彼が作つたと云ふ今は殘つて居ない宮殿建築に於ても、又何等の清新さも天才的技量をも伺ひ得なかつたであらう。勿論彼は日光廟の建築家甲良某父子の如く全く隨落しきつたあくどさを表す程の沒趣

味漢ではなかつたらう事は、彼が室内や活花、茶等に開いた精化の標準がよく指示してくれるので、吾はたとへ彼の實作物を見ないでも其を推測するに難くはない。

併し吾人が遠州に飽足らないのは、要するに彼が部分の洗練の人であつたと認定され得るからである。彼がも少し立派で大きかつたら、こんな部分にのみ即しはしなかつたであらうと思はれる様な部分の味のみを見せて居るからである。

私共に言はせると、彼もやはり大局の見ねなかつた男らしい、建築家となつて建築を知らずに部分だけで得意になつて一生を終つた男らしい。それでなかつたら彼が何等かの意味に於て建築を理解した男であつた事を示す可きものを殘して居る筈である。それがたとへ建築物でなくとも……。

彼はやつぱりラスキンを實際家とした欠點を持つて居たのだ。

今擧げた二人の例は、たとへ部分に精通しても大局が見ねなければ建築の眞の味に到り得ないと云ふ事を言ひ度かつたからである、それをよく注意して置きたかつたからである。

そこでいよ〳〵部分に入る事が出來る用意は出來た、これから充分安心して部分に入らう。

（續出）

◈秋三題◈

秋風をよける持參の金屏風　　葉千

鹿の聲角ある物と思はれず　　樂笑

鴫は立ち鳥はとまる秋のくれ　　水治



セントルイス市に於ける地帶式都市計畫條例

（アメリカン、シチイ八月號より）

會員　伊藤正文　譯

セントルイス、モンタナ

セントルイス市に於ては既に一年餘の以前から、都市計畫委員會が設置され、同市に於ける建築物の高さと面積及び土地使用法を適當に制限する爲の計畫が立てられてゐるが、同市市參事會で去る六月二十八日に定められた條例に適合するものである。此都市計畫委員會はセントルイス市に地帶式計畫を布くに就て、紐育市の建物區域と制限に關する委員會の記念的事業によつて指示された所が少くないのである。此兩市はプランは形式上同樣であるけれども、細部に渡つての差異は少くない。

高さから建物區域を定めると次の五種になる

四十五尺
六十尺
八十尺
百二十尺
百五十尺

セントルイス市は主として二階建の建物から成る市街で、只下町の商業區とアパアトメントハウスの區域は高い建物も相當に見られる。第一に高さの制限を道路中に比例して定めること、或程度迄道路から退いて建てられるものに

對して加減することが大切な點である。

しかし相當に研究の結果上記の水平高サを定めることが最も良好な結果を見られるとして決定されたのである。此等の制限は一軒建又は二軒建の住宅區、商業區、工場區、又は高價な室內工業の區域下町の商業區等に適度に科せられたものである。

而して一般に面積上から主な區域を四分出來る、それは、高價な下町の商工業區、街の外周に沿ふた大工場地、商業及借家區域、一軒建又は二軒建の住宅區とである。此四通りを、A、B、C、D、で示してゐるが各々に關する制限は次の如くである。

A、角敷地又は一方道路に面する敷地に於て一階建建物は、その敷地の一〇〇パーセントを建物に使用し得。一方道路の敷地に於ける建物二階以上の場合には、道路境界線より少くとも十尺を退いて建築す可し。但し路次の場合は例外とし、路次巾の二分の一は敷地部分と認む。其他中庭等は要求せず、若し與へらるゝ場合には建物の大さに比例したる一定の大さたる可し。

K、敷地の百パーセントは一階建建物に限り占めらるゝを得。二階以上の場合、角敷地の建物は、敷地の九十パーセント、一方道路敷地の場合は八十パーセント以上を占むるを得ず。但し二階建以上は道路境界線より少くとも十尺退いて建築す可し。但し路次の場合は例外とし、その巾の二分の一は敷地部分と認む。此以上に中庭等を要求せず、但し與へらるゝ場合は建物の大さに比例したる一定の大さたる可し。

C、角敷地の建物は敷地の七十五パーセントを占むるを得、一方のみ道路に面する場合は六十パーセントを限度とす。二階以上の建物は道路境界線より十尺を退いて建築す可し。但し路次の場合は例外とし、その幅の二分の一は敷地部分と認む。其他中庭等を要求せず、但し與へらるゝ場合には建物の大さに比例して一定の大さを保たしむ可

し。

D、角敷地の一階建建物は敷地の六十パーセント、二階以上五十パーセント。一方道路に面する敷地の場合一階建は五十パーセント、二階以上は四十パーセントを占むるを得。

道路面控地域の幅少くとも五尺を要す。又敷地間口幅三十尺以下の時一側面に三尺幅の控地を要す、敷地間口幅三十尺以上の場合は控地の幅を四尺とす。

扱又次の様な五ツの使用區域に分つと。

第一住宅區
第二住宅區
商業區
工業區
無制限地域

となる。

第一住宅區は絶体に一家族の爲の一軒建住宅區域で、第二住宅區は普通住宅、借家、ホテル會館等、商業區は倉庫、商店等より成り、一般に製造場等を交へぬ大通である。工業區は噪音、臭氣、煤煙、塵埃の様なものを厭ふ可き理由のない工業のすべての種類に對して與へられてある。無制限地域は、今述べた様な、厭ふ可きものゝないものならば、どんな用途にも使用を許されてある。此地域は主に鐵道沿線地帶、河岸等である。

斯うした問題に關して公衆の反省をうながした爲、此計畫の準備と實行は益々公衆の興味を呼ぶことゝなつた。幾多の論説が發表され、色々の説の寫しが四萬部程配布される有様であつた。非常なインテレストを公衆に抱かしめ、一年を通じて新聞紙上の論説に四十七通も書かれた。且つ、此計畫に對する個人又は團体の贊同は莫大なものであつた。色々の團体が與へた贊助の面白いことは、商業會議所の實行委員によつて擧げられた決議でもわかる、此決議は公明なる原理の下に、地帶式計畫條例を是認したものである。且つ計畫の適用及び都合よき方針をとる爲に贊助を惜まぬことを同會議所に保証し

たのであつた。

此決議は商業會議所都市計畫委員の意見にもとづき、地帶式計畫の條例を布く結果として、セントルイス市に次の樣な利益をもたらすであらうと宣言したのである。

一、工業地域を更に有効に使用することにより、工業の發達を增進せしむ。

二、建物の厭しき又危險なる使用を濫りにせしめざる樣、住宅區を保護するにより、住宅區の發達を增さしむ。

三、一定の區域に於ける發達の性質を定め、又安定ならしむるにより、近接地の變動を起し又は地價の趨勢を低落せしむる如きことを防止す。

四、人口の不當なる集中を防ぐことにより、公衆衛生を改良す。

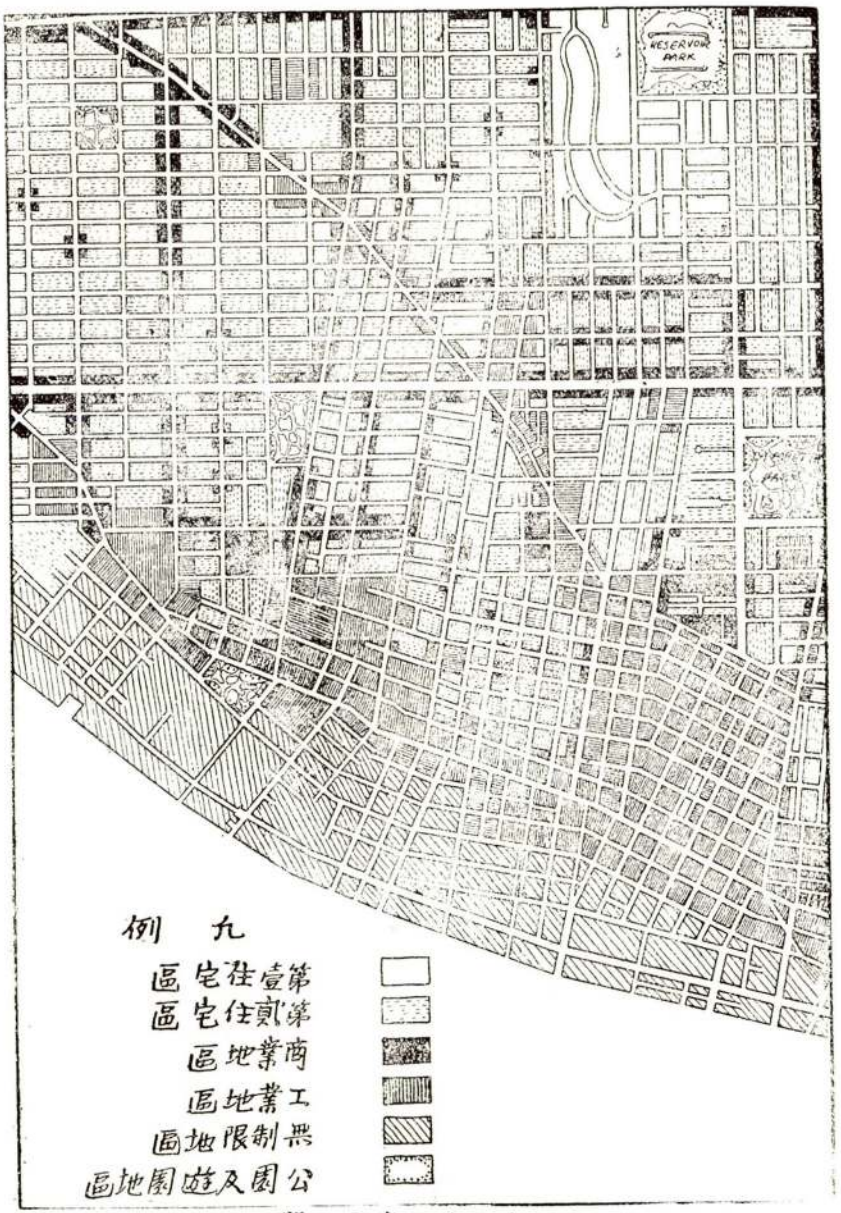
五、設定されたる計畫により、交通機關、下水、其他條例上より効果ありと認めたる構造を許容するにより、繁雜なる將來の出費を出來得る限り防ぐを得。

六、都市の一般的外觀を改良すると同樣に、あらゆる方面の發達を一樣ならしめ、その結果として都市問題の經濟的處理に効果大ならしむ。

（了）

▽米國では△

米國の上流社會の人士は割合に都市經營に對し冷淡である、これ畢竟米國一流の個人主義の結果で上流の人々は都市の經營に關して細民程利害關係が深くないと云ふ所から來てゐるらしい。



セントルイス市の一部
（都市計畫委員會によりて案考せられたる地帶式計畫）



京都古建築觀（二）

特別賛助員　伊藤清造

各論

一、平等院

概況―平等院は山城國宇治郡宇治町の東方にある天臺宗の古刹である、現に三井寺に屬してゐる。

平安朝の始め、河原左大臣融卿がこの所に別莊を起して宇治の風光を賞して居つたが、卿の薨後陽成天皇が此處に宇治院を造營し給ふた、宇多朱雀の兩帝も亦これを離宮として、時々の御幸にその明媚な風姿を眺め給ふたのであつたが、後長德年中に至つて時の關白藤原道長が請ひ受けて自分の山莊としたが、その子賴道は遂ひに之れを捨てゝ寺としたのである、時は永承七年（西紀千〇五十二年）である。

長流滾々として永へに流れ、千古の悲愁と歡喜とを包んで悠久の沈默を續け、城南の連峯は脈々として萬綠を飾つてゐる、花の如く美しかつた藤氏一代の粹を集めた宇治の岸頭には、又副はぬ英雄が覊魂を宿してゐる、その昔治承四年夏五月源三位賴政が、埋れ木の花咲く春もなく扇の芝露と消えたのは此處である。

文武全才一世雄　白頭擧事戰功空
九源不起源三位　枯樹花開春寺風

齋藤拙堂は此處に遊んで懷古の七絕を賦してゐる、かくて藤代の粹を集めた鳳凰堂は一層詩的

の興味を深うしてゐる。

建築＝奈良朝時代に全盛を極めた隋唐の直寫藝術は、平安朝の代となつて特に遣唐使が廢止せられ、支那との交通が杜絶して以來、次第々々に我邦の精神に同化して來初めた、藝術史上ではこの時代を第一次の同化時代と稱して居るが、此時代に紫式部、清少納言等を始め貫之、友則等幾多の名士才媛が輩出して、平安朝の文學は空前の隆盛を呈した、優美な女性的な氣分は和歌の勃興を促し、萬葉集等にも古今和歌集等にも、到底見ることの出來ない艶麗なものを收めて居る、こうした氣分の中に生れた建築が幾ら因襲の多い日本人だとはいへ、いつかその影響を受けて、優艶なものでない譯には行かなかつた、宇治平等院に殘された建築はこの間の消息を最も正確に傳へたものであろうと思ふ。

鳳凰堂

先づ建築の概略を記して見るならば、後冷泉天皇の天喜元年の建立で、一つに大堂或は阿彌陀堂といつてゐる、明治三十年に特別保護建造物に指定せられ、明治四十年三月にその大修繕の工を竣へてゐる、工費實に五萬四千二百有餘圓を要し今は全く輪奐の美を備へてゐる。

中央には三間二面入母屋造りの中殿があつて其周圍には一間の裳層がある、この柱は大面を取つた角柱であるが、中殿のものは圓柱である又中殿には左右と正面の三方に廻縁があつて、裳層前面の一間は一段高く切り上げられて居る全体が高い石檀上にあつて扉には唐戸を用ひ、左右の側面に欞子窓が使つてある、屋蓋は本瓦葺で一對の銅製の鳳凰がのつてゐる。中殿から左右に各四間の歩廊が出て、更に矩形に折れて前方に二間出て居る、この折れる處には方形造りの樓をのせてゐる歩廊は正面に切妻を見せ虹梁の間には三つの板蟇股が使はれてゐる。

又後方には中殿から六間の尾廊があつて中央二間を連子窓とし前後を火燈窓で飾つてゐる、柱間の長さは各間一定してゐない、尾廊は圓柱の上に三斗平組の料をのせてゐるし左右翼廊は二手先組物をのせてゐる、中殿の内陣は直徑一

尺八寸の柱が三手先出組に接して圓形型斷面の地極と長方形斷面の飛擔極とに依つて屋蓋を支承してゐる、屋蓋の鳳凰は高さ三尺一寸八分の銅製の一對がのつてあることは前述の通りである、翼廊屈端の方形の屋蓋上には露盤寶珠を頂いてゐる。

翼廊と中殿とは構造上又實際上何等の連絡がなく、翼廊自身としても椽板もなく天井も底く別に實用上の意義がない。

外部の木材は丹塗りでその斷面には黄色顔料を使つてゐる、又藤原時代の特色として彫刻繪樣等は全くない、そして極（タルキ）、楣（スミキ）等には透し彫の金具を使つてある、中殿内陣は隨所の極彩色の模樣を描出してゐる、折上組入格天井の格緣格間支輪等には簡單に寶相華を描いてゐる、格緣の所には銅鏡が嵌入してあるがその銘には。

平等院伏花康平四年九月云々

とある本建築建立年代の永承七年から九年後に當つてゐる、或は内部裝飾全部が出來上つたのは康平四年であろうかと疑はれてゐる、この事はともかく天井の外、斗拱、虹梁、扉、柱、貫等あらゆる部分に裝飾が施こされてゐる、壁畫も勿論あつたのであるが、今は全部缺如してゐる、中央には藤原式の須彌壇及高欄があり定朝一刀三禮の作といはれる金色の阿彌陀坐像を安置してゐる。この後方壁面の極彩色の釋迦八相の圖は繪所長者宅磨爲成の作であるといふ、今半ば剝落してゐる又長押上の壁面には五十有体の木彫菩薩像が懸つてゐる。

朝日も未だ上らない或る初春の朝であつた、吾人は宇治の河畔に藤代の榮華を稱へて在りし昔を偲ぶべく家を出たそれでもこゝへ着いたのは可成り早い午前であつた、柔かい新芽を萠やそうとした柳の枝が無限の恨みを飲んで池畔にうなだれてゐる、細波靜かに動いて岸に波紋を漂はす邊、靜かに据へられた平等院鳳凰堂は千古の春より默々として崇大な優美の威嚴を据へてゐる、曲線の美を味ふと思へば此處へ來るがよいと言はれた武田博士の言はそゞろにそれと頭づかれるのである。

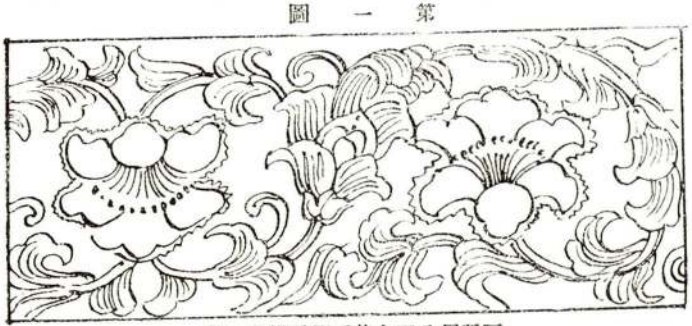
絢爛に絢爛を求めて半ばは漫性的となつた平安朝の人達が都離れた處にこうした寺を建てようとした時、その美的の趣味は最高潮に達してゐたことゝ思れる内部に就いて僅かに殘された丹青の跡を偲び金や螺鈿の技巧を窺ふて建築當時の完美を思つてみればよくもこんなやゝこしい裝飾に美くしいと思つたかと疑ひたい位である。

然し美に憧憬するゆかしい心情が飽和に飽和を重ねた時、吾人は決してこれ位の事は不思議なことではないと考へた。殆んど剝落した内部の裝飾と崇高雅美な阿彌陀坐像とを見つめて獨り恍惚の境に入ると平安朝四百年の華かな繪のような有樣が眼前に彷彿として來る、そして藝術家としての鳳凰堂の設計者に最も親しい共鳴を感ずるのである、外に出でゝ再び堂の線形に見惚れて居ると暗かい暖かい屋蓋の曲線と翼廊の切妻の美くしい曲線とが明かに意識されて心の底に何物かを響かす樣である、特に裳層の中央一間を高うした作者の試みは全くこの建築物をして一つの律動的存在ならしめてゐる。法界寺阿彌陀堂（記錄寺傳は永承六年といふけれども鳳凰堂以後のものであろうが）の如く全くこれが眞似たものと思はれるが、初めてこの大膽な仕事をした設計者の偉大な天才は默々の裡に語られてゐる。

或る初夏の一夜をこの鳳凰堂の邊で歩きあかした時、ほのかに東天の白む頃であつた總べての線勢は黑い暗に包まれて、薄い薄いベールをかけたような輪廓を、墨を流した空にぼんやりと立つてゐる、山のかげから靜かに靜かに明けてゆこうとする殺那にうす明るい光を堂になげて、影のみの柳の枝がゆるく動いてゐる、吾人はこの殺那の光景に於いて鳳凰堂を東北の木の間から見入つたのである、翼廊の屈端に作られた方形の屋蓋の美くしい線と、その稚子棟の心よい輪廓と軒先の美くしい曲線の反轉と、總べてこうした翼廊の透視圖的姿態が、後方に斜めに見ゆる中殿と調和して恐ろしい迄に美くしい一場を現出してゐる、漸くうす明く明けて行く

空に突出した銅鳳と、露盤頭上の寶珠と流れる様なめらかな曲線とこれ等が一塊りとなつた線形は、白晝正面より見馴れた鳳凰堂とは全く別種の印象を與へてゐる、この千古の歴史を無言の裡に葬つて轉た寥寥として立つ平等院にこうした印象を與へられた時、吾人は鳳凰堂の表現する何等かの眞諦に觸れたものゝように敬虔な感じを強うしたのである。

細部に就いて見ると扉の八双金物や、金輪の坐金等には、美くしい模様が表はされてゐる、八双金物には後世に見るような月並的な唐草でなくて、一種の寶相華唐草を美くしい毛彫で表はしてゐる、吾人が粗雑に行つたスケッチ（第一圖）はその一斑をも彷彿せしめることが出來ない。

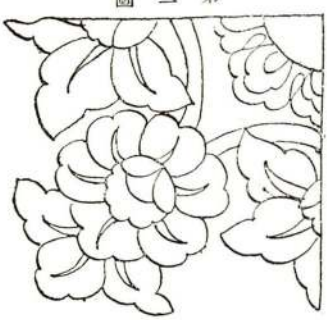


扉所用八双金物毛彫紋様の一部

又坐金の如きは金を嵌入したもので、その善美を盡したことは價値なる工藝品として決して他に劣るものではない。又内陣の圓柱は所々を横の線で區劃してこの間に草花佛像を畫いてゐるが、この横の線が所々にある爲めに柱は太く短く感じられ、見かけの強度に重大な意義をなしてゐる、この手法は平泉中尊寺、金堂、日野法界寺阿彌陀堂等の内部の圓柱に於いてみることが出來る。

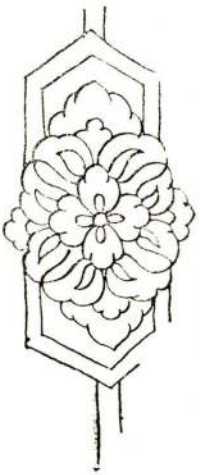
次ぎに天井其他に描かれた寶相華紋様（第二、三、四

第二圖

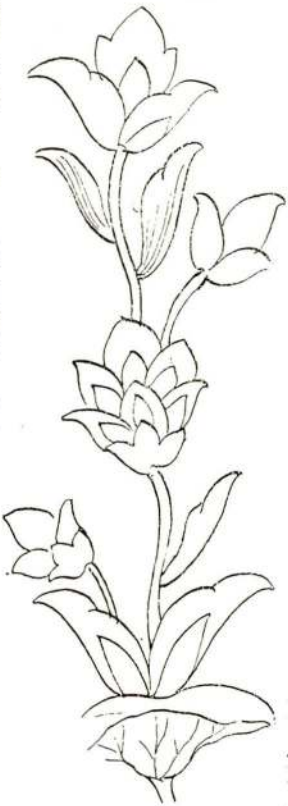


天井格間寶相華紋様

第三圖　虹梁下端寶相華紋樣



第四圖　天井支輪底板寶相華



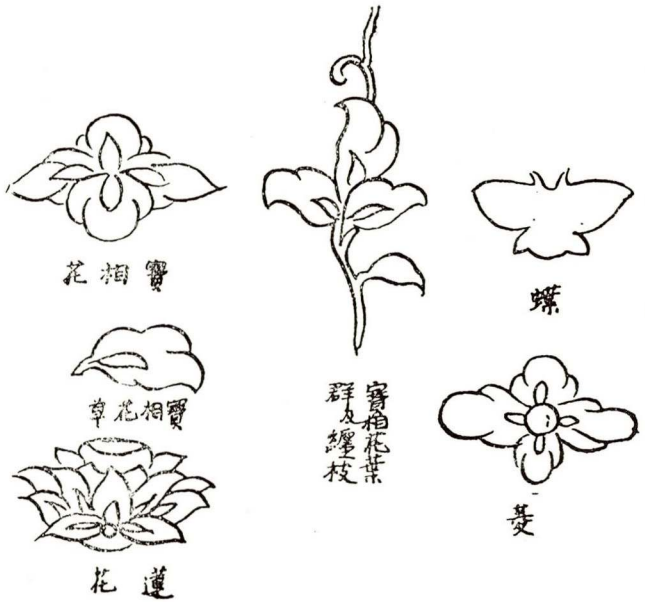
寶相華、又は榮山寺八角堂内陣貫下端に描かれた寶相華紋樣等の著しく寫實的であるのに反して、此の鳳凰堂のものは非常に巧みに便化されてゐることである、此の巧みに便化された寶相華紋樣（第五圖）は此時代に於ける特色の一つであることは勿論である。

又折上組入格天井に就いてその支輪（第六圖）を見ると、この時代獨特の物優しい配色で繧繝彩色を行つてゐる、その構圖等にあつては前時代天平期のものと大差のあるものでないが線や配色に特色が現れてゐる、特に技巧の點に著しく窺ふことが出來る、即ち唐招提寺金堂の内陣天井支輪板間や、藥師寺東塔のそれにある

を見ると、蛇骨子龜尾等の曲線が著しく前時代のものと異つてゐることを知るのである、白鳳期の藥師寺三重塔や天平期の唐招提寺、金堂等の内陣にある、これ等のものとは全く別の感じを與へるのである。而し軒廻りにある支輪（第七圖）の曲線は、天平期のそれと大なる差のあるものではない、要するにきびきびした強い曲線の多く用ひられた時代を鎌倉時代とするならば、この時代は柔らかい流れるような曲線を用ひたように思はれる肘木の曲線等も天平期のものと比較するならば著しく優美に

第五圖

平等院鳳凰堂飾種類一部

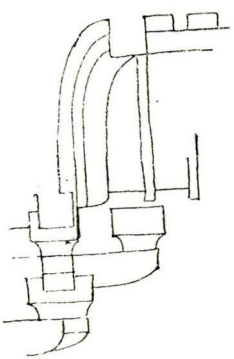


なつてゐる。

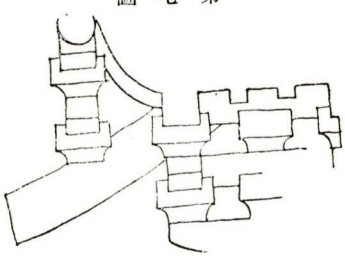
斗拱等の比例も漸く軟かいものとなつてゐる

第六圖

中殿天井支輪及鬼尾一部



第七圖



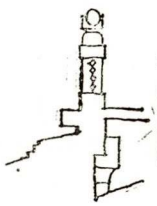
中殿軒造支輪及尾樋

而し足利や徳川期のものに比べるならば遙かに力強いものに違いない。

尾樋にあつても藥師寺東塔や海龍王寺五重塔にみるような直線的なそして其の先端の切口が垂直のものではない、切口は唐招提寺金堂のそれのように、少し内側に入つてゐる、そして鳳凰堂のものは石山寺の多寶塔の尾樋の曲線のように著しくはないが、尚多少の曲線を見ることが出來る、（第八圖）勾欄にしてもその形式は前時代のものによく似てゐる、例へば平

桁と地覆との間が拈子で飾られてゐる、恰度海

第八圖



中殿勾欄切斷圖

龍王寺五重塔のそれのように、又は東大寺法華堂廻椽のそれの様に、然し木割等は全然に異つたものである現今では殆んど後世のものばかりで、只正面裳層の一段高い部分にあるのみであるといふ、又尾廓内部の虹梁上にのせられた板墓股(第九圖)は、上の見取圖にあるような美くしいものである。

第九圖

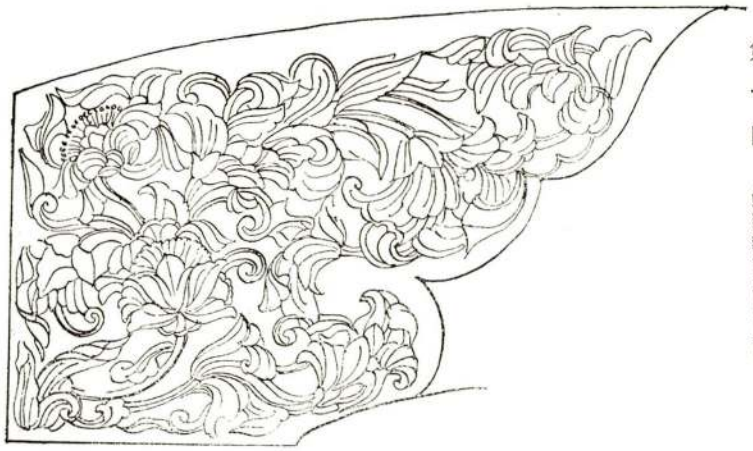


尾廓内部所用板墓股

此の尾廓には火燈窓が使はれてゐるが、これは一つの疑問として殘されてゐる。即ち普通に禪宗建築の一要素であると考へられてゐる火燈窓がこゝに使はれてゐるのは、後世の添加であるか或はそれ以前より使用されてをつたものであるかといふ點である。他の總ての軟かい美くしい曲線に對してこの曲線のみが強いもので、一寸調和の取れない様にも考へられる勿論平安朝當時に、この火燈窓がなく現在の部分は單に白壁であつたとすれば頗る間の抜けた感じがないでもない、そうすればこゝには中央にある様な連子窓のあつたものかとも考へられる、武田博士は此の鳳凰堂は鎌倉時代に於いて明治四十年に行つた以上の大修繕を行つたことがあるから、その際にこの火燈窓を添加したのかも知れないと言つて居られる。

四十年の大修繕は博士の監督になつたものでこの主旨から無下に取り去ることを敢へてせなかつたとの話である、尚此際には博士の手によつて從來普通に平安朝の壁面と見られて居つたものゝ下より、眞の平安朝時代の壁畫を發見し上のものは鎌倉時代の製作である事實をも確かにせられたものである。

鳳凰堂内陣裝飾紋様中の寶相華に就いては、已に論じたのであるがこれ等は語弊はあるが一種の(free composition)である、次に記さんとするのは圖案學上普通に(fitnessin outline)と



第十圖　虹梁裝飾木彫唐草

稱せられる種類のものである、先づ虹梁裝飾の第十圖）の木彫唐草を見ると已に記した如く、此時代の特色として著しく便化されてゐる所がある、そして所要の線形の中に自由にしかも落ち付きよく納つてゐる、如何に總ての方面に一般の美的趣味が發達して居つたとはいへ、かくの如き非凡な手腕を有してゐる圖案家を生んだ藤代の文化を驚かざるを得ない。又桙、棰等の鼻に用いてある透し彫り金具（第十一圖）等の圖案をみるに、その巧みなことは殆んど意表に出てゐる、この金具は地棰地桙のみに用ひられたものであるが、所定の圖形中に巧みに適合された所は後人の侵す可らざる所である。



第十一圖　桙木及棰木鼻透彫り金具

後代のこの種のものが多く花菱等の圖案を用ひたのに比べると、さすが創意の尊き光りを放つてゐる。

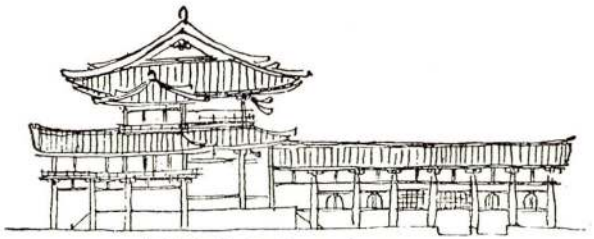
終りに此の鳳凰堂の建築美を圖面の上から考へて見ると、平面立面共に單調に流れ易い日本木造建築に、稀れな自由な變化に富んでゐる、

第十二圖



平等院鳳凰堂正面圖

第十三圖



平等院鳳凰堂側面圖

先づ平面圖から見てみるに、鳳凰の象に型つたと傳へられてゐる丈に、仲々面白いものであつて、この時代に京都にあつた大極殿と、その歩廊から青龍白虎の兩樓に連つた所に、暗示を得たものに違ひない、殊に大内裏にては先端にあつた寶形の屋蓋が、鳳凰堂にあつては歩廊の屈端にある爲めに、一層優美なものとなつてゐるこの事は立面圖(第十二圖)に於いて重大な點で

第十四圖



法隆寺中門側面圖

あつて、即ち立面圖に於いて線の配列に非常な變化を與へてゐる、美くしい切妻の曲線と、軟い寶形の曲線と、何等の快調であろう、又單に輪廓のみからいつても、sky-line に大なる變化を作つてゐる、又側面圖(第十三圖)に於いてその中殿の比例は、法隆寺中門側面圖(第十四圖)と非常によく似てをつて、著しく安定の感を與へてゐる、これは高さの割に基底面が廣く屋葢の勾配が緩くて後世の建築の如く屋葢で壓倒されたような感じがなく、且つ又上の屋根の軒と裳層の軒との間が短かい爲であろうと思はれる、而して屋葢の曲線は法隆寺中門のそれに比して著しく優美になつてゐる。

要するに我が鳳凰堂は世界に誇揚すべき建築美を横溢せしめてゐる。

觀音堂

普通に釣殿と稱するものである、藤氏の時めいた時には賴道が此處に住つてをつたのである朝日山を向ふに眺め宇治の河岸に臨んで立てられたこの釣殿も、中古荒廢して漁夫の午睡の場所であつたのである、然るに今は此地に移建されて觀音堂となつてゐる。

この觀音堂は七間四面、單層四柱の本瓦葺である、藤原時代の遺物として明治三十五年に特別保護建造物の指定を受けてゐる、地棰の切斷は圓形で飛擔棰は長方形である、虹梁等にも藤原期の手法の特色は殘されてゐるが、大して價値あるものではなく、土檀の低き關係よりして全体の感じも鳳凰堂に比べると、著しく重苦しい所はあるが屋根の勾配等は美くしく出來てゐる。

平等院境内にある其他の建築物は悉く藤原期以降のものにしてさほど價値あるものでない。

◆宇治川◆

▲口をすくしたと忠綱後に言ひ

▲橋板は平等院へかつぎこみ

▲熊谷は後の方へ氣を取られ



懸賞競技と思想の推移

會員　矮燕生

□明治神宮外苑記念建造物設計圖案懸賞募集の結果は、去九月下旬早くも審査結了して當選者の氏名が發表せられた、應募圖案一百五十六通に登り、成績頗る良効であつたそうである。誠に喜ばしき限りである。

□當選者の顔振れは御兩名を除くと全く新しい人々である、そこに勃々たる新興の機運が到來したものと判斷されると同時に、第一等案は餘程圖抜けた成績を示し、審査員諸氏が擧つて推賞せられた程の良案であるとの事である、殊に獨創の覇氣横溢して全く新形式を樹立せられた樣である、誠に喜ばしい限りである。

□殊に此回は關西方面の應募者が約三割に達し、當選者二名を出したのは更らに欣然たらざるを得ないではないか、筆者は不幸にして關西の天地に蹈踞して單に耳朶を打つ風評を聽く丈であつて、遺憾此上もない。願ふらくは内務當局者は關西方面の志士に對してせめて當選圖案なりとも展覧せしめられんことを祈らざるを得ない。或は建築學會の努力によつて關西方面の建築家に滿足を與へられんことを遍に希望せざるを得ない。斯界の爲めに。

□今回懸賞の結果から來る風評を綜合して筆者は衷心の感想を述べて置きたい。聞くならく、此回の入選圖案は殆んど獨創的に近い新案を採用されたさうである。「現代興隆の精神を發揚すべき樣式」を得られんとした當局者の滿足と喜悦は想像に餘りあると思ふ。又此回の入選案が悉く單簡雄大なる素撲雄健なる作品であるとの事である、筆者が衷心の希望も茲にあつた。來るべき大正建築を指導すべき作品として此上もなき事であらう。

□既に新聞紙上へ發表せられたる審査員諸氏の意見としても第一等案が、頗る圖抜けた創案であつてしかも工費の點についても遺憾なく豫算に最も近いさうであるから、勿論當局者は第一等案を採用せられて實施案とせられることであらうと信ずる既に審査員諸氏の推賞は滿場一致といふ點から見ても此謀想に裏書を與へられたことであると思ふ。

□希くは此回の第一等案をして單に參考案として保存せられる丈でなく、此の最上案をして其圖案上に發揮せられたる形式を事實の上に實施せられんことである、設計は易く其實施は頗る困難なことは言ふまでもない。乍然設計案の募集に多大の金錢と多數の人の努力と多大の苦心とを費しながら其實施の結果に、多數の國民の不滿を買ふことは智者の取らざる處であらう

□當選設計者が必ず其實行者であることは、我國の現狀では殆んど不可能とされてゐる。乍然、實施者が設計者の意圖通りに實行するか、左もなくば設計者の意志を尊重して實施上に於ても最上案に劣らざる成績を擧げんことは決して不可能の問題ではない。既に建築が多數の人の努力協應によつて其藝術的價値を竣成するものとするならば、當局者の多數が一致融合して私心を棄て少なる囚はれたる個性を棄てゝ、設計案の善良なる實施に努力せらるゝならば、必ずや所期の目的を達し得られることゝ信ずるものである。

□今回の懸賞競技の結果について唯一つ遺憾に堪へぬ事柄がある、それは審査員諸氏の意圖と多數應募者の解譯との間に甚大なる喰ひ違ひが存在して居たといふことである、換言すれば懸賞規定の最も重要視せられたる條項の解釋が一般に徹底して居らなかつた事である。要するに「現代興隆の精神を發揚すべき樣式」といふ樣な漠然たる條項が少なからず應募者の頭を惱ましし、且つ多大の努力をあらぬ方向に捧げて、多くの作家をして見事に背負拋げを喰はしめた樣な結果を齎した事である。

□茲に審査員諸氏の責任がある樣である、審査に對する多くの不滿不平が霧の如くに立昇つて、種々の世評が吾人の耳朶を打つて來るのを注意したい。審査員諸氏が「成るべく詳細なる解答を」與へ得なかつたのではあるまいかと思ふ點がないでもない、又應募者諸君が競技審査の第一歩なる審査員の態度を理解するにあまり注意を拂はなかつた點もある樣である。

□聞くならく此回の當選圖案は、主として簡素雄大の作品を推賞せられたゝめに、樣式に囚はれざる獨創的意匠を選拔せられた樣である其結果多少なりとも或種の型に入つた作品は勉めて排せられた樣である、そして最も好運の當選者の中には「セセッション」風の行き方から思ひ切づて所謂獨創　敢行てした人々が多いとの事である。所詮競技は運である。善くいへば自信の作に相違ない事であるが、惡くいへば無鐵砲の一擧見事に勝者たるを得たのであらう。敗軍の將は此際兵を語らぬ方が男らしい樣である。

□競技は一個の戰爭であり、又投機であるものとすれば、競技の度毎に新しい顏觸れの現はるゝは自然の現象であつて、亦頗る面白味のあるものであるが、同時に審査員の立場から見ても時と共に其思想に變轉の跡を殘して居る樣でもある。殊に今回の結果は明かに審査員諸氏の思想に一轉機を劃されたかの樣である。

□例へば文展の審査にして見ても年々歲々の行事が自然に一種の流行を産み傾向を齎らして長所がやがて短所となり、美風が弊風に落ちる、そこに審査員として大に警戒すべき惡弊ありと認めるに到つて、急に斷乎たる審査方針の變化が現はれるも

のである。懸賞競技が毎年の行事であつたならば、應募者も特に其點に注意を拂はれるであらうけれども、二年三年の間隔を措いて擧行せられるために應募者の思想と審査員の思想とその間に聊か隔絶が現はれて來たものと判斷して差支ない樣である

□いはゞ落選者諸君の多くが審査員諸氏の思想の變化に留意し得なかつた點は落選者の失敗であつて不平を云ふべき限りでない樣であると同時に懸賞競技の重要なる契點は其重要なる第一歩にある樣である。乍然審査員諸氏が的の色彩を明瞭にしなかつたゝめに應募者諸君の多數をして、勘からず迷路に踏み入らしめた點は審査員諸氏の親切がなかつた樣にも思はれる

□が落選者諸君の努力は決して無駄ではないのである、自信のある作の價値は、一時的に審査員の眼を逸して居つても何等の痛痒を感じない筈である、只思想の變轉に伴ふ時代の推移に遺憾ながら顧みられなかつたとすれば再び到來の時機を待つべきである。唯意匠の競技が運動の競技と異つて勝負が顯る不明瞭の間に行はれる點を遺憾としない譯には行かない事であると思ふ。

□夫にしても審査員の態度の頗る漠然として居つた事はどうしても見逃すことが出來ぬことである。例へば此回の懸賞規定中に於て葬場殿址記念建造物に對する審査員の態度が、審査の際に於ても一致しなかつたと聞いてゐる、そして當選圖案の多くは殿址に重きを置かぬ作品であつた樣である、殿址を記念する方法に於て相當の注意を拂つた作品が顧みられないで、主として繪畫館の樣式に軍配の振られた點は注意すべき事項である又平面圖の如きも工費の如きも建築の性質からして重要視されべきものであるに係らず、兎角は立面圖殊に透視圖の巧妙なる技巧に左右せられた樣な傾向があつたと聞く。

□要するに此回の懸賞競技は從來になき數多の問題を包藏してゐると思ふ。樣式に對する思想問題、美に對する解譯、審査員の態度及び應募者の研究すべき事項等を擧げ得られることゝ思ふ。そして此等の問題が建築學界の最も重要なるべき生きた問題であることを注意したい。そして未だに放擲しある樣式に關する研究や、思想の推移と世想の變轉に關する社會的研究や懸賞競技に關する將來の問題等が最も眞摯なる態度で研究されべき事と思ふ、單に一時的競技の不平不滿で葬ることなく、學界の堂々たる理論の上に論ぜられんことを希望して止まない。

◆應募する人◆

懸賞競技に應募する人はあまり考へ過ぎることは避けねばならぬ、スラスラと其意匠が出來上る樣に心掛けることは必要なことである、そして考へ過ぎるものは到底應募することが出來得なくなるに相違ない

（會員某氏談）



米國に於ける職工住宅經營法 (三)

アーサー、ヱフ、クロー記述。
會員 葛野壯一郎 抄譯

第六策

一部資金を職工側より提供せしむる經營法

此方法は會社が別に住宅經營の目的を以て一會社を組織し、其株の一部分を右の會社が負擔し其殘餘の株を出來るだけ小口に分けて是を職工に分擔賣却するの法で、其價格が相當なる金額に累積するを待ちて其購入家屋賣價の指定部合に對する現金支拂を其所有株券を以て代納せしむると云ふ以外には、結果に於ては大体第五策に類するので有る。

此方法の特に利とするところは、職工をしてたとひ僅少の額たりとも此事業に投資せんが爲め、勤儉貯蓄の美風を助長するといふ點に有るので有るが、其實際に於て最障害となる可き點は第一策と同じく、住宅購入の當初に際し其賣却價格の一割に達する迄の金額を貯蓄し得ざるものに對して何等便宜が無いといふ事實で有る。

此方法に依れば當の會社は單に其資金の一部分を出資するのみで、大半は是を其職工の醵出に待つ結果として、斯の如き方法は勢ひ數千の多數職工を使役する大工場に在つてのみ實施し得可く、且つ此種の大工場に於ても多數の職工階級中、斯の如き投資に充分なる餘力を有するものは甚だ僅少で有るといふ事が、著しく其不便とする點で有る。

第七策

公債の發行に依りて經營する場合。

此方法の特に便利とする點は、職工住宅經營の如き種類の事業に對し、直接製造家が出資を餘義無くせらるゝが如き困難なく、製造家は自己の資本を全部擧げて其事業に直接活用し得る點に於て頗る希望す可きものの如く觀察せらるる。是を都市自体の上からしても、地價の騰貴を促がし課稅の餘地を增加する點に於て相當の財源を開托し得る結果、此種住宅計畫の爲めに市が成さざる可からざる其他の改良工事の進行を障害する樣な事は無い。

其不便とする點は公債の發行に際して、政府の同意を得るに非れば一定の金額以上に發行する事が出來ない點にある。然し方法としては政府の同意如何を論せず、一般事業家製造家にとつては非常に熱望せらるるところで有る。尙其他に注意を要するのは斯の如き性質の公債が、一般銀行及び資本家に對する氣受け如何で有る

第八策

是を州營とする場合。

千九百十一年マサチユーセツツ州立法部に於て、特に勞働者住宅問題に對する委員を創設し都市の近郊に於て勞働者其他に對する住居經營の事業に、州費支出の可否如何を調査せしめ。委員會に於ける調査の結果は千九百十二年に發表せられたので有るが、此問題に對する高等法院の見解は、斯の如き目的の事業に對し州費を支出する事は憲法違反なりといふので有つた。こんな調子で原案に種々適切なる修正を加へ一に對する三といふ多數を以て承認せられ、法案として州立法部より發表せらるゝ迄運んだのは千九百十五年で有つた。

其實行に就ては是に對する財源を得ざりしため更らに延期せられ、漸く千九百十七年に及んで立法部は一般法律第三百十條に於て、比較的低額の賃金を支給せらるる下級勞働者住宅の試驗的實施費として、住宅調査委員の手を經て五萬弗の支出をなし得る樣に決定した。

委員會は其實行に當り愼重審議の結果、敷地として同州ロウエルの地を撰定した。其理由は

ボストン市に近くして最活動的なる事、附近に下級職工を多數抱有する工場の多く存する事、適切なる敷地を得るに便宜多き事、及び市當局と有志が協賛を辭せざる熱心を有する事等によつて決定されたので有る。

土地の撰定を終りて價格千九百五十二弗八十五仙乃至二千三百八十一弗六十五仙の家屋三十戸の建設を決定し、先づ其内の十二戸を千九百十七年十月十六日に着手した。凡て木骨構造で其出來榮ゑは、一般營利的建築請負業者の手に成りし物に比して著しく優れて居つた。每戸セメント塗地下室と風通し宜き屋階（アチック）を有し、浴槽便所、洗濯場、給水給湯及び洗濯設備、電燈瓦斯設備（臺所用）を有する完全なもので有る。また暖房裝置用の釜と共に暖爐をも附設し使用者の任意にまかされて居る。主なる道路のホームステッド、ロードは公道として是をロウエル市に移管し、上下水道電線瓦斯管の埋設、舖道設備と並樹の植込、道路表面の補裝に至る迄凡て市により完全に施工せられた。

最初の計畫一戸では二千弗の豫定で有つたが最近建築材料及び勞銀の騰貴は豫定の金額では不可能で、多少增額を餘儀なくせられた。

賣却の方法に就ても充分に注意せられ、其不動產の維持と目的に對する活用を計る爲め、買受人にして若し是を他人に轉賣せんと欲する場合は、必ず先ず住宅委員會に全部を提供する事を契約せしめて居る。此方法によつて常に一定の價格を維持せしむると共に、建物及附帶設備の損傷を豫防する事に務めて居る。

賣渡しは規定の現金を先づ支拂はしめ、殘額は是を月賦拂とするので有るが、其支拂月額の標準は未拂殘金百弗に對し七十五仙の計算で有る。即ち二千弗に對しては十五弗、二千二百弗に對しては十六弗五十仙、二千四百弗に對しては十八弗といつた計算で毎月支拂つて行くので有る。

住宅委員の顏觸は統計局長、銀行家、同州農科大學長、衛生會員及び州知事、州議員の推擧に依る者三名を含む事となつて居る。また同州は

産業發達に伴ふ人口密集の弊を緩和する爲め、此種下級勞働者住宅事業に對しては公安維持の名目により、自由に必要の土地を收用し改良し經營し得る事をも制定した。

計畫の成功不成功を正確に論評するには未だ其時期に達して居らないが、事業の進行上今日のところでは兎に角成功す可きものの如く認めらるる。委員會に於ける最初の豫定計畫は、經驗を得るに從つて多少修正は免れないが、進工の狀況は至極順當で一般工業界からは非常な興味を以て眺められて居る事は事實で有る。

※　※　※　※　※

最近各方面に於て此種下級勞働者住居の改良事業の緊急必要に對し、著しく其注意を喚起しつゝ有る事は事實で有る。其方法如何に就ては是れが理想的實施案を立案するに先ちて、先づ既に實施を經たる各種の實例を詳細調査する事が最必要で有る。右に擧げた八ツの法策は各種方法の例として相當參考に資せらる可きものと信ずるが、今や一般に此事業に對する資金は、其地方有志の協贊に依り層一層增加せられつゝある狀況で有る。次に擧ぐる四例は各地方に於て既に實施せられたるものの實例で有るが、是れは或特種の場合に於ける參考に資する爲めでは無くて、此事業に對する一般的協贊による成功の證據として讀んでもらいたい。

1、ミシガン州フリントの例

同地に於ては勞働者住居增設の必要を認め都市（シッ）建物會社（イルビルヂングコンパニー）が創設せられた。會社の計畫は三千戶の住宅を建設するにあるので、千九百十八年三月迄に百三十八戶の落成を觀て是を賣却した賣却方法は價格の一割を現金支拂とし殘額は月賦拂、其支拂月額は殘額の百分の一を標準として居る。利率は年七分で月額支拂金中に是をも加算する仕組で有る。

2　ペンシルヴアニア州コーツヴイルの例

同地の有志百名の發起によりコーツヴイル住宅會社が創設せられ、各自一千弗の支出を約した、發起者の豫定では本年內に三十萬弗を費消すると云つて居る。此會社では最初の現金仕拂

を要求せずして直ちに其一番抵當權を與へ、會社は其未支拂額に對する二番抵當權を約して居る。會社はまた其遺族等に對しても充分有利な繼承權を約して居る。

3　**ペンシルヴアニア州ウイリアムスポートの例。**

資金百萬弗とし內五十萬弗は有志の醵出に依るウイリアムポート改良會社が市當局によつて組織せられた。一週間に渡る株券賣出も非常の盛況を以て無事滿株となり、差當り三百二十戶を建築する計畫が實行せられた。利益配當は年六分を以て制限して居る。

4　**ウイスコンシン州ウオウキシヤの例。**

資金十萬弗の職工住宅組合を同地の製造家が組織し、下級住宅の借貸及賣却の目的で事業を進めて居る。

要するに以上の如き各種の方法實例を仔細に調査すれば何れも各特色を有し、是れが優劣を批判する事は容易で無いが、全体を總合し何れの點に對しても理想的で有ると云つた風の案は未だ出來て居らない。是れは地方により法律幷に其四周の事情を異にする事に起因する。で有るから事業家は先ず其計畫中最必要なる部分を抽出し、此點を其特種の事情に適合せしむる樣努力するのが最大切で有る。

元來住宅問題なるものは有識なる市民の最注意を喚起す可き問題で、是れに要する資金は各方面に於て引受け分擔の義務を有する性質のもので有る。今其種類を列擧すれば左の部類を包含する事になる。

い　工場主事業家の團体。**ろ**　市廳**は**　商業團体。**に**　請負業者（其工事業に對する直接の利得者）。**ほ**　公共心に富める有志。**へ**　勞働者（直接其事業より利益を得る者）。

即ち直接其使役者たる工場主製造家が相當の資金を此種の事業に出資するの義務を有する事は勿論、市としても是れに相當の財的援助をする事は一般市の利害關係上必要の事に屬し、續いては商業團体或は公共心に富める有志の協贊

の如き、或はまた直接其工事の遂行に對し利益を得可き請負業者が、其利得の一分を提供するが如き、また一面に於て事業によりて永久利福を增加す可き勞働者其自身も亦是に對し、何等かの形式によりて應分の財的協力をする事は最必要の事に屬する。

また事業を計畫し進行せしむるには常に左の點に關して將た注意を要する。

第一。出來るだけ利害を共にする同業者は、互に相提携して事業の完成を期することを努めなければならぬ。

第二。若し數團体が互に協同して事業經營に當る場合、各住宅建築の敷地を別にする場合に有りても、尙ほ互に共同建築組合を組織し、其各職工に對し出來るだけ安價に家屋賣却をなし得る樣計畫しなければならぬ。

第三。右の外にも協同計畫の版圖は出來るだけ是を擴張し、務めて共通の便益を計るがよい

第四。組合の規約に就ては其作成に當つて特に愼重の考慮を要し、各方面の希望條件を包容する事に努めなければならぬ。また事業の性質として加盟者の受く可き利益を最公平なる見地の下に處理し、營利的に走らざる樣注意を要する。

第五。會社の組織方法に就ては、普通の株式會社と法人團体とを合併し折中して兩法の便宜を得る底のもので有り度い。即ち任意の團体が其計畫に對する資金の分擔を爲し組合を組織し是が出資の形式は株式によつて分配せらるゝので有る。

第六。投資を確實に且つ進んで投資せしむる樣に仕向くる事を注意し、また第一期計畫としての版圖を確定し適當な配當率租稅維持費に對しても亦相當確實の豫定をなし、成る可く剩餘金を殘し是を積立てるだけの計算がなければならぬ。

配當年額は多くの場合に於て五分乃至七分で有るが、此配當金以上に租稅維持費積立金等に對する相當の收益が加算せられなくてはならぬ稅金維持費等に對する剩餘も亦積立る必要が有

る。地方の狀況により收益分合は勿論一定しないが、一般に九分から一割四分位のところが普通の標準で有る。

是等の分合に就ては當初に綿密な計算により基礎を確定して置けば、其後の計算は比較的容易で有る。多くの場合に於て第一策、即ち最初に幾分の現金仕拂をなし殘額に對する相當利子を日々仕拂はしむる方法が最結果がよい。また元金に對する仕拂は別に購入する協定銀行株の利子よりするの方法で有る。また第一回の内金現金拂の不可能な者に對しては、少しづゝ其住宅會社の株券を購入せしめ、相當の額に達するを待ちて現金に代用せしむるが如き、職工の貯蓄心を奬勵する點に於て、其購入株券より相當の配當を得是を積立てゝ更らにより多數の株券購入を企てしむる點に於て、普通銀行に三分或は四分位の利子を以て預金するに比し遙に好結果を擧げ得るので有る。

是を都市の側より考察するに此種の計畫の遂行せらるゝ事は地價を騰貴せしむる結果、租稅其他相當增收の財源を得、土地の產業發達を促し一時的寄留者をして永住的土着市民と變せしむる等種々なる便益を得る次第で有る。また投資するものからしても事業の性質が土地建物に關する最安全なるもので、其利益に就ても豫期と實際に何等大なる誤差を生ずる事無く、安心して放資する事が出來るので有る。

勿論既に實施されたるものに就ては何れも多少の欠點を有し、結局は市とか州とか或は國家より相當な補助を必要とする。殊に最混亂狀態にある都市に於て、此種の事業を私營に一任して完全な結果を得るは到底不可能で有る事は明らかで、是に對し相當公共團体の援助或は進んでは其施設を待つて初めて實効を擧げ得るので有る。例令はブリヂポートに於けるが如き、住宅事業に對し現に使用せられて居る資金は百萬弗で有るが、本年の如きは新たに建築せらるゝ家よりも、集つて來る勞働者の方が數に於て遙かに多いといふ樣な狀況で有る。

結局は英國の如く吾人も此種住宅問題の解決

は、政府の管理と補助の下に完成せらるゝ事となるだらう。即ち此目的のために住居調査委員會の創設となり。全般に渡る必要の統計及び調査をなし、進んでは經營實行の任にも當らしむるので有る。また戰後に於ける勞働需給關係の變働に對しても、今日よりよく其歸するところを洞察し、適當に調節利用せらる可き事をも計らねばならぬ。議會の如きも此種の施設に對する相當な經費は是を協贊し、進んで其圓滿なる完成に努める事を希望する次第で有る。（完）

◆市營の質局◆

獨逸には數百年前より細民保護機關として市營の質局（Leihhaus）が在つて安い利息で細民の便を計つて居るから、細民泣かせの高利貸商賣は行はれる餘地がない。質局は全く獨立の會計で營業的に經營される。利率は金額に依つて高低はあるが、月一分か二分で質物には寶石、貴金屬、被服類、家具、書物其他一般に用ひられる品物なれば何んでも構はない。であるから勞働者仲間の者が利用する計りでなく、小商人は質局を割引銀行の積りで仕入品を一時質入れして金を借り出すに利用して居る。（ハヅ氏所論の一節）

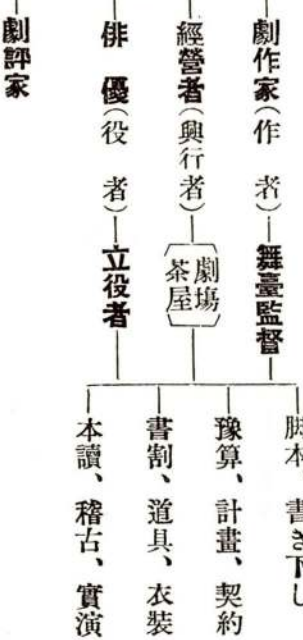


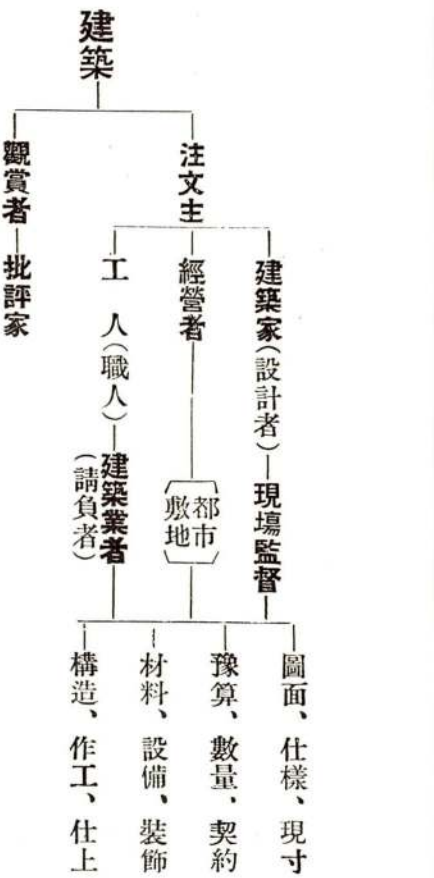
演劇と建築（中）

會員　波江悌夫

扱て演劇と建築との類似について、尚ほ立入つた研究を續けて見ますと、相互に相似た點が多いために建築の側から見て演劇の組織及其性質は決して他人扱にして置けない樣でありますし演劇の立場から觀察するとなれば亦建築は頗る近しい友人である樣であります。

今演劇と建築との社會的組織に關する一覽表を試みに擧げて見まするに次の樣になるかと思ひます。





演劇に在つては興行といふ羈絆を脫れぬ以上興行主或は資本家が、實權を握つて居ります。簡單なる試演とか、舞踊とかいふもので、全く研究的に演せられる場合は餘程金錢問題とかけ離れて、全く自由な藝術として、繪畫や彫刻と其軌を一にするものもありますが、演劇として社會に關係が深くなればなる程、其規模が大きくなればなる程、其目的が廣くなればなる程、經濟問題が基本となつて來る、丁度建築に於て資金が計畫の骨子であると同樣であり、それは又軍事に於ても軍資金がそれ〴〵土臺であるのと同樣であります。

曾て坪內博士が文藝協會を創立して幾多の試演の後、愈社會一般の公演に打つて出られた時最も能く最も痛切に苦しまれたのは資金であります、劇をして一層の効果あらしめ、俳優の技能を一層發揚せしめ又た觀客をして充分な滿足を與へるには、其衣裝を選擇し、背景を工夫し俳優の給料を充分にし各種の設備に遺憾なからしむるの要がある、或時ハムレツトの序幕を例にとつて博士は次の樣な意味を述べられたことがあります。

「きらびやかな色彩に充滿せられた宮殿內に、わざと喪服を着けた多情多恨のハムレツトを點

出した處が、此の劇の見所であるに係らず、吾々の分際では宮殿内のきらびやかさを充分に示す事が出來ません、俳優の技能が主ではありますが、諸君をして充分な滿足を與へるには、どうしても衣裝道具に相當の金を掛けなければなりません。」

博士をして此の言葉を出さしめたのはよくよくの事であります。博士が衷心の述懐といはんより、觀客の冷笑と不滿を如何にして柔らくべきかに苦心せられて、特に說明を以て訴へられたのでありませう。

藝術座が其旗色を鮮明にして堂々たる宣言を發表し、あらゆる努力を捧げ如何なる困難にも打勝つて見やうと其第一歩を社會に踏み入れたときは、理想に向つて猪突する其意氣に偉大なる所がありましたが、やがて實際問題として經濟の壓迫に苦しみ出し壯圖空しく夢と觀じ、うたゝ觀衆に媚ぶるの術を研究するに沒頭し始めたのは、要するに基本問題の痛切なる經驗を深刻に味つたからでありませう。

されば舊劇の興行が今に多大の觀客を吸收して、其權威を失墜しないのは、一面に觀客の嗜好の持續と、歷史を有する俳優の技能の圓熟せる結果であるにしても、其潤澤なる資金と數多の經驗を藏する經營者の手腕に負ふ所が多いのは爭はれぬ事實であります、現に劇界の覇王松竹會社が魔手の及ぶ所、幾多の劇場が風を望んで其麾下に腰を屈するのは、富國の實權を握つて世界的舞臺に怪腕を振ふ米國の現狀と似て居ります。

從つて演劇が眞性なる藝術であるにしても、資本家或は實權を握つてゐる經營者の注文意圖をヂグレクトすることが出來ず、作者や役者が屢々縛られてしまふのは無理もない處でありませう、場合によつては、經營者や資本家が俳優の我儘に閉口して拜み倒す樣なこともありますが、藝人は兎角弱いものであつて始終は資本主の金の力に左右されるのであつて、其弊の及ぶ處藝術の面目が屢失はれるのであります。

されば經營者や資本家は其立場から觀察する

と必ずしも藝術の理解がなくても差支はない、演劇が興行として行はれる以上は立派な一つの事業であつて、此の事業の經營維持に相當の手腕があればそれで立派に立つて行ける、そこで興行といふ見解、事業と視る立場からして尠なからず實際的拘束を受けるのでありますし、經營者側に兎角藝術の何者だか解らぬ人が多いので演劇が藝術としての自由を奪はれて作者や役者が泣かされるのであります。建築に於ても此の點は大いに似てゐます若し此の重大な主權者及其參謀官たる經營者が、事業家としての手腕があり又眞に藝術の理解があつたらそれこそ作者や役者がいかに浮ばれることでありませう。劇そのものも如何に立派な藝術としての價値を高めませう、さりながら事業其のものは理想を追ふて行くものでない、現實の經驗の上に經營の苦心を積み重ねて行くものでありますから、實際と理想との隔絶は其舞臺が大きければ大きい程甚しいものであると思ひます。

資本家や經營者が其事業を遂行する上に於て演劇の價値と目的と性質とを充分に理解するの必要は固より大切であつて、理解があればある程其事業の發展に資する處が多いのは爭はれない事であります、今の演劇界の事業家が如何に演劇を理解しつゝあるかは私の知らない處でありますが、作者や役者の立場から觀察すると到底其立脚地を異にして居る爲めに、事業家をして藝術の眞價を認めしむることは出來ないのは作者や役者が事業家たることが兎角不向であるのみならず、又事業そのものすら理解が出來にくいのと同樣でありませう。

藝術は理想を生命として居ります。理想に突進する者が何うして現實の問題に頭を使ふことか出來ませう。乍然若し此等の藝術家が眞に事業或は興行の理解を得たならば、其藝術を建立する上に於て如何ばかり利益を得ることでせう理想を生命とする藝術の實際の問題に觸れて忽ち其價値を失墜するの破目に陷らずに、藝の墜落を暴露することなく、むしろより以上なる眞諦に觸れることが出來ませう。

此の點については坪内博士も、藝術座の連中も、實際といふ大なる經驗を得られた事でありませう。又理想に馳する人々が演劇の根底に事業の存在を無視することが出來ないのに氣が付かれたに相違ないし又藝術に生きんとする人々が實際問題に事業家又は經營家としての才を必要と感ずるの外、更らに藝術家が經營者としての手腕を發揮し得なかつた事實も明瞭に解つた事でせうし、今後は藝術家にして事業家たる人々が現はれて來て劇界の刷新を謀られる機運が到來する事でせう。

要するに演劇が其根底に事業といふ性質を有し、經濟の城壁を守らねばならぬ爲めに、現在では實社會の組織の上に資本家が全權を振ひ、經營者が支配人格で差配する關係となります。そして此の關係は建築界にても殆んど同樣であります。

經營者は場合によつて資本家たることもあります。資本家が亦數人の合資によつて會社組織にすることもあり、今日では進んで株式會社となつて居るのもあります、若し資本家の勢力が偉大である場合には、支配人格は位置として見慘めな境遇に陷ります、經營者は固より黑幕の中に在つて采配を振る役でありますから謀を千里の外に決するの才を有するものは思ふ存分の手腕を發揮する事が出來ます、所謂其人に在る事であります。

若し經營者の悲境に在るものに在つては、右に作者の怒を負ひ、左に役者の我儘を制することが出來ず、其結果は觀客の滿足を得ることすら拙く、收益の減少は資本家の信用を失墜する事となります。一度其人を得んか全責任を負ふて多難の問題を解決し去つて、作者の蘊蓄を傾注し、役者の藝を向上せしめ、一般觀客の興をそゝり、結局資本家の事業を完成する事が出來ます。

作者は所謂劇作家であつて建築でいへば設計者に當ります。經營者の片腕であり、參謀であります、若し作者が經營者と意氣投合して其天才を發揮する場合には大近松の如き大藝術家が

生まれます。則ち作者は演劇の理想的經營者とでも云へませう。作者にして經營の才の在るものに在つては、內外に其手腕を發揮して全權を握ることが出來ませうが、所謂藝術家の長所を立つれば立つる程、實際問題の拘束に苦んで、自分から造つた罠に陷つて苦闘を續けます、自個の自由なる空想を實現せしめやうとする時に一方から經營者の干渉を蒙り、他方に役者の注文を受けて、とゞのつまりは個性を目茶苦茶に破壞された價値のない作品を公演せねばならぬ破目にも陷ります。

作者は又實演に於て舞臺監督の役目を持つて居ります。丁度建築に於て現場監督を引受くる建築家に當ります、其藝術を完成する爲めに何處迄も親切な指導者とならねばなりません。舞臺監督といふ役は泰西劇の研究が盛んになつてから大に必要を認められまして、最近の新劇の勃興につれて起つた名稱であります、尤も從來我國の舊劇に在つては、立役者則ち中心の役者が實際に行つて居た處であつて、殊更此の役目を造る必要がなかつた樣であります、九代目團十郎の如きは頗る嚴格な舞臺監督であつたさうで一度舞臺の上に在つては、眞劍な熱烈な体度を持して他の役者を威服せしめ、時としては實演中相手の不眞面目を叱するの罰として對話の應答をなさずして默つて睨んで居たといふ事です從つて舞臺一面に非常なる緊張を持し得たといふ事であります、現に雁治郎や曾我廼家五郎の如きは、役者であつて舞臺監督をやつて居ります、東京の歌舞伎座では最近坪內博士を招じ博士の傑作を上演するに際して事實上の舞臺監督を依頼して居る樣であります。

尤も分業の世の中でありますから舞臺監督は必ずしも作者の任務でなくなるかもしれません作者の任務よりは舞臺監督は實際上の問題に應酬するのであつて多少其技能を經驗と手腕に待つの必要から歐米では別役となつて居るさうです。

役者は演劇の實演に於て表面に働く所の重大な役目であります、經營者の目的を貫徹し、作

者の意圖を成就するに於て最も大切な役目であります。いくら經營者や作者に手腕があつても役者に能がなかつたならばつまり失敗になります、從つて役者は演劇の少なくも表看板として其技能を飽くまで熟練させ習得させなければならない、文藝協會が新時代に立つべき役者を養成し樣としたのも茲に在ります、脚本の價値は役者の技能によつて一層の色彩を發揚します。從つて作者は其作品を上場する場合には役者の選擇及養成について出來る丈の苦心を味ふことでせうし、又或役者の中心とする劇の効果を有利ならしむるために其役目の性格や個性を呑込んで其作品を製作するに可なりの努力を拂ふ事もある樣です、即ち立役者によつて脚本の風を異にしなければならぬ樣な場合にもなります、又役者の側から見ても脚本の內容を理解して始めて自分の藝を立て得るものであるから大いに自個の性質に適應するものを選びます、茲に作者と役者との交涉が起り、新脚本の上演に際しては幾度かの改作注文、工夫研究が行はれます此時に役者と作者との趣味が相異するか、目的が異なるかによつては、兩者の意見の衝突が起ります。

由來藝術家は個性を主んずるが爲めに、頗る量見が狹く妥協融合が出來にくいものであります。それ故中心の役者と夫れに隷屬して居る弟子とが上演する場合には大した問題も起らない樣にするが、同し樣な格輩を數人一舞臺に立たしむるときの苦心は大に同情に値する所であつて、屢舞臺監督や作者が泣かされる場合となります。所謂合同劇の如きは此の弊に陷つていつも開演間際に役目の不平から衝突が起り初日が遲れることがあります、藝術座が須磨子中心にした一座であるに係らず、又屢暗鬪が起つて波瀾萬丈となるのは、天狗の寄合から融合の路がない爲であります。

演劇は已に多人數の藝術家の綜合藝術である以上各人の努力の統一が出來なかつたら御終いであります、從つて何うしても立役者を中心として他のものは之れの周圍に從屬しなければな

らぬ性質を持つて居ります、從つて新派劇がやる合同一座或は舊劇で演する顏見世芝居の如きは、各手腕ある役者の顏觸を並へる所に長所があると同時に大きな缺陷があつて、頗る亂雜なる散漫なる結果に陷ります、茲に至つては綜合藝術の主要なる性質を忘れて局部の効果にあせり大局の失敗を招きます。

反之藝能未熟な連中であつても作者と舞臺監督との手腕と役者の各自の理解によつて全体としての統一融合によつて大局の利を占め得べき實演のなし得られぬことはない樣であります、今日我國の野球界では各チームの強みといふことを尙び全体の統一協力に努力を拂ふ樣になつて、一進歩を遂げて來ました、軍事に在つても輜重隊の如きは各隊の連絡と平等平凡な努力とによつて大局を逸しない樣に努力せしむる方針となつて居ります、曾我廼家一座の如きは屢々此平等觀から出立して綜合劇の効果を利用して成功して居りました。今日の樣に民衆的藝術を稱導する傾向になつて來た歐米の藝界では、必ずや民衆的脚本が研究されて行くことでありませう。

扨て斯くの如く演劇の社會的組織は、內外二方面の分擔と其中間にある作者と更らに背後の資本家との連關相應の狀態を形成して居りますが、其目的の貫徹其藝術の成就には、什うしても綜合的努力の必要な所以が即ち綜合藝術の重要なる特長であります。

然るに建築界に於ける社會的組織も亦頗るこれに似て居ります。從つて劇界の現狀を觀察して學ぶべき處が甚だ多い樣であります、建築が經濟を土臺にして社會的拘束を受ける程度は全く演劇と同樣でありますが建築を一つの事業と觀て資本家が其資金を投下する樣になりましたのは極最近の事であります。まだ〳〵建築が一つの事業として研究されるには前途遼遠であつて、演劇に比較して甚だ心細からざるを得ない處であります、既に歐米の先覺者間には餘程以前から研究されて居りますが、吾國では建築は藝術の範疇から漸く技術の領分に無理に引張り

込まれさうになつて居る位の處ですから、直木博士の本誌に喝破された「技術則事業」の高說に空谷の響音を聞く樣な狼狽と怪異に打たれて居るに過ぎません。

建築の資本主は從來注文主と呼ばれて居ります。從つて其性質は物品を依賴購買する程度の意義より發達して居らんと觀ることも出來ます然し茲が演劇と建築との性質の異同の存する所でありませう兎も角建築の注文主は演劇の資本家と大差ない位の素人方が多いのであつて、建築は一個藝術であるとの理解も甚だ薄く又之を事業と觀る程進んだ見解を持つて居られる場合も甚だ尠ないのであります、從つて注文者側に大なる期待と高い識見と建築に關する理解がない爲めに、設計者にしても、請負者にしても、注文主の意圖を測量するに甚だ苦んで居りますこれは建築家が注文主の意圖通りに其經營が出來得ない點もあり又注文主と設計者との意志疏通が充分でない爲でもありますが、相互關係は演劇の場合と似て居る點が甚だ多い樣です。

吾國の建築界では注文主の黑幕に在つて手腕を振ふべき經營者が居りません、これは建築が我國に於て未だ充分な社會的發達を遂げて居らぬ証據であつて、多くの場合に注文主或は資本家は御自身に命令を下されて居ります、從つて建築の理解のない注文主にありては往々無理を押通されんとする傾もあり、命令も屢々徹底せぬ場合が多いのであります。會々御主人公の配下に良參謀官の居られる場合もありますが、建築の社會的普及の範圍が狹い丈に、良參謀官も建築の理解のない方が多いのであります、又場合によりますと住宅などに在つては屢奥樣や令孃や女中達の臨時參謀官の建議が重要な命令となつて現はれて來ます蓋し住宅に在つては實生活の經驗を甜められつゝある御婦人方の意見は誠に肯索に當つて居る場合が多いのでありますが、建築に趣味を有せられ一家の見識を樹立して居られる御婦人は亦甚だ少ないのであつて建築に關する社會的地位の如何に貧弱幼稚であるかが伺はれるのであります。

歐米では既に小學時代から男女に限らず建築の理解を相等に教へられ、中學時代にあつては更らに建築の智識を授けらるる樣子でありますから、社會に出でゝは建築の趣味なきものは甚だ少ない譯であつて、社會的に建築が甚だ廣い範圍に理解を有せらる結果、建築の經營に際して多くの良經營者が中心となつて注文者又は資本家の意圖を成就して居ります。從つて建築が事業としての理解並びに建築界の社會的連絡關係も頗る圓滿なる發達を遂げて居る樣子でありますが、我國の現狀は今猶頗る幼稚なる道行を辿りつゝあるのであります。

既に建築を新營するに當つて經營者としての中心人物のない我國に在つては、社會的相互關係に缺くる所あるのみならず、經營者の左右に連關活動すべき作者と役者の任務分擔協應連絡並びに手腕に關しても、尙頗る過渡時代である現狀を觀察しない譯には行きません。

今日では建築家の數も大いに增加して參りましたし、作家として設計者としての手腕も大いに精錬努力の功を積んで新時代の建築に從事しつゝある有樣でありますが、まだ〳〵社會的地歩を確立して全社會と建築家との連絡を確保するには相當の年月を要するかと思ひます、建築家の存在すら稍ともすれば認められないかと思はれる點もあり、建築界其のものすらが既に社會の一隅に僅かなる活路を辿りつゝあるのではないかと危まれる次第でありますが、實際社會全般から見れば建築家の努力は誠に至つて小基模の範圍に個々別々なる天地を開拓しつゝあるかの樣であります。

飜つて建築界の役者として此の社會の偉大なる藝術を建立する—演劇でいへば藝術を實演すべき—方面の藝術家には果して如何なる人々が働いて居るでせうか、茲に至つて私は頗る奇異の感に打たれざるを得なくなります。劇界で最も重要視せられてゐる處の藝術家は新時代の名詞を頂載して俳優の稱號に少なからず社會の尊敬—舊幕時代は河原乞食の異名を附せられた人々の子孫は今や時代の變革から一躍藝術家の看

板と技倆を認められて活動しつゝあるに係らず建築界の役者たるべき藝人の現狀は實に慘憺たるものではありませぬか。

建築界の役者を私は工人と名づけます、此の工人の中心にあつて此の偉大なる藝術の成就に努力する立役者を建築業者（別名請負師）と致します事に躊躇をしないのであります、然るに建築業者或は請負師の名稱は如何なる連想と如何なる妙音を吾々の耳朶に傳へつゝあるでありませうか。茲に至つて我耳を疑ひ我頭腦を疑ひ我心を疑ひます。そして更らに我建築界の現狀に痛歎を叫ばない譯には行きません。

現在我國の建築業者則ち俗名請負師は社會的に實に氣の毒な待遇を受けつゝあるのであります、從つて此等の請負師の輩下に從屬しつゝある數多の工人も亦頗る悲慘なる社會的境遇に沈淪しつゝあるのであります。乍然此等の人々の祖先は、決してその社會的地位を低下しては居らなかつた。舊幕時代には此等の人々は親方或は棟梁の稱號を受けて重要なる社會の活動的人物であつた。更らに溯つて考へて御覽なさい、親分或は棟領の有力者は、上は朝廷の信任を得將軍家の依頼を受け、各大名の愛顧を蒙りつゝあつたのであります、劇界の役者の御先祖とは全く反對の位置に在つたのであります、然るに時世の變轉は斯くも猛烈なる社會的變動を起して前者の子孫は此貧弱なる地位に陷り、後者の後裔は新時代の驕兒として一代の聲名を傳へて居ます。

殊に舊幕時代に在つては建築の棟領は實に內匠頭の榮冠を載き得る程、我國古來より其地位を認められて居りました、飛彈を生國とする匠工は立派な藝術家として立つて居りましたそして畏くも皇室を初め將軍家或は各大名の信任を受け、位階を賜はり官職を授けられ建築に關する萬般の統裁官であり設計者であり、又工人であつたのであります。

此の如き社會的地位に在りましたから棟領の意氣と其術に對する權威から見て、立派なる藝術家として社會の尊敬と愛顧と依頼とを受けて

飽くまで其業に精勵したのでありましたが、一朝御維新の社會的革命から其地歩を失墜し、大工の棟領は殆んど一工人位にしか取扱はれぬ見慘な地位に押し下げられ、其將來を葬り去られつゝあるは如何なる理由に依るものでせうか、これや過去に於ける藝術家が時世の變遷に順應し得られず、其藝術を抱いて自滅を招いたと同時に、却つて一工人であつた土工或は親分が建築を事業視する見地からして經濟的に其地歩を占め來り全く取つて代つた樣な珍現象を産んだのではありますまいか。元より社會的激變のために武士が殘れて町人が頭を擡げ得たのと全く同樣であつて致し方もないのでありますが、決して建築家の爲めに不問に附することの出來ぬ重大な且急要な研究問題の一であります。

建築業者は任務として建築の完成に全幅の努力を拂ひ設計者の意圖の如く、又注文主の要求に應じて、數多の工人を手足の如く働かして以て其目的の貫徹、藝術の成効をなすべきでありますが、幼稚なる我國の一般社會が今日建築を觀ること頗る低く『土木建築』と一括し去つた爲めに、頗る緻密なる又頗る地味なる建築と大まかな、荒つぽい、土木とを一門に取扱はれたために、建築業者は所謂請負人の銘を打たれ、請負師といへば土工の親方であつて社會的地位は下級の待遇を受け、請負業者亦數々山師的行爲と不正な手段を敢して、注文主の惡感を買ひ相率いて其守るべき立場を失つてしまつた爲めに、其禍は今日に及んで尙其社會的地位の向上が出來ない有樣であります。

これは主として純技術の立場に在る土木と藝術の母たる建築とを知らず〳〵混亂せしめたる自繩自縛であつて、建築業者が建築界の爲めに其前途を回復する爲めには、進んで此の混亂から自を救い、所謂受負師の境涯をして事業經營者としての自尊すべき地位に立返ることに絶大なる努力を拂はねばならぬと同時に又よく社會の變体に順應して立派に現在にも將來にも其地歩を失はぬことに全力を注ぐべきであります今日の建築業者が進んで舊時の地位に立還るべき

は決して不可能な事でないのであります。

斯く現在の建築業者が混亂と自滅の歴史を書いて居る間に、泰西建築術の研究に努力した特志家が、社會の新時潮に乘り出して來て從來棟領の獲得して居た地位に其陣容を新にしてしまつたのは、幸運と努力の賜であります、今日多くの建築家が其風雲に乘じて得た天の賜を飽くまで獲取し進んで發展し行くのは大に賀すべきでありますが、我田引水の論理から過去と討死をしつゝある大工棟領に對して、冷笑を加へ痛罵を與へ、飽くまで現社會に於ける彼等の地歩を根底から破壞せんとするは、決して喜ぶべき現象でありません。死屍に鞭打つ樣なものであります。一掬の涙あらば彼等の現狀を救濟して血路を與へてやるべきであります。語に曰く執らんとすれば與へよとあります。

然し時世の變轉は止むを得ません、天の然らしむる處であつて現在の建築家が其新たなる地歩を占め來つて其新任務の遂行に努力すべきは勿論でありますが、同時に建築が綜合藝術の價値を發輝するに當つて大局から打算して各般の關係を研究して行くべきであるとしますと今日の現狀は冷汗三斗の想が致します。

建築界では作家の立場即ち設計者の地歩は豫想外の發展を遂げて居ります。演劇の作者が或は舞臺監督が割合に暗い努力をしてゐるのに比べると雲泥の差があります。蓋し一方建築業者の自屈自縄に陷つて居る上に工人の中心役者であつた棟領が非境に沈淪して居るがために、建築家の現在の地位は一方に藝術家の看板を高く揭げ、又よく經營者側としての手腕を發揮して全く建築業者を閉息せしめて居るのみならず、役者としての工人を思ふ儘に指揮して居りますこれや實に建築家先輩の賜物であつて、決して幸運の然らしむる爲めばかりではない、建築界先輩の努力は今日吾々若輩の簡單に考ふべき程度のものでない社會の變革泰西建築の輸入咀嚼に對してあらゆる努力を眞面目に成就したればこそ此の地歩を占め得られたのでありませう。從つて今後の建築家の地位と其働くべき方面の

開拓はかゝつて後輩の双肩に在る譯であります。

前述の如く建築界に在つては建築家の地位は好境に在るに係らず、工人の立場の悲慘なる、請負師の因襲的に墜落せる現狀は決して喜ぶべき現象ではないのであります。建築家が建築界の將來を開拓するに當つては先以て此の社會的缺陷を救濟指導しなければなるまいかと思ひます工人と請負師の地位を回復するといふ事は決して建築家の地位を低下するものではない、却つて將來の活躍の地歩を占むる所以であらねばならぬと思ひます。

既に建築が美術より技術、技術より事業に其内容を擴大し行くに連れて、此の偉大なる藝術の重大なる役者が何等藝術を解せざるのみならず徒らに惡德なる經濟上の陷擠に陷つて居る間は如何に建築家の努力を偉大ならしむるも豈夫れ建築界の隆盛を期することが出來ませうや。

◆田舍芝居◆

鼻垂先生

官洲祭禮日東一　豐後芝居更爲レ榮
阻レ風浪花客亦看　逢レ雨山家猿可レ驚
正宗失レ寶侍衆働　琥珀吸レ塵娘子鳴
人形衣裳勝二綿服一　役者業平傾二衆生一



スコット記念像

會員　須藤まがね

——建築史ローマンス——

ジョーヂ、ケンブは此の世の中へ生れ出たまんまで、**ペントランド**の丘に羊を追つて成長した。此の少年の世界は只この平和な一村に限られてゐた。春が來ると白い栗の花や、紅い五月花（メーフラワー）が絲屑を布いた樣な**ペントランド**の丘を彩るのが此の少年の唯一の美の對象であつた。英國の片田舍の閑靜な、單調な、自然の一隅に羊と共に羊の樣に、只すら〳〵と生ひ育つた少年**ケンブ**は十歲の時に初めて街と云ふ物を見たのであつた。

主人の使ひで**ロスリン**へ行く道すがら、此の少年の心はどんなに「街」と云ふ物に憧憬を燃やしたであらう。都會、廣い都會には立派な邸宅や會堂が建ち續つてゐて、男も女も眼の眩む樣な著物を纏つて毎日毎夜踊り暮してゐると云ふ話である、定めし道傍には栗や五月花（メーフラワー）よりも、もつと〳〵美しい花が咲き亂れて、庭園には羊よりももつとしなやかな毛を持つた愛くるしい家畜が遊んでゐるだらう——少年**ケンブ**はそんな風に街といふ物を空想の色で彩つて、心を躍らせて、あくがれの道を急いだ。

果して都會の姿はこの純眞（ナイーヴ）な一少年に狂はしい感動を與へた**ロスリン**の街へ辿りつくや、先づ**ケンブ**の幼い頭に働いたのは**ゴシツク**式の城廓であつた。丘上を廻つて峙つ長蛇の樣な磚壁は、威かめしい parapet embatted で劃然と蒼空を限つてゐる。四角い樓が處々聳へて、その四隅には美しい尖塔が展望を恣にしてゐる。灰色の磚壁の裾には色濃やかな蔦の若葉がからみついて莊嚴な古城に幽玄な詩趣を添へてゐた。

それから**ケンブ**はまた美しい教會堂の姿に打たれた。銳く尖つた高い屋根をいたゞく崇高な教會堂には細長い窓がいくつも並んでゐた。それには火焰の樣な tracerly が、これが石細工かと思ふ樣に精巧に施こされて、その底からは色鮮やかな**ステインドグラス**が粲爛と光彩を放つてゐる、その眼も眩むばかりに優麗な建築の姿に、素朴な羊追ひの一少年は悉皆り感動して了つた。美しい物と云つては栗の花と五月花（メーフラワー）と丈けしか知

らなかつたケンブは今日初めて建築の美しさと云ふ物を知つた一度よりよき物を知つては最う今迄の享樂で滿足をしてゐる事は出來ない。ケンブには最うペントランドの丘で羊を追つて一生を葬つて了ふと云ふ事が如何にも情なく感ぜられ出した。なろう事たら毎日怨う云ふ美しい建築の感化に浴してゐられる都會の人になり度い。それもいつその事に建築師に成つて一生を建築の爲めに捧げ度い物だ、と云ふ考へがいつしか心に萌してゐた。建築の美に醉つて日の暮れるのも忘れて街をさまよい歩いたケンブは、これから村へ歸つて行くと云ふ事がしんじつ悲しかつた。

「隣り村の大工さんの弟子でもいゝや、歸つたらお父さんにお願ひして見よう。——だけど許して下さるかしらん」

歸りの途では少年ピツトに感慶ことを考へてゐた。

○

文豪でそしてセルカーク州の長官である、サー、ヲータ、スコツトを乘せた馬車が今トヰードの谿を辿つて行くと、遙か彼方に大きな荷物を擔げた旅人がとぼ〳〵と歩みを運んでゐる、山蔭にかくれてはまた見へる旅人の繪の樣な姿が、瀨を越へ岩角を廻つて進む程に次第に近付いて(はつきり)判然として來た。スコツトは馬車の上から、展開して行く四邊の山景色と一緒に、見へたり隱れたりする旅人の侘しい姿をも樂しんでゐた。同じ道を歩む旅人同志の心には、知らず〳〵の裡にいとしい愛着の念が湧き起つて來るものである、スコツトもいつしか其旅人の姿が妙に懷かしくなり出したので、その旅人に追ひ付いたら其の行き先まで此馬車へ乘せて行つてやらうと心に思つた。そして馬を急がせた。

エリバンク塔の傍まで來ると、先刻の旅人は道傍に蹲んで塔の形に見とれてゐた。スコツトの差圖で馭者は旅人に追ひ付くと先ぐに聲を掛けた。

「もし〳〵旅の方、どこ迄行かつしやるだな」

「ガヲシールスまで」

旅人はブツキラボーに答へたまゝ、未だジツト塔に見とれてゐた。

「それならガルシールス迄伴れてつてやるべい、こゝへ乘らつしやれ、お金は要られねだ」

馭者は親切な言葉で旅人に勸めた。

「どうも有り難うござんす、ぢやがそれぢやあ、御客人樣に濟むめいがな」

「なあに御客樣が先刻からお前樣の後姿を眺めて御座つてそう仰言るだよ、さあ乘らつせい」

「どう考へても御氣の毒な事だ、遠慮すべい」

「なあにはあ、遠慮せんでもいゝだよ、旅は道伴れ世は情けぢやもの、ハツハツハ、お前さんがまた此旦那に御世話をする事もあるだつぺい」

馭者は旅人を自分の隣りへ無理やりに乘せ込んで、威勢よく一鞭あてた。

旅人はジヨーヂ、ケンブであつた、彼れはロスリンの建築に非常に感激してとうと羊追ひをやめて指物師の徒弟となつたの

だが、今や年期も濟んで一人前の職人となつて仕事を求めてガラシールスへ働きに行くところであつたのだ。

○

（旅行は建築家の最高學府なり）と云ふ言葉があるが、ケンブは常に旅行を以てその建築技術を磨いてゐた。彼は一つの工事が完成すると直ぐに器具を背負つて他の土地に仕事を求めた。そうして成る可く、古い壯麗なゴシツク式の建物のある土地に足を止めた。そんな風にして彼れは十年ばかりの間に北部英倶蘭土の大部分を歩いて了つた。そうして大工として稼ぎ廻る途中にいゝ建物があると何日もそこに足を止めてそれを描き貯へた。ランカ州で働いてる時などは、五十哩の道を歩いてヨークへミンスター寺院の調査に出掛けて行つて、研究に一週間を費した後復た徒歩で仕事場へ歸つて行つた様な事もあつた。

そんな風にして英倶蘭土も大低見悉して了ふと海外へ足を延ばして見度くなり出した。ケンブはもう充分達者な職人になり切つて殊に工場建築に特技を持つてゐるのでその希望も雜作の無い事であつた。それで巴里へ行つて相不變大工として働きながら描寫と學習とを續けた。

巴里から歸つて來ると間も無く彼れに大變都合のいゝ仕事が引かゝつた。それはエデインバラの大彫刻家の著述の口繪を頼まれたことであつた。之れが爲めに彼れは蘇格蘭土の半ばを旅行して材料を集めた後、十八世紀の考古學者ブリツトンの「古代建築法」を基として、著者の考へ通りの想像圖を描き初めたその仕事は誠にケンブに取つては趣味に合つた仕事で、また彼れの半生の研究を世間に發表するのに御誂へ向きの舞臺であつた。それでこの無名のゴシツク建築研究者は大なる希望に心を顫はせて只管製作をいそいだ。彼れは一枚の想像圖を仕上げると嬉しげにそれを眺めて、それが世に出た時の事を空想した。

「殊によると俺は一ぱしの藝術家として世に認められるかも知れない、然し俺はどこ迄も職人として此世を送らう」と云ふ様な事を考へた事もあつた。そうしては又た次の製作をさいそくんだ。

所がこの尊い發奮も清い慾望も不意に運命の手にさらつて行かれて了つた。それは突然著述者が逝くなつて出版は中止されたのであつた。ケンブは希望の曙光を奪ひ去られたばかりでなく、それと同時にその日の糧までも奪はれて了つた。それでケンブは又もや徒らに非凡な才能を抱きながら、工具にその日その日を托する身となつた。彼れはその失望落膽を誰れに訴へる事もしなかつたが、天は早くもそれを憐み給ふてケンブに機會を與へ給ふた。

機會と云ふのは外でもない、スコツト記念像の懸賞競技であつたのだ、彼れはその募集廣告を見ると早速にトイードの奇縁を思ひ浮べた。

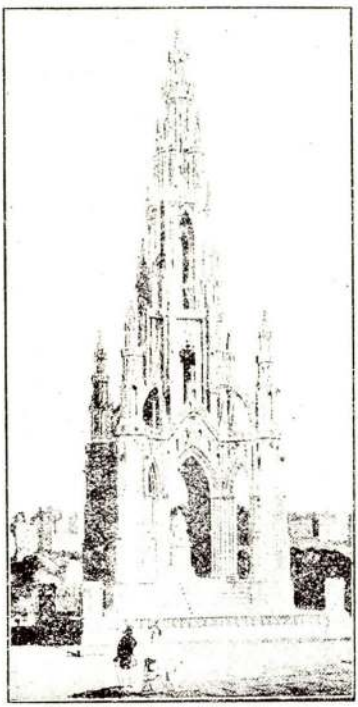
「いつか馬車へ乘せて送つて呉れたアノ親切な長官だ。アノ方の記念像だ、一つ俺も眞心をこめて設計して見やう、あの方の記念像とあれば是非共當選し度い物だなあ。それは譯のない事だ眞心を込めさへすればいゝんだ、誠意がこもりさへすれば屹度審査員の心を動かす事が出來る筈だ」

ケンブは固い決心を以て、その圖案の製作にとりかゝつた。

ケンブが畢世の研鑽は只一つの記念像にこめられた。

ケンブは魂も肉体も悉く一個の記念像に捧げて了つた。

ケンブのこの献身的の努力の結晶は燦然として審査場裡に異彩を放つて、數多の知名の大家の圖案を壓倒して全會一致を以て選び取られた。



（スコットの記念碑及記念像）

その優秀なる記念像が建設された時**ケンブ**はもう此世の人ではなかつた。彼れは一生を撓まず屈せず、只一筋に勉勵と研究とに費したが、こう〳〵その結果が石に体現された事を見すして此世を去つたのであつた誠に薄幸な建築師であつた。

此の熱烈な建築師の努力を一人占めにした**スコツト**の記念像はまた世にも貴い物の極みであらう。（完）



東京通信

會員　江都生

(一)

明治神宮外苑に建設せられる聖德繪畫館と葬場殿址記念建造物との懸賞の結果か發表せられましたについて、其成績を是非拜見したいと思つて居りました處、幸に十月の五日及六日の兩日に青山の憲法記念館に陳列公開せられましたので早速參觀を致しました。そして不幸落選の憂き目を見られた君に、そして關西に在つて此種公開の展覽に參觀の期なき君に、又當選圖案其他の秀逸なる作品の長所を親しく觀る機會のない不幸な君に私が感想を送ること必ずしも、無駄なことでないと思ひますから、茲に遠慮のない所を書き付けますから、其御積りて御覽下さい。

陰鬱な此頃の空、本當に困りますれ、秋の空といへば一段と冴へ返つて天堂の奥迄も開け放す樣な氣持であるべきに、じめ〳〵とした五月雨の樣な時候、これから亦蒸し暑い夏が盛り返すのではないかと思はれる位ですよ。

青山の憲法記念館は御承知でもありませうが　先帝陛下の親しく明治の元勳等と國事を議政せられた記念館であり、亦伊藤公等をして我國憲法の起草推稿に努力せしめられた處であります後に一度畏くも　先帝より伊藤公に下賜されたもので大森の大井村に建てられたが、今の公爵が明治神宮の造營に際して外苑の記念館として寄附せられたものだそうであります。

(二)

青山の櫻田原で電車を下りてこの記念館へ參りました、丁度五日の午前中は當選者に授賞式か擧行せられ式後此度の審査に關係した方々と明治神宮奉贊會の人々に展覽せしめたのださうであります、この憲法記念館は西向に玄關を置き重要な室は東向となりて居ります、和風の簡素な建物でありますが、明治初年の建築として何處かに大まかなゆつたりとした木造建築であります。其煖爐の意匠や天井及襖の裝飾にも何となくのんびりとした氣持のよい手法が窺はれる丈に好箇の記念館であります

應募圖案は到着順に廊下から各室へ一面に掲げられてありました。當選圖案丈は東向中央の廣間に集められてありましたが落選圖案は百四十何通といふのですから、一々叮嚀なる取扱ひが出來なかつたと見えて圖面の數も拔いてあり殊に詳細圖がなかつたので充分なる觀察の出來得なかつたのは、私としても遺憾であり、參觀者諸君も亦遺憾とせられた處である樣です、戰は敗者に見慘なものでありますね。

今度の應募圖案と其當選圖案とを見較べて後私の心の中に宿つだ第一の想念は競技に於て大切なる第一歩の出立點の怱せに出來ない事を感します。審査官の御考は兎も角といたしまして應募者が應募の決心を確立した後に如何にして其目的を達し勝者たり得べきかといふ根本の急所を捕へ得なかつたら、輕々しく多大の努力を費すことが非常なる損失てある樣であります。

例へば試驗の問題にしてもそうでありませう。出題者の意圖が何邊にあるであろうか、其問題の目的は如何、從つて答案の要領は如何なる方針にすべきかといふことは、受驗者の大に工夫しなければならぬ點でありませう。今日此頃の入學試驗に際して優良なる學生が其答案を作成するに屢々失敗を招く所以と同樣に、抑も〳〵ペンシル動かすべき以前に充分工夫考慮を費やすべきてある樣です。

戰の後から見ればあゝすればよかつた、斯うすればかゝる失敗はなかつたと氣の付くものですが、さて後悔先に立たず、遠くに慮なければ近きに憂ありと稱すべきことでありませう。敗軍の將兵を語るまじとすれば、むしろ戰の後を悉細に研究するに越したことはありません。そして既に其の第一歩をあやまつたために大なる苦戰に陷つたものとするならば、男らしく恥を忍ぶの外はないと思います。所謂「戰は勝つに在り」といふことは箇にして要を得てゐると思ひますね。

又勝負は「時の運」と申します。「天の利は地の利にしかず、地の利は人の和に如かず」兵を運用するに於ても天の時、地の利を占めて後に人の和を求めて居ります、若し天の利を得ず亦地の利を得ざるが爲めに——（君は關西に居る丈地の利かないともいへます）失敗したものとしますると、それは必ずしても將の失にあらずして天運の然らしむるところと思ひます、時節到來を待たればならぬことでありませう。

（三）

此度の圖案を通覽しますと既に第一歩の計畫に失敗したるが爲めに、あたら良將をして無殘な失敗を招いたものが多い樣であります。應募者の側から見れば、懸賞規程の要領は例へば我軍の得たる狀報とでもいひ得べきでせう。此の要領を通讀して兵を案するの時尙不明の箇所、不審の點があらば特に斥候を放つて敵狀偵察を充分にしなければなるまいかと思ひます。今回の多くの勇士が意外な邊に敵の襲撃を受けて無慘な最後を遂べたのは敵狀偵察に未だ足らぬ點があつたのと、作戰計畫に尙臨機應變の術を得なかつた爲ではありますまいか。

今應募者の大勢を一覽して見まするに。

イ、復興式に據りたるもの　五割（三名入選）

ロ、古典式に據りたるもの　一割
ハ、神寶殿式に據りたるもの　二割
ニ、純日本式に據りたるもの　一割
ホ、折衷式に據りたるもの　五分
ヘ、セセッシヨン式に據りたるもの一割五分（七名入選）

の樣になります。

復興式に據りたるもの〻うちにも細別すれば英國式、佛國式米國式、伊國式等一々擧げ得られん程に差別がありますけれども、多くは復興式臨劃に日本的手法を加へんとした作者が多い樣であります。そして當選者のうちにも此の部類から三名の顏觸があるのを見ても、溫穩な作者が無難の作品を擧げんとするの努力を窺はれるのでありますが、兎角は數に於て多い丈に其陷つた弊は華麗に流れた爲めと樣式に囚はれ過きた爲めとから採用を得なかつた樣であります。

古典式に據られた人々は純固な健實なそして崇高な作品を得られんとした溫健な作家に多い樣ですか、是亦樣式に囚はれ過きたりと見られて失敗した樣であります。

神寶殿式及日本式に依られた作家には誠に御氣の毒な有樣で全く其第一歩をあやまつたものと見る事が出來ます、中には此の繪畫館及殿址を明治神宮としての案であるかの樣鳥居迄立てられたのもあり、又樓門を立てゝ一見神宮であるかの樣に努力した作家もあるが皆失敗せられた、これは無理もない樣であります。

和洋折衷式によつた形式には兎角構造上の無理と外觀上の矛盾が付き纏つて居りますそれ丈に兎角こなれない爲めに審査官の一顧を値しなかつたのではありますまいか。

セセッシヨン風の行き方から出立した作家の作品は兎角自由不羈の精神が溌溂として居た爲めか、獨創に軍配を擧げた審査官の頭を刺撃して當選者が多く此の部の作品から選出せられたことは大に注目すべきであります。只構造法の見地から見た体度が記念建造物としての品位と繪畫館としての表現といふ樣な點に缺けて失敗を招いた作品もあります。

そして私の頭には簡素にして雄健な作品を得んとした審査官が、擧つて復興式、古典式、折衷式の作品を排して獨創的作品を物色して偶々セセッシヨン風の作品に多く眼を付けた樣な經過を畫かざるを得ない樣であります。

茲に到つて作家の出立すべき第一歩が如何に大切であるかを認めない譯には行きません、規程に對する質問の多くが製圖上の細部に亘つて試みられ却つて重要なる條項の解決を疎にした影響を認めない譯には行きません。

（四）

私は茲に筆を改めて當選圖案の特長を綜合して見ませう。それか少なくも君の將來の參考となり得べきならば決して無駄な事ではないと思ひます。

一、設計の第一歩は立面圖に在ること。

樣式の選擇が如何に重要なることは私の言ふ迄もないことでありますが、平面圖に於ける苦心はあまり大局の効果に影響のないことを指摘しない譯には行きません、平面圖上の工夫は意

み完備せしむることに役立つて居るには相違ないにしても、審査員の体度か先つ以て其立面圖に着目する以上はかゝつて立面圖の工夫に努力するの要があります。

二、詳細圖の完全を期すること。

詳細圖は立面圖を説明するに重要なことでありますが詳細圖は場合によつて立面圖の缺點を補ひ得る性質を持つて居ります殊に採色を許さぬ立面圖に在つては又今回の如く縮尺二百分一圖を要されたる場合に在つては詳細圖が物を言ひます。

三、透視圖を工夫すること。

立面圖の説明は詳細圖ばかりでなく透視圖が亦一方からよく説明の勞を執ります。透視圖は少に失するより大に畫くか効果が多い樣です、これは元より、設計圖の完成に多大の効果を齎らす以上は、自家の設計を充分に説明する上に於て必要なことであります。從つて色彩を濃厚にして審査官の眼をくらますといふ方針より、出來得る丈詳細圖と立面圖に現はし得ない作品の長所を透視圖によつて補ふといふ方針で行くことに注意すへきである樣です、殊に今回の一等賞が二枚透視圖を畫き、第三等三席か三枚の透視圖を擧げた如きは、參考とすべき一例でせう、要求せられたる圖面以上に努力をすることのそれは全く不必要でありませう。乍然少なくとも其餘計の努力が却つて作品の説明に利する所がありとすれば考へる必要が殊に多い樣であります。

四、建物の周圍に考慮を忘らざること。

建物の周圍は設計には從屬した部分であつて何等要求によつては必要な部分ではないのでありますが、設計を生かし作品の効果を擧ける上から見て決して不問に附することの出來ぬ事項であります。第一等案の建物地盤が敷地面より五尺上つてゐることや、第二等第一席案が約二段のテレースを前面に設けて建物は敷地面から約十五尺上つてゐることや、第三等三席も亦約五尺敷地面より上つて居りますし第四等二席案が念の入つた廻廊を繪畫館の前庭に設け。殿址の後方にも歩廊を設けてありましたことなどは設計上の効果に大なる利益を擧けてゐると思ひます。從つて池泉や段階や廻廊や勾欄や燈籠等の意匠に相當の注意を拂ひ、立面圖の周圍を完備し詳細圖殊に透視圖に多大の効果を擧けることは必要の努力である樣です。

五、製圖上の技巧に要領を得ること。

三四の各項は要求以外の考慮について書いて見ましたが製圖上の技巧は總てに亘つて其要を得ることであります。茲に技能の妙を發揮することが圖上戰術の重大なる技術であるかの樣であります、圖面の美嫩といふ事と同時に圖面の表はし方配置の方法其他についても出來得る丈要領を得る點に御注意しなければならぬ事かと思ひます御參考迄に賞選者の圖面の數を擧けて見まするど。

第一等		七	枚	（殿址は有室の記念塔）
第二等	第一席	五	枚	（殿址は簡單なる記念碑）
	第二席	九	枚	（殿址は簡單なる記念碑）
第三等	第一席	五	枚	（殿址は坦平なる記念址）
	第二席	六	枚	（殿址は有室の記念塔）

第三席　七　枚（殿址は簡單なる記念塔）
第四等　第一席　六　枚（殿址は簡單なれども後方に歩廊あり）
第二席　六　枚（殿址は簡單なる記念塔）
第三席　四　枚（殿址の上に繪畫館を建つ）
第四席　十一枚（殿址は簡單なる記念塔）

此等の統計を見ましても圖面の努力の量に依ることではないのは明でありませう。

第四等第四席案の如きは誠に絶大の努力を捧げて居られます詳細圖の如きはワットマン全紙を横に三枚繼として居られるのみならず、製圖といひ、技巧といひ意匠といひ敬服に値しますが御氣の毒にも末席に控へて居られます。

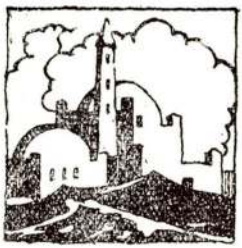
第二等一席や同じ人の作なる第三等一席や、第四等三席の如きは其勞力の分量からいへば他の作に比較して誠に手輕でありますが、設計の妙所は圖面の努力に依らぬことが窺はれますと思ひますれ。

御互に忙しい身体ですから此位にして於きます。亦暇を見て書くことにしませう。當選圖案に對する感想もありますが、それは寫眞か何かと一所にでもして御送りしないと何にもなりませんから、後日にいたします。左樣なら。（了）

◆ニツの矢◆

（つれづれ草）

或人弓射る事を習ふに諸矢を手挾みて的に向ふ、師の曰く、初心の人二つの矢を持つ事勿れ、後の矢を賴みて初の矢に等閑の心あり、毎度ただ得失なくこの一矢に定むべしと思へといふ。僅かに二つの矢師の前にて一つを疎にせんと思はんや、懈怠の心自ら知らずと雖師是を知る。此の誡め萬事に渡るべし



神戸市に於ける燒打事件に就いて

第四部委員　H　I　生

△序　言
△燒打前の宇治川通の一角
△十二日夜の暴動
△燒打後の宇治川通
△結　論

序　言

大正七年八月上旬、富山縣下に突發せる米一揆は、はしなく各都市に甚大なる刺撃を與へ、八月十日京都市先づ混亂に陷り、名古屋市又騒擾を勃發し、次いで十一日には大阪神戸岡山其他の諸市に波及し、十二日には遂に各市とも警察力を以て鎭壓する能はさるに到り、軍隊の出動警戒頗る嚴重を極め、僅かに騒擾を擴大せしめざるを得るに到りたりと雖も、米價暴騰に起因する此等の暴動は初日に各米店を襲撃し盡したる結果第二日に於ては其目的全く不明となり群集は繁街の各商店を襲ひ、流言非語紛々として、各市の恐惶譬るにものなく、連夜騒動を繼續したるは誠に聖代の不祥事たり。而して餘燼は十三日に至るも止まず、東京、靜岡、豊橋、岐阜、和歌山、高松、廣島、下關、松山、高知の各市亦騒動の巷と化し去りしかば、內務當局は各新聞紙の米に關する記事を掲載するを禁じ又外出禁止令を發布し、又各市共市內の電車の運轉を中止せしと雖、其波及の範圍は福島、仙臺の東北地方に及び、久留米、福岡、長崎の九州地方に影響し、世論は囂々として政府の無能

を罵り、各新聞紙は盛んに言論の自由を絶叫す
事　天聽に達し、畏くも御内帑金三百萬圓を
下賜せられ、窮民救濟の資に當てさせらる、政
府當局者の苦衷蓋し甚大なるものなかるべから
ず。

十六日遂に緊急勅令を以て穀類收用令を發布
し、漸く根本的政策に一歩を進めたりと雖も、
以て焦眉の急に應ずべくもあらず、是より先き
神戸及び大阪に在りては市府の當局者は外米の
輸入廉賣を計り又富豪の寄附金を募りて以て內
地米の廉賣の資金にせんとするの努力は騒亂の
連續と共に、漸く効果を齎し來り、各市の混亂
も漸く鎭靜するに至りて、漸く國民の安堵を得
たり。

想ふに今回の騒亂をして斯くの如く各重要都
市に影響して、忌むべき結果を齎したる原因は
種々あるべしと雖、各市暴民をして痛快を叫ば
しめ連日騒擾の波及に甚大なる刺撃を與へたる
は、實に神戸市に於ける鈴木商店の燒打事件な
りとす。而して其眞想を調査するに及んで、都
市建築の構造設備に於て特別なる觀察を下さゞ
るべからざるを感じ茲に其結果を報告して識者
の參考に資せんと欲するもの也。

△宇治川通の一角

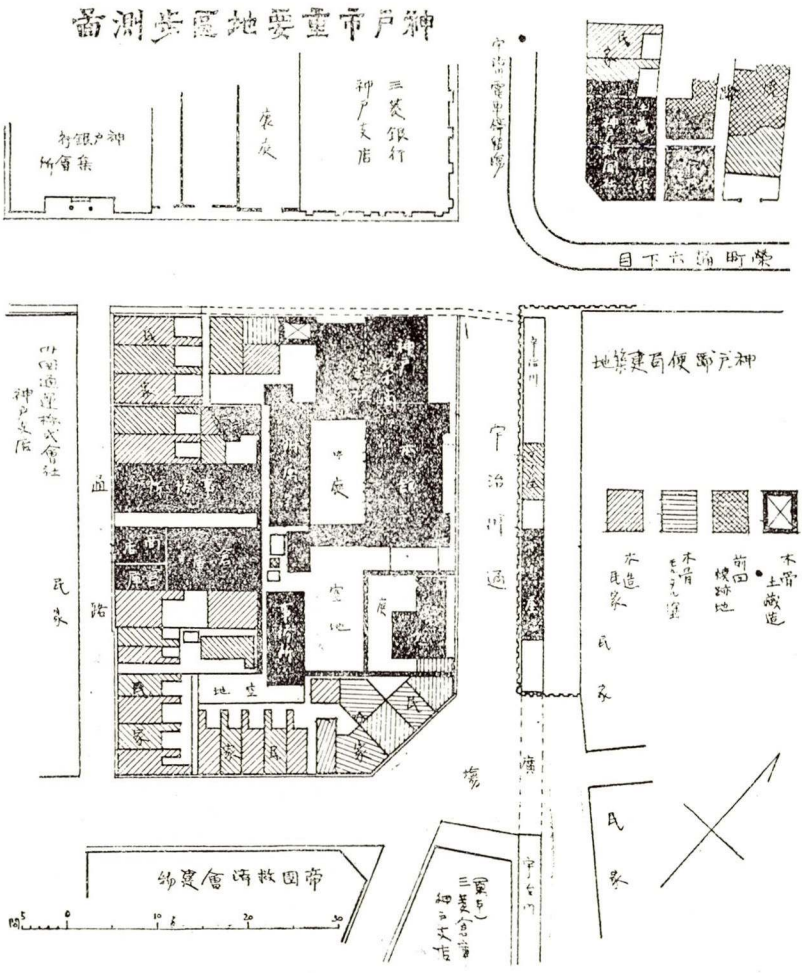
宇治川通は神戸市に於ける重要地點の一なり
東方は榮町及元町の繁街に通じ、西は神戸驛及
湊川兵庫方面に連絡する地區なるが爲めに、重
要なる建物集中せり。電車は榮町より北に折
れ、宇治川停留所を過ぎて西折し相生橋を越ゑ
て楠公社前に達す。宇治川停留所の西は、三菱
銀行神戸支店の石造三層樓嚴然として聳ゑ、東
南は昨年燒失せる神戸郵便局の敷地なり、南は
舊ミカドホテルの三階建にして實に今回の燒打
に相遇したる鈴木商店なりとす。東方の一角は
本誌前々處に詳述したる各新聞社所在地區にし
て其西南端に神戸新聞社の三層樓屹立しありた
り。

宇治川通は元來舊宇治川を挾みたる往還にし
て三菱銀行前の廣場は此の小川を暗渠としたる
が爲めに神戸有數の廣街となりたるものにして

現に鐵道線路以北及神戸郵便局の西側以南は尚開渠の儘放直しありされば神戸郵便局の改築に着手するや、外圍を宇治川西岸迄擴大して下小屋其他の假事務所を此小川の上に假設しつゝありたり。

宇治川通を南すれば道路は三叉して三菱倉庫神戸支店（鐵筋コンクリート造二階建）及帝國救濟會（木骨モルタル塗二層樓）建物を挾めり。

三菱銀行の西隣は神戸銀行集會所の建



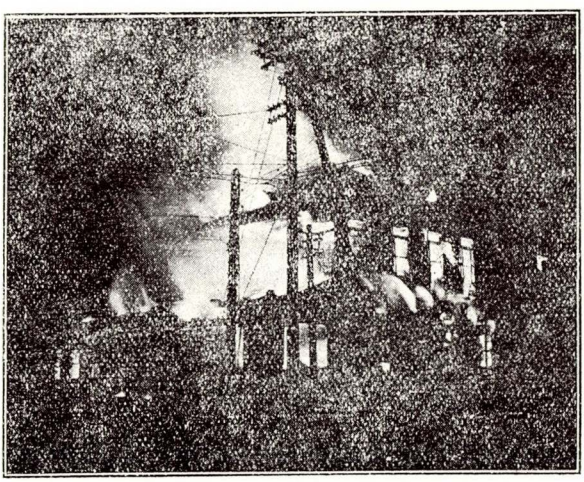
物（木骨二階建張瓦及モルタル塗）あり。銀行集會所の西隣には小路を隔てゝ市立圖書館及相生橋警察署あり。銀行集會所の南は道路を隔てゝ內國通運會社の煉瓦造建物及倉庫あり。

蓋し此等附近の狀況を觀れば神戸市に於ける重要なる商業地區の一たること瞭然たるものあるべく、近來急激なる發展を遂げ得たる鈴木商店が其本據を此地區に選び、舊ミカドホテルの三層樓を買收して以て將來を謀らんとせしは固より當然の措置なりとす。

乍然舊ミカドホテルの建物は、實に明治中期の建築にかゝり一階の主要部が煉瓦壁なりし外多くは木骨建物にして、必ずしも重要なる建築に在らず、其平面配置に於ても、繁忙多端なる同商店の現在事務を執行するに缺陷少なからずされば漸を追ふて隣地を買收し、更らに南部の空地に急造の木骨モルタル塗三階建を增築し西側の買收地にも事務室を擴張新築中なりき。

△十二日夜の暴動

富山縣下に突發したる米騷動は、忽ち京都、名古屋兩市に感染し、十一日夜半神戸市に於ては亦群集の集團湊川遊園地區に集合し、示威運動を起したれども、警察官の鎭撫其効を奏し、



燃燒中の鈴木商店

大事に到らずして止みたりしが。十二日夜に到りては各地騷擾の新聞記事に刺激せられて湊川遊園地に集合するもの前日に倍し、異口同音に

米價の奔騰は吾等を死地に陷るゝものなることを叫び、其指導者は先づ鈴木商店に向ふべしと遂に大集團を率ひて宇治川通に殺倒し、警官の靜止も耳に入れず、石瓦の破片を投ずるに至りしが、忽ち榮町四丁目に在りたる元鈴木商宅へ突貫し、店員の防禦も効なく家内に闖入して家材を道路へ運びて石油を注ぎ燒失せしめ喊聲と共に再び宇治川通へ引返し、遂に暴力を振ひて同商店を襲撃し、燈火を消し石油を廊下に撒布して放火するに到れり。

同商店に在りては群集の增加するに驚き、萬一を警戒しつゝありしが、防禦破れ放火せらるゝに到りて、萬事休し店員は夫々難を避けて走りしが爲め猛火忽ち館内を込め木骨の老建築物は見る〳〵紅蓮の焰を吐き、西は隣接の民家を襲い、南は新造の三階建を甜め、北は往還を隔てたる三菱銀行建物に火焰を吹き掛けたり。此時に當りて警官の防禦も其功なく、相生橋署より救援せる消防隊も群集の妨害を蒙りて、其ホースを切斷せらるゝに及びて手を委ねて傍觀するの外なきに到れり。

然るに火勢は愈々猛烈となり、火粉四方に散亂して附近民家の危險云ふばかりなく、神戸郵便局建築場假小屋の如き、鈴木商店南隣の某醫院の如き又西隣の某紙商の如きは忽ちにして災害を蒙りたり。此時に當り木骨三階建（張付瓦張）の神戸新聞社は大に危險を感じ社員及消防夫よりなる防火隊は屋上に注水して萬一を警戒せしが、撒水往來の群集の頭上に飛散せしかば群集の怒を買ひ、遂に作業中なりし印刷部及紙庫（土藏造）に放火せらるゝや忽ち本館に移り茲にも猛火狂ひ始め凄慘の巷と化し去りたり

神戸新聞社は本年六月中突發せる火災（前々號所載）に於て辛くも類燒を免れたるものにして、當時其モルタル塗の外裝が可なりの効果を示したるものなるが、今回内部に放火の暴襲を受けたるため、忽ちにして其土藏と共に烏有に歸し、餘勢は北隣の民家を半燒し、東隣の信托會社をも燒失せしめたり。

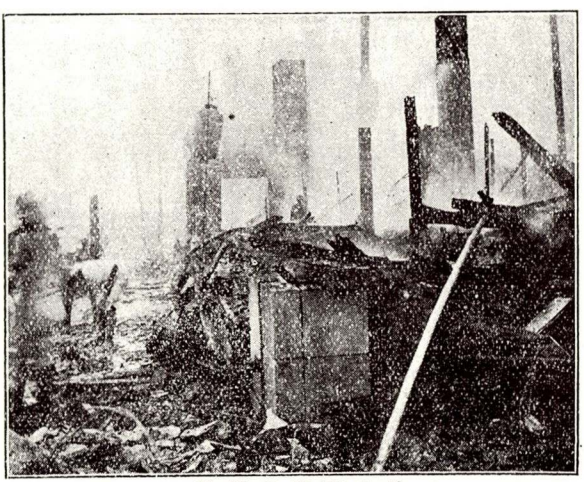
群集の主團体は茲に於て凱歌を擧げて三宮に

向ひ、神戸市に於ける貸屋事務を一手に引受け居たる兵神館を襲ひて家内を破壊し、更らに神戸鑄鋼所の所管に係かる米倉を燒拂ひ、次いで脇濱に在る鈴木商店經營の石油會社を襲撃し再度兵神館に殺到して之を燒き拂ひたり。他の一隊は兵庫方面に向ひ柳原橋なる某金貸業宅を襲撃して放火し、更らに轉じて鈴木商店支配人宅に向ひたりしが、此等の群集は遂に分裂して市内各所の米販賣店を悉く襲撃して在米を豪奪するに至り市内全く無警察の狀態に陷り、遂に軍隊の出動を拒絶し居たる清野知事をして、止むなく初念を飜して其應援を乞ふに至れり。

△燒打後の宇治川通

神戸市宇治川通の一地區は昨年來前後三回の災害を蒙りて荒凉に歸す、幸にして各回共微風の夜半に事起り周圍に及ぼせる損害の範圍甚だ小なりと雖も、此の重要なる地區は遂に一年の間に其參面を燒失し神戸市に於ける災害の中心地なるの感あるは果して如何なる天意に據りたるか。

十二日夜は實に幸にして微風なりき、しかも突發せる暴動の結果なれば消防隊は全く手を束ねて傍觀するの破目に陷り、全く猛火の狂奔に



鈴木商店の燒跡

悉し去られたるの觀あり、當夜若し强風の一度襲ふ處となりしならば、蓋し其怖るべき結果は戰慄を禁じ得ざりしなるべし、暴動の一團が無

風の夜に乗じて此の怪火を弄したる傾きありて近隣への損害を多少なりとも考慮に加へられたりとすればそは不幸中の幸にして、突發事變の際なれば如何なる災害を都市の眞只中に惹起すべきか到底判斷に苦しむべし。

此事件の翌朝に本委員は直ちに視察を遂げたるが鈴木商店並びに神戸新聞社の跡燒は、唯自然燒失に悉せられたるを認むるの外全く防火に勉めたる形跡なく、殘骸の餘燼尙盛んに烟を擧げ凄慘を極めたり。鈴木商店敷地に在つては一階廻り煉瓦壁及煖爐煙突烟の間に聳立しあり凄慘を極む。同店西側に在つては、煉瓦一枚厚の防火壁を周らしありたりと雖も、高さ丈に足らず到底其目的を達せず、西隣の某紙商の如き全燒の憂目に相遇し、又屋後の納屋を燒かれたるものあり、南側にありては、高一丈餘の防火壁に圍まれたる某病院の如きも忽ち類燒の厄に遇ひ僅かに南隅の應接室（木骨モルタル塗）を殘せるのみ。

北側は幸にして街路を隔てたることゝて花崗石造の三菱銀行は何等の痛痒を感せざりしと雖軒廻り破風の銅板は接合部悉く分離し破風の唐草紋樣は猛火に煽られ剝脫するに到れり、東側に在りては神戸郵便局建築場が其下小屋を燒かれたる外、大なる損害なかりしと雖暴民のために外圍の塀を破られ、工事用に收集せられありし材料に些少の損害を蒙りたる樣子なり。

神戸新聞社附近は先般の火災地を後にせるが爲めに類燒の範圍も兩隣の商家に卷添を喫せしめし外、大なる損害なかりと雖、同新聞社は全く根本的に其機關を破壞せられ、些事の行違よりして不慮の災害を招き多年の經營も一期にして烏有に歸すの憂目を見たり。

鈴木商店に在りては其損害の程度は最も重大なるべく當に重要書類の燒失に止まらず、營業機關の停止せしめられたるは一大痛棒に非すや同店が急擧市內を掃索して遂に假事務所すら得られず、其燒跡を整理して假營業所を急造する迄約一ケ月間、手を空ふして立往生せる如きは皮肉なる社會劇の一幕に非ずや。

蓋商店建築は近代の勃興せる商業界に於ける策源地にして又商界の城堡なり、其據つて以て應酬すべき商戰の策源地が、一夜にして燒失し去るの損害は到底火災保險賠償金の償ひ得べき程度のものに非ず、況んや此種暴民のための損害は火災保險會社も賠償の責に任せざるものなるに於てをや。近代都市建築が耐火耐震構造の建築なるべき數多の敎訓隨時吾人に警告を與へつゝあり。

△結　論

神戸市に於ける鈴木商店の關係經營せる工場會社其他の建築物は殆んど時を同じふして暴民の襲撃を蒙りたりと雖も、同商店が其最も重要なる本店を一夜にして焦土となしたるは最も同商店の苦痛とする處なるべし、重要書類の燒失其他損害の總額は計るべからざるものありと同時に翌日より事務を執るべき建物なくして數週間路頭に迷ひたる事實は最も痛切なる損害にして將來に對しては最も重大なる敎訓の一なるべし。

想ふに都市に於ける商業經營者が彼の如き可燃性建物を利せることは事情の止むべからざる所ありたりと雖も、經濟狀態の一變せる今日の商業界が尙舊時の脆弱建築に不便を忍び、苦痛を味ふ如きは矛盾の甚しきものあり、既に他の諸會社は漸を追ふて其城廓を改め設備を一新し新時代の經濟政策を確立しつゝあるの時に際し斯界の一方の覇者たる同商店が尙幼稚なる建物に依りたるは、今回の苦痛を味ひたる第一の原因ならずんばあらず。

往年ポーツマウス條約に不服なりし東京市民が、市內各所の交番を燒打せし際に於て暴民の一隊は桂內閣を瓦落せし國民新聞社を襲撃せしが、耐火構造の床がよく其効果を發揮して放火の慘を見ざりしのみならず、翌日平然として發刊を經續したる如きは、其建築物の偉大なる恩惠なりとす。

今次の暴民が鐵扉シャッター等を有する建築物を襲撃するの擧に出でずして、破壞の快を味ひ得べき元町通を一襲したるが如き、又は神戸

新聞社が簡單なる口頭の爭よりして、全く意外なる燒失の苦痛を味いたる如きは、此間の消息を窺ひ見るべき也由來今次の騷亂に對し、社會の木擇を以て任じ時勢の先達を以て誇る各新聞社が、何等暴民の暴動に對して警告を與ふるなく、却つて間接なる煽動を敢てするの行動を執りたるは、意氣地なき吾國新聞社の態度を暴露したるものなりと雖、又以て其建築物が暴民の襲撃に何等抵抗力なき城廓なるが爲ならずして何ぞや。

往年露國の改革の如き、或は慘血淋漓たる佛國改革の歷史の如き、屢々都市に醒風の吹き荒びたる事實頗る多しと雖、歐米諸都市が屢々市内の混亂に際し其不燃物構造の家屋が如何に間接に秩序の回復に有利なる効果を齎しつゝあるかを知るとき、吾國都市の現狀は蓋し痛歎に値するものあり。

幸にして神戸騷亂の當夜は微風にして消防隊の努力なくして尙自ら鎭火の喜を見たるは蓋し異例にして、損害の範圍頗る微少なりしと雖も不幸にして、烈風の夜暴民の一炬市の一角に起らんか、元町榮町の繁街が如何に甚大なる苦痛を味ひたるか思ひ半に過ぐるものあり。識者の充分なる考慮を乞はざるべからざる所以なりとす。

▽社會的缺陷△

時世が行詰つて來て社會的缺陷が深くなつてくると必ず異變が起る起つてから狼狽するのは智者の取らざる所であるが、一度起つた異變が無事に收つたからと安心するのは更らに智者の取らざる處であると思ふ



時報

◆議院建築意匠設計懸賞募集規程

附圖

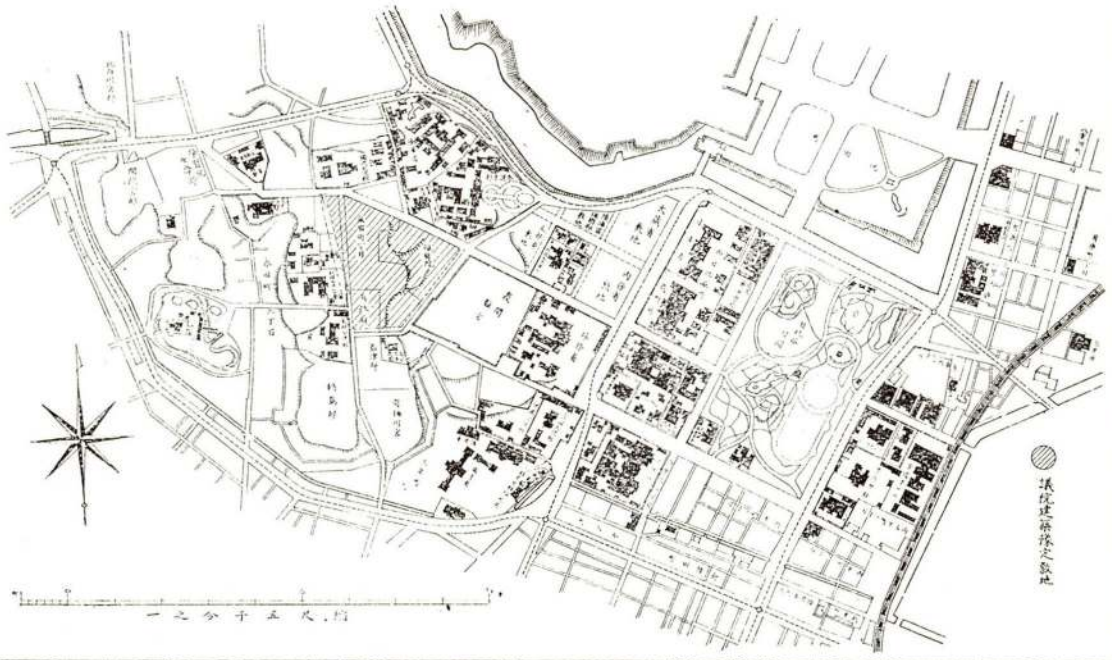
議院建築意匠設計懸賞募集規程は本誌前號附錄に全部掲載し置きたりしが、其主要なる附屬圖面左の如し。

一、第一號　敷地測量圖　一葉（略之）
一、第二號　敷地附近市街圖　一葉（第一圖）
一、第三號　敷地高低測量圖　二葉（略之）
一、第四號　敷地地質調査及耐壓試驗成績圖　一葉（略之）
一、第五號　間取略圖　三葉（第二、三、四圖）

尚臨時議院建築局より左の質疑應答を送附せられたれば、左に全部掲載し置きたり。

第二號

議院建築豫定敷地附近市街圖

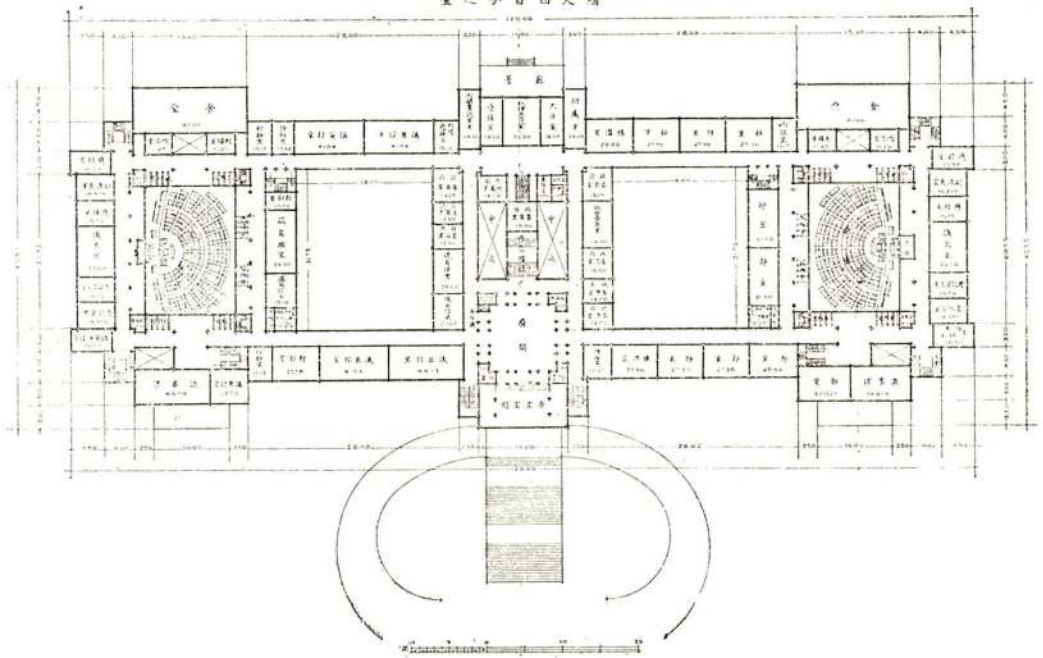


第一圖

議院本館間取略圖

二階（主階）平面

縮尺四百分之壹

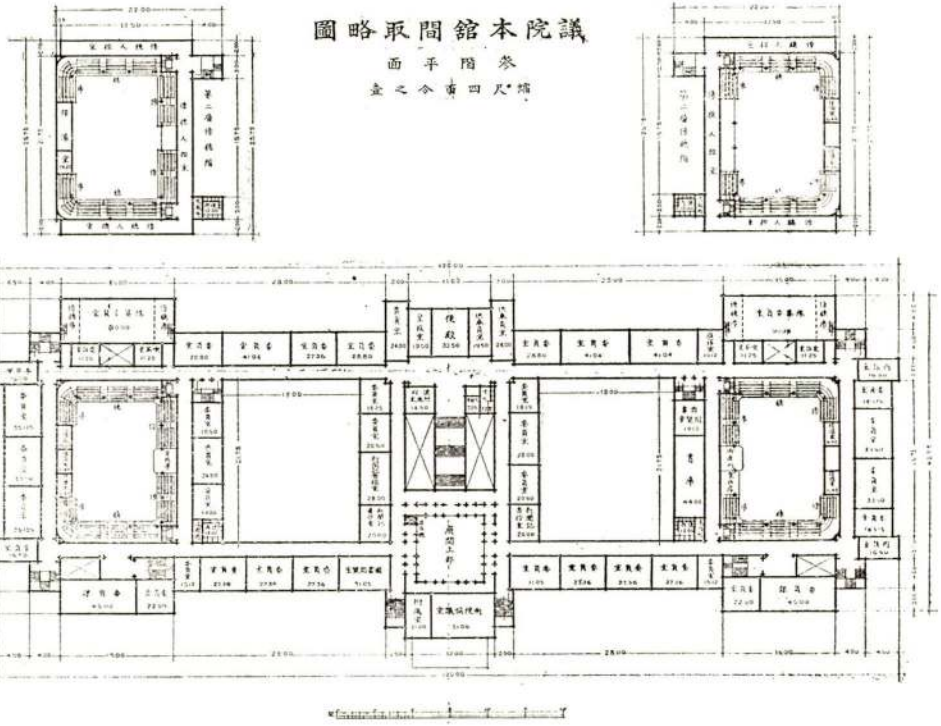


第一圖

議院本館間取略圖

參照平面

縮尺四百分之一



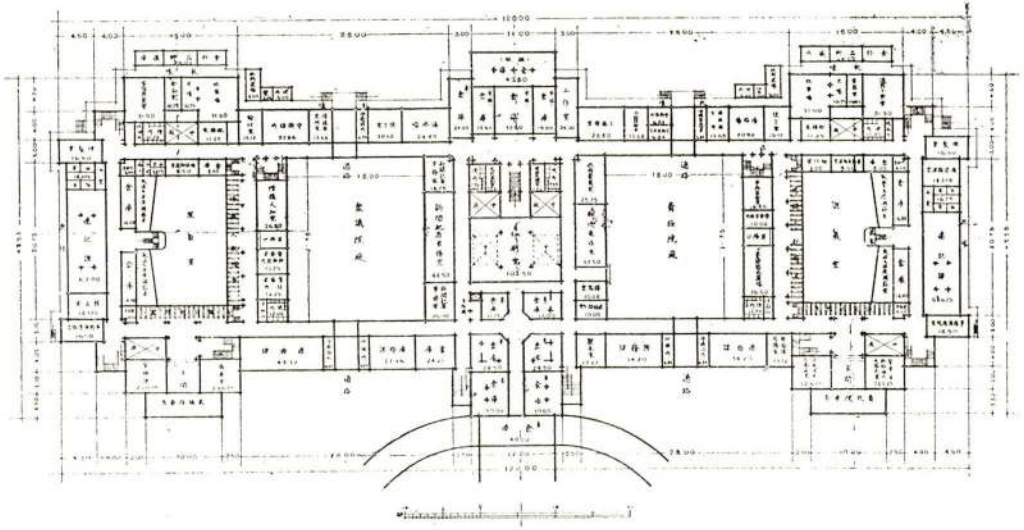
第川圖

第四圖

議院本館間取略圖

一階平面

縮尺四百分之壹



◈議院建築意匠設計懸賞募集ニ關スル質疑應答

臨時議院建築局

(一)質疑

一、議院建築意匠設計應募規程ニハ本館ハ三層建トス、ト、アレドモ、立面圖意匠上本館ノ一小部分ヲ、四層建ニナシ、第四層ニ豫備室(規程所要室以外)ヲ設ケテ差支ナキヤ

回答

一、總工費ノ範圍内ニ於テ、「ドーム」若クハ、塔ノ如キ部分ヲ、四層以上トナシ、之ニ所要以外ノ豫備室ヲ設クルハ差支ナシ。

(二)質疑

一、立面圖調製ニ關シ、地面ノ高低、及ビ、之ニ依リテ生ズベキ物像(樹木、草花壇ノ如キモノ)ヲ加フルモ差支ナキヤ。

二、立面圖ノバック着色、又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ、裝飾スルモ差支ナキヤ。

三、立面圖調製ニ關シ、背景的物像(例ヘバ道路ノ一部ヲ透視畫トシテ、裝飾スルモ差支ナキヤ。

回答

一、建物立面ノ明瞭ヲ、害セザル程度ニ於テ、附加スルハ差支ナシ。

二、立面圖ノ「バック」ハ、募集規程第八條第三項ニ依リ、總テ潤色スルコトヲ得ズ。

三、第一ニ同ジ。

(三)質疑

一、帝室玄關、並ニ、両院玄關ノ車寄ハ、被覆ヲ必要トナスヤ、又ハ露臺樣ノモノニテ宜シキヤ。

又被覆ヲ必要トナス場合ニハ、必ズ家根樣ノモノナ、構造ス可キヤ、又ハ庇ニテモ宜シキヤ。

二、混氣室ト稱スル室ハ、如何ナル用ニ使用ス

ル室ナリヤ、又略圖ニ示ス如ク、室内ニ一本ノ柱モ、設ク可カラザルモノニヤ、又柱ヲ設クヲ得ルトセバ、柱間ノ最少距離ハ何間位マデ、許サルヽモノナルヤ。

回　答

一、帝室玄關、並ニ両院玄關車寄ニハ、被覆ヲ必要トスベシ、其構造、及ビ形式ノ選擇ハ應募者ノ隨意トス。

二、送氣管ヨリ、直接ニ熱空氣ヲ議場ニ送ルトキハ、其温度、及ビ氣流ニ、不同ヲ生ズルノ恐レアルヲ以テ、議場下ニ混氣室ヲ設ケ、熱空氣ヲ一應本室ニ送リ、能ク混和シ其温度ト氣壓トヲ均一ナラシメ、更ニ各要所ヨリ、議場内ニ送風スル目的ニ充ツルモノトス。

三、本室内ニハ、議場ノ床ヲ支持スルニ必要ナル柱ハ、勿論之ヲ設クルヲ得ベク、其距離ニ何等制限アルコトナシ。

（四）質　疑

一、両院共、婦人傍聽人ノ便所ハ、室ヲ別ニシテ設クル必要ナキモノナリヤ。

二、政府委員ノ出入口ハ、別ニ之ヲ設クル必要無キカ。

三、豫算委員室ノ傍聽ハ、一般公衆ニ許サルヽモノナリヤ。

回　答

一、室ヲ別ニシテ設クルモ、室内ヲ適當ニ區劃シテ設クルモ、隨意タルベシ。

二、別ニ設クルノ必要ナシ。

三、一般公衆ノ傍聽ヲ許サズ。

◆聖德記念繪畫館設計圖案當選者

東京青山原頭の偉觀たるべき、聖德記念繪畫館及び葬場殿趾記念建造物の設計競技圖案は、九月二十日來内務省にて古市、北里、伊東、佐野各博士萩野、正木各審査員、審査の結果同月二十七日左の如く決定發表したり。

一等當選　（賞金五千圓）

東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿二八六
議院建築局技手　小林正紹

二等當選　（賞金三千圓宛）

一席　東京市本郷區駒込林町三四
遞信省技師　渡邊仁

二席　兵庫縣武庫郡精道村蘆屋
住友本店技師　長谷部鋭吉

三等當選　（賞金二千圓宛）

一席　東京市本郷區駒込林町三四
遞信省技師　渡邊仁

二席　東京市麹町區上二番町四〇
陸軍省技師　久留弘文

三席　大阪市東區北濱五丁目
住友總本店
營繕課技師　竹腰健造

四等當選　（賞金一千圓宛）

一席　東京市牛込區市ヶ谷町九三
議院建築局技師　下元連

二席　東京市麹町區八重州町一ノ一
曾禰中條建築
事務所技師　松淵清助

三席　東京市本郷區東片町一四六井上方
陸軍省技師　北澤五郎

四席　東京市麻布區龍土町六七
內匠寮技手　吉武東里



會報

會誌

一、本會雜誌第一輯第十一號は九月下旬刊行し直ちに各會員、各賛助員宛發送したり。

一、尚各府縣知名有力者、各種學會、協會、及各新聞社、並びに建築關係ある各學校に寄贈配布し置きたり。

交換雜誌

建築雜誌　九月號　（建築學會）
建築世界　九月號　（建築世界社）
住　宅　（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　（鐵道協會）
工業之友　（工手學校）
內外土木建築時報　內外土木建築時報社

寄贈圖書雜誌及新聞紙

日本美術協會報告第三輯
通俗衛生
木材新聞
ペイント商報
工業之日本
造船鐵工時報
工業評論
商工帝國
オートモビル（第二號）
早瀨塗料商報

會員移動

一、會員秋吉金德君は去る八月中東京へ移轉せられたり。

一、會員日高胖君は社用により渡米せらるゝことゝなり本月上旬出發せられたり。

一、會員光安梶之助君も亦日高君と同伴渡米せられたり。

普通賛助員死亡

一、普通賛助員姫野磨君は去月下旬死去せられたる由、愛悼の至りに堪へず、本會より吊詞を發送したり。

新委員指名追加

一、左の諸氏は今回理事會の指名により第六部委員會に加入したり。

大倉直三　小川安一郎
吉井長七　中村庸二
熊澤榮太郎　淺井新一
岸　平　宮飼克二
須川廉太郎

一、左の諸氏は今回理事會の指名により第四部委員會へ加入したり。

池村元助　小寺彌一
大野直平　谷本多喜治
永田善二郎　中村新治
宇佐美健八　浦英之助
島本四郎　森山伊望

新入會員

一、左の諸氏は第十五回例會の決議により、會員として入會の承諾を得たり。

山崎英二　土居原龜之助
本多二郎　清水榮二
菱田厚介　松尾忠次郎

一、左の諸氏は第十五回例會の決議により、會員として入會の承諾を得たり。

山田醇　山本文輔
田中剛　田中豐太郎
中村鎭　山口茂樹
福岡五一　高橋榮治
村野藤吉

一、左の諸氏は今回普通賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

秋吉鐵五郎　前田龍三
久保田繁亮　桑村種喜

一、左記氏名は先般本會特別賛助員たらんことを申込まれたるにより理事會の決議により入會を承諾せり。

松田義三郎

會合

理事會、一附五日會

日時　大正七年九月五日
會場　北濱菜亭
出席　片岡、野村、瀨戸、日高、波江、池田。

記事

一、今夕午後五時より「五日會」の招待に應じ大阪ホテルに參會、晩餐を共にし、建築界に現狀並びに將來に關し意見を交換せり。

一、午後九時辭して理事會を開く。

イ、第一部委員會を召集して都市計畫に關する意見を交換すること。

ロ、役員會に新入會員を加へて意志の疏通を謀り、意見の交換をなすこと。

特別理事會—第一部委員會

日時　大正七年九月九日
會場　南地戎橋　明陽軒
出席　片岡、野村、池田、瀨戸、日高、波江、渡邊、木子、葛野、橋本

記事

一、第一部委員會甲組にて審議中なりし「現行大阪建築取締規則改正案」、本月例會に提出して第一讀會に附すること。

一、都市計畫法規の重要事項に關し、各自隔意なき意見を發表し、議論を上下し、且つ俱体的案につき審議綜合する所ありたり。

第十五回例會

日時　大正七年九月十七日午後六時—十時
會場　中央電機倶樂部
出席　計三十三名

池田(寅)、今林、伊藤、新海、大林、小笠原、小寺、小川、渡邊、片岡、葛野、吉木、吉井、谷本、谷、波江、永瀨、內藤、野村、野呂、山口、前田、淺井、荒川、佐藤四、佐藤彰、木子、木村、三木、宮飼、瀨戸、須川

小谷（書記）

記事

一、片岡氏座長席につき開會、本夕の研究事項左の如し。

イ、「現行大阪建築取締規則改正案」

第一讀會——第一部委員會提出。

ロ、會則一部變更案—理事會提出。

ハ、新入會員銓衡會—理事會提出。

一、午後七時野村氏座長となり第一部委員會より提出せる第一讀會を開く座長より逐條說明する處あり、然るに質問續出頗る皮肉且屢々脫線して要領を得ざるものありしが、九時半遂に第一讀會を完了す。

一、會則一部變更案は出席數に尙缺くる處あるを以て、更らに次回を期することゝせり。

一、新入會員十五名の銓衡をなせしも定數に足らず、依つて通信決議に附することに決し、之を理事會に一任せり。

追記

一、通信決議は欠席會員全部より贊成の回答を得たり。

特別理事會—附第六部委員會

日時　大正七年九月廿八日

會場　大阪倶樂部

出席　片岡、宗、池田、波江、吉井、小川、淺井、宮飼、

記事

一、本夕は本會事務所にて開會の筈なりしも都合ありて大阪倶樂部に變更したり。

一、本會秋季大會開催に關し、意見を交換し其主要なる事項に決定すること左の如し。

イ、期日は十二月上旬とすること。

ロ、會場は大阪市公開堂とすること

ハ、午後一時—五時を以て講演會とし、午後六時—十時を以て晩餐會とす。

ニ、講演會は之を公開し、傍聽券を配布すること。

ホ、講演者は五名とし、會員二名、建築學會より一名の參會を乞ひ、尙二名の來賓講演の依賴を請ふこと。

日高、光安兩氏送別會

日時　大正七年十月三日午後六時より

會場　南地　明陽軒

出席　日高、光安、片岡、野村、宗、河合幾、井上、本田、小笠原、小川、吉木、加護谷、須川、木村得、置盛、谷、谷口、波江、內藤、宇佐美、佐藤彰、森、瀨戸、池田、佐藤四、葛野、村井季。

記事

一、片岡氏一同を代表して一場の挨拶を述べ日高氏の答辭あり。

一、本會有志の送別として精肉屋を選びしは珍妙なりしも、往時の思ひ出と共に一卓を圍んで閑談數刻、靜肅なる一夕を送りたりき。

追記、十月十七日着にて日高、光安兩君より本會宛無線電信到着せり。

一センマイルノカイシヨウヨリ

シヤイチニヨウス

特別理事會

日時　大正七年十月十四日午後六時より。

會場　大阪倶樂部。

出席、松本、瀬戸、波江、宗。

記事

一、秋季大會に關し第六部委員會の決議事項を審議し意見を交換せり。

一、第十六回例會議題につき打合をなせり。

一、尚當夜新入會員諸氏の參會を乞ひ談話を交換せり。出席氏名左の如し

山本、田中豐、山崎、清水、本多、菱田、村野、中村、鎭

第十六回例會

日時　大正七年十月十八日午後六時―十時。

會場　中央電氣倶樂部。

出席　片岡、松本、瀨戸、波江、牛村、葛野、內藤、置塩、本田、本多、須川、淺井、伊藤正、園部、村野、菱田、谷、佐藤四、今林、中村鎭、宇佐美、池村、大橋、荒川、山崎、熊澤、內藤益、小谷、岡部（書記）

記事

一、片岡氏座長となり（正六時）今後定刻通り開會することゝする件並びに會合方法につき意見を交換する處ありたり。

一、波江氏登壇過日上京し、明治神宮外苑記念建造物應募圖案見聞につき感想を述べたり。

一、細則一部變更の件及會員詮衡の件は前例に倣ひ、通信決議に附することゝせり。

一、次に左の議題に關し意見を交渉せり。

「入札見積書に內譯明細書を附せざるの可否」

一、右は此度建築業協會より建築士會宛の通告並ひに其消息に連關し建築界には重要なる研究事項なるを以て本會に於ても審議するの要ありとし特に座長より說明する處あり。

一、葛野、松本、中村、瀨戸置塩、內藤、宇佐美諸氏の意見發表並ひに質問應答ありたるが、論議沸騰して可否を決する能はず、尚研究の餘地ありとし後日を期することゝせり。



◆編輯だより◆

秋高く馬肥ゆるの候、本誌愈々健在着實なる向上を持續致居候事、遍に諸彦の御後援に據る事と深く奉感謝候

本號所載「運河に就いて」は今回特に石川文吾氏の御寄稿を得たるものに有之、深く同氏の御厚情を奉鳴謝候。都市計畫の輿論高調の際に於て必讀すべき卓論と奉存候

本誌第二輯表紙圖案を懸賞に附し申候に就いては此際奮而應募あらんことを希望仕候

本誌へ御投稿御希望の諸彦は、御申越次第本誌原稿用紙發送仕るべく候間、御承知置被成下度候

本誌購讀御希望の諸彦は、本會事務所宛、御申越相成度、又購讀料金御發送の節は振替口座（大阪三九九七五番）宛御拂込相成度此段申添候。

役員及職員

理事長　片岡安寛（主計）

理事　池田野村一郎（編輯）　瀬戸文吾（編輯）　日高胖（編輯）　波江悌夫（主記）　松本禹象　伊藤正文　佐藤四郎　本田登

編輯補　岡部顯則

書記　小谷信藏

會員	一二二	會員（地方）	二八
名譽賛助員	一七	終身賛助員	三〇
特別賛助員	五	普通賛助員	二一四

大正七年十月二十日印刷
大正七年十月廿五日發行　（毎月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）
發行兼編輯人
兼印刷人　伊藤幸太郎

大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷所　大阪活版所

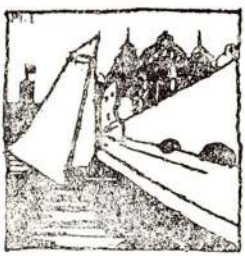
大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　關西建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

巴里市衛生警察令



巴里市衛生警察令

巴里市衛生規則ヲ定ムル千九百〇四年六月廿二日附警視廳令

予警視總監ハ千七百九十年八月十六日並ニ廿四日附ノ法律共和曆第八年拾月（メシドール）十二日附總督ノ達並ニ千九百〇三年四月七日附ノ法律ヲ以テ改正セラレタル千九百〇二年二月十五日附ノ法律ヲ考量シ又千九百〇二年二月十五日附法律第一條ニ規定シタル衛生規則ニ關スル巴里市會ノ討議及ビ「セーヌ」縣公共衛生會ガ發表シタル意見並ニ千九百四年一月廿七日並ニ同年三月二日附內閣總理大臣及ビ內務大臣ノ訓令ニ基キ左ノ條文ヲ布告スルモノナリ

第壹節　交通ノ安全便利ニ關スル公道ノ清潔法

第一條　特ニ許可ヲ得タル場合ヲ除キ公道（町、廣場、埠頭、繫船場、堤等）ノ如何ナル場所ニ於テモ其性質ノ如何ヲ問ハズ又其時刻ニ係ハラズ汚物ノ堆積ヲナスベカラズ又前記ノ場所ニ家屋ノ掃除ヨリ來ル汚物又ハ廢物ヲ棄ツベカラズ、又前記ノ場所ニ於テ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前九時以後ニ於テ敷物、窓掛其他ノ巾ヲ持出シ其塵埃ヲ打拂ヒ掃除スル事ヲ禁ズ

第二條　家庭用若クハ其他ノ廢水ヲ下水渠ヲ備ヘタル公道上ニ棄ツル事ヲ禁ズ但家屋ノ前面、門、玄關、店ノ前面ノ洗滌ニ使用シタル水ハ此限リニアラズ

廢水ヲ此等ノ洗滌ニ用ユベカラズ

公道若クハ其隣接地ニ於テ實行スル工事ノ請負人ハ其作業場ニ接近セル公道及ビ工事ノ爲メニ汚レタル公道ノ總テノ場所ヲ清潔ニ掃除スベキモノトス又公道ノ溝ノ流通ヲ阻害スベカラザルモノトス

第三條　地形工事ヨリ生ズル土及ビ廢物ハ其必要アル時ハ之レヲ消毒スベキモノトス而シテ如何ナル場合ト雖直チニ之レヲ芥捨場ニ運搬シ去ルベキモノトス

第四條　家屋ノ取壞ヲ爲ス時ハ豫メ穴藏地下室上下ノ各階段ヲ掃除スベキモノトス而テ種々雜多ノ芥、汚物、紙屑、古巾等ハ其場ニ於テ燒棄ツベキモノトス

總テノ固定又ハ動カス事ヲ得ル溜、井戶、流シ、腐敗スベキ物体ノ堆積セル

爲メニ有害トナリタル穴藏、私設下水渠若クハ地下溝等ノ汲取浚渫埋立若クハ乾涸ナラスベキモノトス又大壁及ビ間壁ヲ消毒スベキモノトス其方法ハ假令ハ綠礬ノ溶解液ヲ撒布シ新タニ造リタル石灰水ヲ塗ルモノトス溜ノ汲取、井戸及ビ流シノ乾涸ハ現行法規ニ從ヒ殊ニ千八百三十八年七月廿日附警察令ニ從ヒ之レヲ行フベキモノトス

下層ノ床以下ニ於テ家ノ基礎ヲ取壞ハシ殊ニ穴藏ノ周圍、古ルキ溜若クハ古ルキ下水其他總テ地下ニアル穴ノ取壞ヲナス時ハ其材料土中ヨリ出ズル廢物取出シタル有毒ナル土等ニシテ健康ヲ害シ公共ノ衞生ニ害ヲ及ボシ風土病流行病、傳染病等ヲ釀ス恐レアリト認ラルヽモノハ其消毒劑假令ハ壹「メートル」立方ニ付生石灰壹「キログラム」ト綠礬五百「グラム」ノ割合ニテ調合シタルモノヲ撒布シ消毒スル事ヲ要ス

取壞ヨリ生ズル廢物及ビ土ハ芥捨場以外ニ之レヲ運搬スベカラズ

特別ノ場合（便所ノ溜及ビ古ルキ下水ヨリ漏レ出デタル汚水ノ爲メニ有害トナリタル土）ニハ地上ニ少シモ遺棄スル事ノ恐レナキ蓋ヲ有スル車ニ入レ其筋ノ認可シタル肥料置場ニ之ヲ運搬スベキモノトス

近隣ニ埃ノ達スル恐レナキ樣必要ナル總テノ方法ヲ採ルベキモノトス

積込、運搬、積卸ハ其性質ノ如何ニ係ハラズ總テ公道ヲ汚ス事ナク又通行人ノ妨害トナラザル條件ノ下ニ之レヲナスベキモノトス

第六條 上記ノ條文ニ示シタル規定ハ千八百五十三年九月一日、千八百六十二年七月廿五日、千九百年七月十日（第三百六十九條）ノ警察令ニ示シタル規定ニ追加スルモノトス

第貳節
家具附貸間ノ清潔法
第壹章
在來ノ家具附貸間

第七條 壹室ニ入ルヽ事ヲ得ル借受人ノ數ハ其室内ニ含マルル空氣ノ量ニ比例スルモノトス

其分量ハ壹人ニ付キ十四「メートル」立方ヲ決シテ下ル事ヲ得ズ、又天井迄ノ室ノ高サハ貳「メートル」半ヲ下ル事ヲ得ザルモノトス

一室ニ入ルル事ヲ得ベキ人數ノ最大限ハ之ヲ其室内ニ明示シ置クベキモノトス

第八條 下層以上ニアル各階段ノ床ハ阻水的ノ材料ヲ以テ造ルカ又ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之レヲ造ルニ阻水的ノ設備ヲ加ヘ阻水的ノモノトナシ屢々洗滌スル事ヲ得ベキ構造トナスベキモノトス

下層ニアル室、穴藏又ハ平地ノ上ニアル室ノ床ハ必ズ阻水的ノ構造トナスベキモノトス

壁、間仕切、天井ハ漆喰ニテ塗リ清潔ニ之レヲ保存スベキモノトス猶又其上ニ「ペンキ」ヲ塗リ又ハ石灰水ノ上塗ヲ施コスヲ可トス「ペンキ」塗ハ毎年灰汁洗ヲ爲シ又其必要ニ應ジ塗替ヲ爲スモノトス

壹室又ハ二室ノ寢室ヲ有スル室ヲ除キテハ紙張ヲ爲ス事ヲ得ズ而シテ張リタル紙ハ必要ト認ムル都度之レヲ張替フ

ベキモノトス

第九條 室内ニ適當ナル通風ヲ爲サシムル事ヲ要ス

合宿室即チ四人以上ノ居住者ヲ有スル室ニアリテハ一ケ所ノ煙突ヲ備フルカ若クハ他ノ永久的ナル通風法ヲ採用スベキモノトス

前記ノ合宿所ニ入ルヽ事ヲ得ル人數ノ最大限ハ各室ノ人口又ハ其附近ニ「ベンキ」ヲ以テ明瞭ニ掲示スベシ

第十條 下層ニアル室ニシテ濕氣ノ形跡ヲ認メラルヽモノニアリテハ其室ノ壁ハ其下部ニ於テ少ナクトモ一「メートル」、五十「センチメートル」ノ高サ迄翹ヨリ離シタル腰羽目ヲ設クルカ若クハ阻水的漆喰塗ヲ爲スベキモノトス

第十一條 直接ニ光線ヲ受ケザル室又ハ直接ニ光線ヲ受クル廣間又ハ中廊下ニ面シ空氣ト光線ヲ受ケザル室ヲ家具附ノ貸間ト爲ス事ヲ得ズ

直接ニ光線ヲ受クル廣間又ハ中廊下ニ面シ空氣ト光線ヲ受クル室ニアリテハ煙突ヲ設クルカ若クハ他ノ永久的通風法ヲ採用スベキモノトス

二人以上ヲ入ルヽ普通室及ビ合宿室ハ直接ニ光線ヲ受クル事ヲ要ス

第十二條 地下室又ハ穴藏ヲ貸間トシテ貸付クル事ヲ禁ズ

第十三條 金屬製ノ煙出管ヲシテ寢室内ヲ過通セシムル事ヲ得ズ

第十四條 便所ハ少クトモ廿人ニ付キ一ケ所ノ割合ニテ之ヲ設クルモノトス

第十五條 便器ハ亞鉛華ニテ之レヲ塗リ常ニ清潔ニナシ充分空氣ヲ流通セシメ又直接ニ光線ヲ引ク事ヲ要ス

水溜又ハ水管ヲ備ヘ洗滌ノ用ニ供スベキモノトス、水溜又ハ水管ナキ時ハ毎日消毒液ヲ用ヒ消毒スベキモノトス其消毒液ハ假令パ綠礬五十「グラム」ト水一「リットル」ノ割合ニテ造リ又常ニ此消毒液數「リットル」ヲ便所内ニ備ヘ置クモノトス便器ハ排泄物ノ重量ニヨリテ運用スルモノニアラザル自動閉塞機ヲ備フベキモノトス

所轄官廳ガ必要ト認ムル時ハ閉塞作用ヲ有スル水塞ヲ排出孔口ノ下ニ設クルモノトス

便器ノ内部ハ阻水的ノ材料ヲ以テ之レヲ造リ下降管ノ方向ニ向ヒ自動閉塞機ノ上ニ液体ノ流ガスニ便ナル傾斜ヲ有スル鉢形ニ之レヲ造ルベキモノトス

前記ノ參項ニ示シタル規定ハ糞尿ヲ直接下水渠ニ排出スル家屋ニハ之レヲ適用セサルモノトス

小便所ノ設ケアル時ハ其便器ハ阻水的ノ腐蝕セザル材料ニテ之レヲ造リ洗滌用追水ヲ充分ニ流カス事ヲ得ベキモノトス、然ラザレバ之レト同等ノ或ル他ノ方法ニ依リ消毒シ排泄管ト連結スル前ニ永久的閉塞機ヲ備フベキモノトス

第十六條 中廊下、階段、階段ト階段トノ間ニアル場所、便所ハ蠟磨又ハ「ベンキ」塗ニアラザレバ室ノ爲メニ定メタル規定ト同一ト規定ニ依リ屢々洗滌スベキモノトス

ベンキハ鮮明ナル色ヲ撰ムモノトス

家庭用水ノ流場ハ閉塞機ヲ備ヘ前條ニ於テ示シタル通リノ之レヲ洗滌シ且消毒スベキモノトス雨水及ビ家庭用汚水ヲ排泄スル樋、溝、管等モ亦同一ノ注意ヲ以テ手入スベキモノトス

第十七條 中庭、馬屋、馬車置場、流シ

水槽場、洗面場又ハ化粧室、風呂槽等ニ於ケル廢水ノ排泄孔口ハ各々下降管又ハ排泄管ト連結スル先キニ閉塞機ヲ備フベキモノトス

第十八條 家具附貸家ハ各々其衛生ト清潔ヲ確保シ借家人ノ必要ニ應ズルニ足ルベキ充分ナル飲料水ヲ供給スベキモノトス

第十九條 貸家内ニ傳染病又ハ流行病患者アル時ハ其都度所轄官廳ノ公醫ハ疾病ノ性質ヲ調査シ其傳染ヲ豫防スル爲メニ適當ナル手段ヲ採ラシムル爲メ出張スベシ

家主ハ公醫臨檢ノ結果其節ヨリ達セラルヽ命令ニ服從スベキモノトス

患者ノ隔離、被服等ノ消毒及ビ室内ノ消毒ニ關スル命令ハ特ニ之レヲ遵奉スベキモノトス

第貳章
在來ノ家屋内ニ設クル家具附貸間

第二十條 家具附貸間ハ借受人ノ數ヲ標準トシ計算シタル空氣ノ立方量ヲ有スルモノトス

一人ニ付キ最少限ノ空氣ノ量ハ若シ貸間ガ下層又ハ二階ニ在ルカ又ハ直接ニ光線ト空氣ヲ受クル中廊下ニ向ヒテ窓ヲ有スル外他ニ窓ヲ有セザル時ハ十八「メートル」立方トス若シ貸間ガ二階以上ニ在リテ直接ニ空氣ト光線ヲ受クルモノハ十六「メートル」立方トス

二人ニテ住居スル室ハ廿八「メートル」立方ノ空氣ヲ要スト雖シテ三人ニテ住居スル室ハ四十「メートル」立方ヲ降ル事ヲ得ズ

此等ノ室ニ於ケル空氣ノ量ヲ計算スルニ當リテハ十二才以下ノ小兒二名ヲ大人壹名ト見做スモノトス

第二十一條 第一章ノ規定ニシテ前條ノ規定ニ抵觸セザルモノハ此等ノ貸間ニ之レヲ適用スルノミナラズ猶又左ノ規定ヲ適用ス

普通室及ビ合宿室ハ適當ニ通風シ煙突若シクハ他ノ永久的通風機ヲ備フベキモノトス

便器ノ排泄孔口ハ永久的ノ密閉機ヲ備ヘ下降管内ノ空氣ト便所内ノ空氣トノ流通ヲ全然防止スル事ヲ要ス、便所ハ排泄ノ都度便器ヲ洗滌シ汚物ヲ流ガスニ足ル迫水ヲ生ズル爲メニ必要ナル水量ヲ便器ニ流スベキ設備ヲナスベキモノトス

第參章
此規則發布以後ニ建築セラルル家屋内ニ設クル家具附貸間

第二十二條 一人ニ對スル空氣ノ量ハ最少限廿「メートル」立方ト定ム

第二十三條 此等ノ貸間ハ又前記第廿二條ノ規定及ビ千九百〇二年八月十三日ノ大統領令及ビ「セーヌ」縣ノ衛生規則ノ規定ニ抵觸セザル限リ第壹章並ニ第貳章ノ規定ニ從フベキモノトス

第參節
傳染病ノ豫防

第二十四條 病氣ノ届出ー千九百〇二年二月十五日附法律第五條ニ基キ爲スベキ病氣ノ届出ハ醫視廳(衛生課)ニ宛差出スベキモノトス

第二十五條 患者ノ隔離ー届出ヲ要スル

傳染病ノ一ツニ罹リタル者ハ其病氣ヲ他人ニ傳染スル事能ハザル樣隔離スベシ患者ニ接近スベキ人々ハ傳染ヲ避クル爲メニ必要ナル豫防法ヲ採ルベキモノトス

如何ナル場合ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ於テ患者ノ看護ヲ爲ス事ヲ得ズ

第二十六條 患者ノ運搬ー屆出ヲ要スル傳染病ニ罹リタル患者ヲ普通ノ馬車ニテ運搬スル事ヲ得ザルモノトス

特別ノ場合ニ於ヲ萬一普通ノ馬車ヲ以テ傳染病患者ヲ運搬スル事アル時ハ其馬車ハ直チニ消毒スベシ

第二十七條 種痘、再種痘ー乳母、保姆若クハ里親ハ天然痘豫防ノ爲メニスル種痘ニ關スル法律ノ義務ヲ果タサヾル小兒ヲ預カル事ヲ得ザルモノトス

第二十八條 傳染病流行國ヨリ來ル旅人ー傳染病流行地ト公認セラレタル國ヨリ來ル旅人ハ巴里ニ列着後廿四時間以内ニ國境ニ於テ下付セラレタル檢疫證ニ自己ノ住所ヲ明記シ警視廳(衛生課)ニ送付スル事ヲ要ス檢疫醫ハ其人ノ健康狀態ヲ臨檢スベシ

第二十九條 船車ノ消毒ー旅客輸送ノ爲メ共用ニ使用スル輸送材料(乘合馬車鐵道車、船、鐵道列車、地下鐵道列車等)並ニ辻馬車ハ其筋ノ要求アル時ハ之レニ消毒ヲ施スベキモノトス

第三十條 死骸ノ運搬ー屆出ヲ要スル疫病ノ一ツニ罹リ死亡シタルモノヽ遺骸ハ「セーヌ」縣内ニアル墓地ノ一ツニ埋葬スルモノトス

遺骸ヲ阻水的ノ金屬製ノ棺ニ納ムルニアラザレバ縣ノ管轄地域内ニ於テ其距離ノ長短ニ係ハラズ運搬許可狀ノ下附ヲ受クル事ヲ得ズ

第三十一條 前記ノ規則ニ違反スル時ハ千九百〇二年二月十五日並ニ千九百〇三年四月七日附ノ法律ヲ適用シ所罰スルモノトス

第三十二條 第二部長、衛生總監督官、傳染病檢疫醫官、家具附貸間衛生監督官、交通運輸監督部長、市醫部長、巴里市醫察官及ビ其部下ニ屬スル巡査ハ各自其關係事項ニ於テ此令達ノ規則ヲ實行スベキモノトス本令ハ之レヲ公告シ且揭示スベシ

警視總監　レピートフ

警視總監ノ命ヲ奉ジ

書記官長　エーローラン

廣告目次

イ、井上水道工務所　一九
ロ、原安商會　一七
ニ、日本石綿盤株式會社　二四
日本コル株式會社　二六
ヘ、米國貿易會社　二一
ト、東松工作所　一八
オ、大阪窯業株式會社　二三
大阪煖房商會　二〇
大野式特許品營業所　一三
タ、高田商會　二一
ナ、土木建築内外材料合資會社　一五
ム、村井工業所　二八
ノ、野澤幸三郎　一九
マ、松尾和助商店　二五
ケ、建築事務所案内　四
建築請負業者案内　六
コ、コルク工業合資會社　一二
裏表紙表
エ、榮進社　一六
ア、秋山小林商店　二七
淺野スレート株式會社　二二
メ、明正社　（前）二
ミ、みよし組大阪支店　一〇
モ、木材商案内　一〇
セ、石材商案内　一四
ス、須賀商會　裏表紙裏
巢鴨製作所